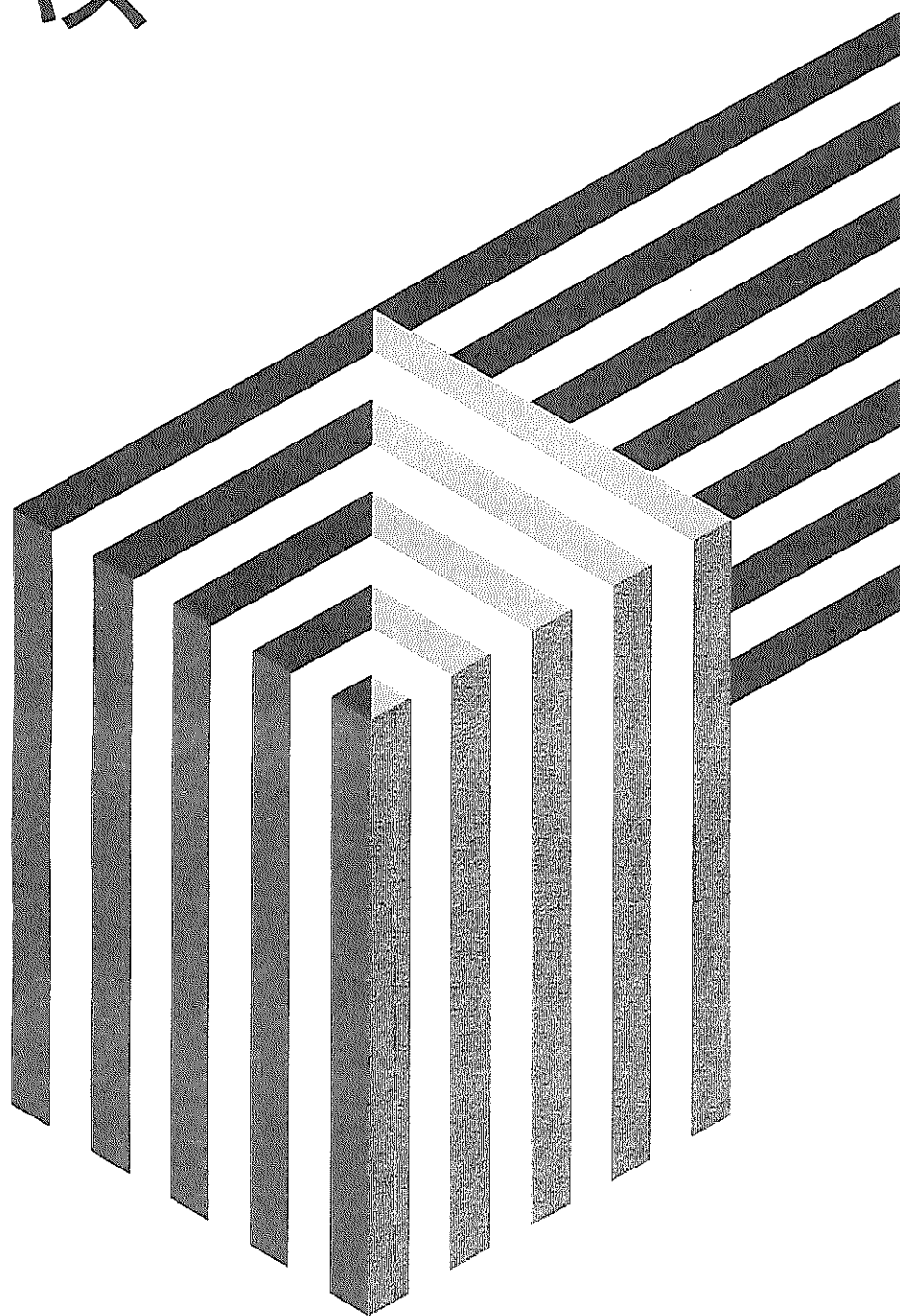


# 英語学科 シラバス



1994年度  
Dokkyo University

## 「英語学科シラバス」について

英語学科長

佐藤 勉

平成6年度から新カリキュラムが施行され、現代の国際社会のニーズに相応しい授業科目が設置され、いよいよ21世紀にむけた大学へと大きく始動することになった。

「基礎科目」、「共通科目」、「専門科目」という3科目群と「文学文化」、「言語情報」、「国際コミュニケーション」という3専門分野を横軸に、その専門分野をコース制にして縦軸とし、相互に系統的に関連を持たせて組み合わせることによって、より幅広い履修ができると共に、専門性をも一層高めつつ、縦横に選択をしながら学問を極めることができるように工夫されている。したがって学生は自ら希望する専門を中心に自主的にカリキュラムを編成していくことになる。このカリキュラムの編成に当たってこのシラバスが重要な役割を果たすということはいうまでもない。

英語学科ではすでに昨年からのシラバスを作成して学生的好评を得たが、このシラバスの作成には三つの目的がある。一つは教員が自らの授業に関して週単位の授業内容を公表することによって授業の質的な向上を計り、自己評価に資することができること、二つは学生がこのシラバスによって講義の内容を事前に的確に把握し、予習をして授業に主体的に参加することができること、そして三つ目は獨協大学が内外に向けて責任ある教育を行っているという宣言であることである。学生諸君がわれわれ教員の授業に対して深い関心を持って主体的に参加し、この有意義な冊子を効果的に利用してくれることを強く希望する。

## 目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度入学者用と、1993年度入学者用および、1992年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 科目名と指導教員名の上に [ ] で科目名が記載されている場合があります。これは、入学年度の異なるカリキュラムの科目と合併でおこなわれる授業です。

### 表示の仕方

[ ] 内 ( ) はこの科目名の適用するカリキュラムを示します。

(新) ……新カリキュラム；1994年度入学者に適用

(旧) ……旧カリキュラム；1993年度入学者に適用

(旧旧) ……旧旧カリキュラム；1992年度以前入学者に適用

# 目 次

—新カリキュラム—  
(1994年度入学者に適用)

## 「英語」部門

### 英語学概論

1	[ (旧) ・ (旧旧) 英語学概論 1 ]	神 尾 昭 雄	10
2	[ (旧) ・ (旧旧) 英語学概論 2 ]	川 崎 潔	12
3	[ (旧) ・ (旧旧) 英語学概論 3 ]	児 玉 仁 士	14
4	[ (旧) ・ (旧旧) 英語学概論 4 ]	清 水 由 理 子	16

### 英米文学概論

1	[ (旧) 英米文学概論 1 ]	(前期) 玉 井 東 助	18
		(後期) 原 成 吉	19
2	[ (旧) 英米文学概論 2 ]	(前期) 島 田 啓 一	20
		(後期) 玉 井 東 助	21

### 国際コミュニケーション概論

1	[ (旧) 国際コミュニケーション概論 1 ]	(前期) 佐々木 輝 美	22
		(後期) 阿 部 純 一	23
2	[ (旧) 国際コミュニケーション概論 2 ]	(前期) 阿 部 純 一	24
		(後期) 石 井 敏	25

### 英語音声学

1		(前期完結) 大 西 雅 行	26
2		(前期完結) 清 水 由 理 子	27
3		(後期完結) 大 西 雅 行	28
4		(後期完結) 清 水 由 理 子	27

### スピーチ・クリニック

1		(前期完結) 津 田 望	29
2		(前期完結) 津 田 望	29
3		(後期完結) 津 田 望	29
4		(後期完結) 津 田 望	29



# 目 次

— 旧旧カリキュラム —  
(1992年度以前入学者に適用)

## 「英語」部門

### 英 作 文

1 (和文英訳) .....	青 柳 明	40
2 (和文英訳) .....	青 柳 明	40
3 (和文英訳) .....	市 河 千代子	42
4 (和文英訳) .....	四 宮 満	44
5 (和文英訳) .....	中 村 粂	46
6 (和文英訳) .....	中 村 粂	48
7 (和文英訳) .....	野 本 浩 智	50
8 (和文英訳) .....	野 本 浩 智	52
9 (和文英訳) .....	野 本 浩 智	54
10 (和文英訳) .....	藤 田 永 祐	56
11 (エッセイ・ライティング) .....	阿 部 一	58
12 (エッセイ・ライティング) .....	E. Carney	60
13 (エッセイ・ライティング) .....	E. Carney	60
14 (エッセイ・ライティング) .....	G. S. Gorman	62
15 (エッセイ・ライティング) .....	C. J. Poel	64
16 (翻訳 I) .....	四 宮 満	66
17 (翻訳 I) .....	林 節 雄	68
18 (翻訳 II) .....	林 節 雄	70

### 英 会 話

1 Highly Advanced (Discussion) .....	E. Carney	72
2 Highly Advanced (Discussion) .....	T. Hill	74
3 Highly Advanced (Discussion) .....	N. H. Jost	76
4 Highly Advanced (ディベート) .....	阿 部 一	78
5 Highly Advanced (スピーチ) .....	大 川 道 代	80
6 Highly Advanced (通 訳) .....	鍋 倉 健 悦	82
7 Highly Advanced (通 訳) .....	阿 部 一	84
8 Advanced .....	D. Bradley	86
9 Advanced .....	J. J. Duggan	88
10 Advanced .....	A. R. Falvo	90
11 Advanced .....	T. J. Fotos	92
12 Advanced .....	I. Gomes	94
13 Advanced .....	T. Hill	74
14 Advanced .....	C. B. 池口	96
15 Advanced .....	N. H. Jost	98
16 Advanced .....	J. Thurlow	100
17 Advanced (スピーチ) .....	J. J. Duggan	102
18 Advanced (通 訳) .....	鍋 倉 健 悦	104

19 Intermediate	..... E. Carney	.....106
20 Intermediate	..... J. J. Duggan	.....108
21 Intermediate	..... A. R. Falvo	.....110
22 Intermediate	..... T. J. Fotos	..... 92
23 Intermediate	..... I. Gomes	.....112
24 Intermediate	..... G. S. Gorman	.....114
25 Intermediate	..... G. S. Gorman	.....116
26 Intermediate	..... K. Harris	.....118
27 Intermediate	..... T. Hill	.....120
28 Intermediate	..... C. B. 池口	.....122
29 Intermediate	..... N. H. Jost	.....124
30 Intermediate	..... N. H. Jost	.....124
31 Intermediate	..... D. M. Meyers	.....126
32 Intermediate	..... D. M. Meyers	.....126
33 Intermediate	..... L. Villeneuve	.....128
34 Intermediate	..... L. Villeneuve	.....130
35 Intermediate	..... J. J. Waldman	.....132

英文法

1	..... 児 玉 仁 士	.....134
2	..... 近 藤 ヒカル	.....136
3	..... 近 藤 ヒカル	.....138
4	..... 須賀川 誠 三	.....140
5	..... 府 川 謹 也	.....142
6	..... 三 好 健	.....144
7	..... 三 好 健	.....146

時事英語 I

1	..... 新 井 妥 門	.....148
2	..... 新 井 妥 門	.....150
3	..... 海老沢 達 郎	.....152
4	..... 海老沢 達 郎	.....154
5	..... 金 子 節 也	.....156
6	..... 工 藤 政 司	.....158
7	..... 長谷川 倫 子	.....160
8	..... 森 永 京 一	.....162

商業英語 I

1	..... 海老沢 達 郎	.....164
2	..... 海老沢 達 郎	.....166
3	..... 杉 山 晴 信	.....168
4	..... 杉 山 晴 信	.....170
5	..... 山 本 孝 夫	.....172
6	..... 横 井 正 利	.....174
7	..... 横 井 正 利	.....174

時事英語Ⅱ

1	新井 妥 門	176
2	長谷川 倫 子	178
3	森 永 京 一	180

商業英語Ⅱ

1	杉 山 晴 信	182
2	横 井 正 利	184

「英語学」部門

英語学概論

1	〔新〕・〔旧〕英語学概論 1	神 尾 昭 雄	10
2	〔新〕・〔旧〕英語学概論 2	川 崎 潔	12
3	〔新〕・〔旧〕英語学概論 3	児 玉 仁 士	14
4	〔新〕・〔旧〕英語学概論 4	清 水 由 理 子	16

英語史概説	近 藤 ヒカル	186
-------	---------	-----

英語音声学

1	大 西 雅 行	188
2	大 西 雅 行	188

英語文法論	府 川 謹 也	190
-------	---------	-----

英語学特殊講義

1 (意味論)	阿 部 一	192
2 (音韻論)	大 竹 孝 司	194

「英米文学」部門

イギリス文学概論

1	佐 藤 勉	32
2	富士川 和 男	34

アメリカ文学概論

1	(前期) 秋 山 武 夫	36
	(後期) 島 田 啓 一	37
2	香 取 豊	38

イギリス文学各論

1 (小説)	北 澤 滋 久	196
2 (演劇)	長谷部 加 寿 子	198
3 (小説)	藤 田 永 祐	200

アメリカ文学各論

1 (小説)	鈴 木 重 吉	202
2 (小説)	吉 元 清 彦	204

英米文学特殊講義

1 (英米の詩論)	園 部 明 彦	206
2 (英米の詩論)	(前期) 白 鳥 正 孝	208
	(後期) 原 成 吉	209



「英米文化」部門

英米文化論	福井嘉彦	210
英米の歴史		
1 (アメリカ史)	佐藤唯行	212
2 (英米の市民革命)	宮川淑	214
英米事情		
1 (現代イギリス)	T. Hill	216
2 (アメリカ文化)	M. A. Schible	218
英米の政治	宮里政玄	220
英米の経済	宮川淑	222
英米の法律	早坂裕子	224
英米文化特殊講義		
1 (植民地時代～現代)	佐藤唯行	226
2 (アメリカ外交論)	吉原欽一	228
コミュニケーション論特殊講義		
1 (スピーチ・コミュニケーション論)	石井敏	230
2 (マス・コミュニケーション論)	佐々木輝美	232
3 (異文化間コミュニケーション論)	町田喜義	234
国際関係論特殊講義		
1 (国際開発協力論)	竹田いさみ	236
2 (国際政治論)	竹田いさみ	238
3 (国際関係史)	中園和仁	240

## 英語学概論 1

担当者：神尾 昭雄

研究室：[503]

テキスト：Victoria Fromkin and Robert Rodmad: *An Introduction to Language* (1993; Fifth edition) Harcourt, Brace and Jovanovich 上記の教科書を使用する。

目 標：この授業の目的は現代の英語学とはどのようなものを学生に理解させ、特に言語学的な英語の分析がどのようにして行われるか、またその基礎がどのようなものであるのかを詳しく教えることにある。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
前 期	1 教科書の販売。授業のすすめ方。教科書の用い方。成績評価について。 座席の指定。
	2 教科書第1章について概説する。言語とは何か、ある言語を身につけるといことはどういうことか。文法とはどのようなものか。動物の言語と人間の言語。人間の言語の起源。
	3 教科書第2章について解説する。単語とはどのようなものか。形態素とは何か。 単語形成の規則。単語の発生。文法的形態素とは何か。
	4 教科書第3章前半について概説する。統語論とは何か。文の構造。句構造規則について。
	5 教科書第3章後半について概説する。語い目録とは何か。変形規則について。 文の構造再考。言語のタイプについて。
	6 これまでの講義内容についての復習のためのテスト第1回。
	7 第1回テストの返却と回答。教科書第4章前半について。単語の意味。 同義性と言い替え。反意語について。
	8 教科書第4章後半について。単語の意味と句および文の意味。意味論と統語論の関係。 意義と指示。イディオム。
	9 教科書第4章補足。語用論について。語用論とは何か。会話の含意。語用論と文の解釈。
	10 教科書第5章前半について。音声学とはどのようなものか。単音について。 調音音声学概説。
	11 教科書第5章後半について。韻律について。英語の母音・子音についてのまとめ。
	12 前期の講義のまとめ。復習のためのテスト第2回。
備考	前期期末試験は試験期間中に行う。教科書・ノートなどの持込みは一切不可。

週	内 容
1	前期試験の返却と回答。教科書第6章前半について。音韻論とはどのようなものか。音素について。音韻素性について。その他の基礎概念。
2	教科書第6章中半について。音節の構造。自然類について。英語音素の素性構造のまとめ。イントネーションと強勢。
3	教科書第6章後半について。音韻論の規則。復習のためのテスト第3回。
4	教科書第7章について。社会言語学とはどのようなものか。英語の方言について。黒人英語について。スラングについて。
5	教科書第8章前半について。言語の歴史的変化。英語の歴史的変化。音韻上の変化。形態素、語い、統語構造の変化。
6	教科書第8章後半について。言語変化のパターン。比較言語学について。言語の系統分類。世界の諸言語。
7	これまでの復習。テスト第4回。
8	教科書第9章について。書字言語について。アルファベットとその発達。
9	教科書第10章前半について。言語習得とはどのようなことか。言語習得の諸段階。言語習得についての仮説。言語の生物学的基礎。
10	教科書第10章後半について。手話言語。第2言語の習得。チンパンジーの言語について。
11	教科書第11章前半について。脳と言語。失語章。言語の進化。
12	教科書第11章後半について。人間の言語処理。言い間違いの分析。これまでの復習のためのテスト第5回。
備考	後期期末試験は試験期間中に行い、教科書・ノート等一切持込み不可とする。

評価方法：成績評価は、2回の期末試験および5回の復習テストに基き、さらに出席状況を加味する。  
(提出課題、試験等)

## 英語学概論 2

担当者：川崎 潔                      研究室：[603]

テキスト：永野芳郎「英語学要説」英宝社

目 標：Preset-day Englishの実態を音声と音素、形態と語、統語法、意味論の面から概観し、更に英語の系統と歴史の概要を学ぶ。授業ではテキストの理解に役立つ具体例の提示に努めたい。

年間予定    ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前           期	1	発声器官とその働き。英語の綴字と発音の乖離。万国音標文字
	2	基本母音図。標準英語の母音と子音。音節構造
	3	音素：文節音素と超分節音素
	4	形態，形態素，異形態
	5	語と語の分類：類語と機能語
	6	文の統語的な分析：変形生成文法
	7	語順：S-V-OとV-S-O 英語の語順を決定する一般的原則
	8	主語：文法的主語，論理的主語，心理的主語。話題と陳述 目的語：直接目的語と間接目的語，結果の目的語，同族目的語
	9	意味の基本的三角形 意味構造：色彩用語，親族用語
	10	語彙における意味構造，語における意味構造，文における意味構造 統語構造と意味構造
	11	同義語と反意語
	12	語彙の段階的構造（包摂性，非両立性）。語彙の下位区分
備考		

	週	内 容
後 期	1	印欧比較言語学, 印欧語族の系譜, ゲルマン語派, ゲルマン語派の音韻推移
	2	Vernerの法則。ゲルマン民族のブリテン島侵攻・定住。ルーン文字。古期英語の方言。ヴァイキングのイングランド侵攻・アルフレッド王。共通文章語
	3	古期英語の発音と形態
	4	古期英語の形態。i-Umlaut。古期英語の語順
	5	Norman Conquest. 中期英語の方言。標準文章語。フランス借入語, ラテン借入語。英語の回復
	6	変化語尾の水平化。中期英語の形態
	7	中期英語の語順と統語法
	8	中期英語の発音と綴字
	9	大母音推移。初期近代英語の発音
	10	初期近代英語期のギリシア, ラテン借入語。英訳聖書とW. Shakespeare の英語
	11	英語の洗練と確定への努力 (J. Dryden, J. Swift, S. Johnson) <u>The Oxford English Dictionary</u>
	12	統語法の変遷 (拡充形など)
備 考		

評価方法：前期末と後期末のテストで評価する。

(提出課題、試験等)

## 英語学概論 3

担当者：児玉 仁士

研究室：[614]

テキスト：E. M. Heatherington: *How Language Works* (英語学入門), 金星堂

目 標：まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語がもっている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能をもっているのかを、概観したい。
2	第1章：言語および言語行為 1)伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2)言語の特性
3	3)言語記号の2面性・恣意性・線状性 4)言語研究の分野・方法
4	第2章：英語の音声 1)言語音声 2)言語音声の記述：音声学・音韻論
5	3)音声表記・音素表記：万国表音文字、精密表記・簡略表記 4)発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5)音声の分類：母音と子音、有声音・無声音
6	6)母音の分類と種類 7)子音の分類と種類
7	8)音節・強勢/弱勢・アクセント・音調 9)音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化
8	10)リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型
9	第3章：英語の意味 1)「意味」とは？ 2)意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論
10	3)言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4)意味の分析：Osgoodの「意味微分法」とKatz/Forderの「意義素性分析」
11	5)意味の同一性：外延的・内包の意味 6)意味の多義性：辞書の語義
12	7)意味の具象性と抽象性：Hayakawaの「抽象の過程」 8)意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上
備考	広範囲にわたるトピックを扱うので、テキストと並行して、かなりのプリントを参考資料として用いることになるだろう。

週	内 容
1	第4章：英語の文法 1)「文法」の概念・その変遷 2)文法の研究の方法・その種類
2	3)文法の記述の対象：形態論・統語論 4)規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準
3	5)科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersen の文法
4	6)構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析
5	7)変形生成文法：Chomsky の理論とその変遷
6	第5章：英語の歴史 1)インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語派での位置：Grimm の音韻法則
7	2)英語史の時代区分とイギリスの歴史（特に、アングロ・サクソン期および中期）
8	3)西ゲルマン諸語（フリジア語・オランダ語・ドイツ語）と英語との比較：第2次子音推移 4)英語とフリジア語の類似性
9	5)英語の階級方言・社会方言 6)古期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）
10	7)中期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）：Chaucer の英語、大母音推移
11	8)近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeare の英語
12	9)アメリカ英語 10)英語の辞書：編纂とその歴史
備考	

評価方法：評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとるの（出勤、欠席等）で、それも総合評価に加味したい。





週	内 容
1	前期試験の答案返却と講評 意味論 (1) 語の意味とは何か。 (第7章A)
2	意味論 (2) 意味におけるさまざまな関係。 (第7章A)
3	語用論 (第7章B)
4	英語史 (1) ブリテン島の歴史と言語
5	(2) 古期英語の文字と発音
6	(3) 古期英語の語彙と文法
7	(4) 中期英語の時代的背景
8	(5) 中期英語の綴りと発音
9	(6) 中期英語の語彙と文法
10	(7) 近代英語の特徴
11	(8) アメリカ英語の特徴
12	まとめ。
備考	英語史については第8章～第10章を参照。

評価方法：評価は、前期・後期の定期試験結果を中心に出すが、各学期に数回quizを行い（解答は翌週の授業中に行う予定）、最終評価の際に参考とする。



担当者：(後期)原 成吉

研究室：[631]

テキスト：『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房）

目 標：アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題を「ここ  
していま」の視点からとらえることで、アメリカ文学の魅力を伝える。講義は、  
それぞれのテーマごとに、できるだけ具体的な作品を読みながら進めたい。

	週	内 容
後 期	1	アメリカ文学の特徴について（序論）
	2	ネイティブ・アメリカンの文学
	3	土地が作る文学
	4	デモクラシーと文学
	5	戦争と文学
	6	マルチ・カルチャリズムと文学（1）黒人作家
	7	マルチ・カルチャリズムと文学（2）ユダヤ系の作家
	8	フェミニズムと文学
	9	カウンター・カルチャと文学
	10	音楽と文学
	11	演劇と文学
	12	映画と文学
備 考		

参考文献：(前期) Ifor Evans: *A Short History of English Literature* (Pelican)

(後期) 各テーマごとに別途指示する。

評価方法：(前期) 期末試験による。

(提出課題、試験等) (後期) 定期試験の結果と出席状況によって決める。

## 英米文学概論 2

担当者：(前期) 島田 啓一

研究室：[617]

テキスト：未定(プリント)

目 標： 独断と偏見で選択した「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説の抜粋、短編小説、詩などを実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前           期	1	アメリカ文学の特徴と魅力：The American Adam/American Dream/Multiculturalism/ 創世期のアメリカ文学について概説。
	2	ホーソンとメルヴィルの時代(1)：Nathaniel HawthorneとHerman Melvilleについて概説。Melvilleの <u>Bartleby, the Scrivener</u> を読む。
	3	ホーソンとメルヴィルの時代(2)： <u>Bartleby, the Scrivener</u> を読む(続)。
	4	19世紀の詩：E. A. Poe/Walt Whitman/Emily Dickinsonの詩を数編読み論考。
	5	「国民作家」サミュエル・クレメンズ：Mark Twainの <u>The Adventures of Huckleberry Finn</u> (抜粋)を読む。
	6	リアリズムからモダニズムへ(1)：米文学のリアリズムとモダニズムについて概説。William Faulknerの短編“ <u>That Evening Sun</u> ”を読む。
	7	リアリズムからモダニズムへ(2)：Faulknerの長編 <u>The Sound and the Fury</u> のBenjyのセクションを一部読み、モダニズム的手法を体験。
	8	リアリズムからモダニズムへ(3)：Hemingwayの <u>The Sun Also Rises</u> とFitzgeraldの <u>The Great Gatsby</u> の抜粋を読み、論考。
	9	マルチ・カルチャリズム(1)：アフリカ、アジア系などエスニックな作家達に言及し、WrightからMorrisonまでの黒人作家の系譜に対する論考。
	10	マルチ・カルチャリズム(2)：Bellow/Malamud/Philip Roth等のユダヤ系作家に対する論考。Rothの“ <u>Conversion of the Jews</u> ”を読む。
	11	マルチ・カルチャリズム(3)：Bernard Malamudの“ <u>The Jewbird</u> ”を読む(作家自身が朗読したテープを聞く予定)。
	12	戯曲と現代詩：Eugene O’Neil/T. S. Eliot/William Carlos Williams等の作品を一部読む。20世紀の戯曲や詩に対する概説。
備考		

担当者：(後期) 玉井 東助                      研究室：[628]

テキスト：特定のテキストは使用しない。必要に応じてプリントを配る。

目 標：イギリス文学のあらましを紹介し、その面白さを味わうための道案内をする。  
作品に「ついて」の解説はなるべく避け、できるだけ作品そのものの見本を、  
毎時間たとえ少しでも、読んでもらうように努める。

週	内 容
1	序にかえて、学問へのいざないを試みる。話の主題は次のようなこと。学者と物議り。生活の中にある教養。地に足のついた学問。人生のための文学。
2	イギリスという国。先住民族。ローマン・ブリテン。イギリス文学の概略の歴史。
3	イギリス文学の始まり。詩と散文とどちらが先か。日本の文学と較べて考える。詩の話(その一)。
後	4 詩の話(その二)。
	5 詩の話(その三)。
	6 詩の話(その四)。
	7 劇の始まり。劇場のこと。時代によるその形の変化。劇の話(その一)。
	8 劇の話(その二)。
期	9 散文の文学。随筆の始まり。随筆の話(その一)。
	10 随筆の話(その二)。
	11 小説の始まり。ロマンスとノヴェル。小説の話(その一)。
	12 小説の話(その二)。
備 考	

参考文献：(後期) Ifor Evans: *A Short History of English Literature* (Pelican)

評価方法：(前期) ほぼ毎回実施する予定の読書範囲に関する小テスト(40%)と定期  
(提出課題、試験等) 試験の結果(60%)をもとにする予定。

(後期) 期末試験による。

## 国際コミュニケーション概論1

担当者：(前期) 佐々木 輝美      研究室：[620]

テキスト：プリント

目 標：インターパーソナル・コミュニケーション，スピーチ・コミュニケーション，マス・コミュニケーション，そして異文化コミュニケーションに関する基本用語を説明することができ、かつ具体的なコミュニケーション現象を説明できるようになることを目標とする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	「何故言葉ができてでも誤解が生じるのか？」という疑問に答えながら、コミュニケーション学の必要性について説明する。
	2	コミュニケーションモデル①：基本的なコミュニケーション・モデルを引用しながら、モデルの落とし穴について説明を行う。
	3	コミュニケーションモデル②：モデルから読み取れるコミュニケーションの要因について。
	4	コミュニケーションに関する諸研究領域と相互の関係について。 ーマイクロレベルからマクロレベルまでー
	5	インターパーソナル・コミュニケーションについての基本用語・理論について。 <span style="float: right;">(レポート課題発表)</span>
	6	スピーチ・コミュニケーションについての基本用語・理論について。
	7	ビデオ視聴(スピーチ・コミュニケーションについて) & 解説 <span style="float: right;">(レポート提出締切り)</span>
	8	マス・コミュニケーション①：送り手の視点から、影響の流れ、情報の流れ研究について説明する。
	9	マス・コミュニケーション②：受け手の視点から、利用と満足の研究について説明する。
	10	異文化コミュニケーション①：カルチャーショック、ステレオタイプ、偏見、差別について。
	11	異文化コミュニケーション②：ノンヴァーバル・コミュニケーションについて。
	12	まとめ
備考		レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。

担当者：(後期) 阿部 純一

テキスト：授業開始後、参考文献とあわせて紹介する。

目 標：現代国際社会の形成過程、構造、問題点の分析を通じて、今後、国際関係を学んでいく上で必要とされる基礎知識を修得する。

週	内 容
1	学問としての国際関係論と、その研究対象・アプローチ
2	国際関係論の成立契機と問題意識
3	現代国際関係の展開 (I) 第二次大戦の終結～米ソ冷戦の開始
後 4	現代国際関係の展開 (II) 米ソ平和共存の時代
5	現代国際関係の展開 (III) 冷戦終結への軌跡
6	システムとしての国際関係
7	国際関係における戦争と平和 (I) 現代の国際紛争
8	国際関係における戦争と平和 (II) 核時代の安全保障
期 9	国際関係の経済学 (I) 南北対立から相互依存の時代へ
10	国際関係の経済学 (II) 地域統合と経済摩擦
11	現代国際関係の直面する諸問題
12	(予備日)
備 考	講義内容の順序は、必要に応じて変更する場合がある。

参考文献：(前期) P. W. ビー著 町田喜義他訳『モザイクの狂気—異文化に悩むカナダ』南雲堂 1994

橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』桐原書店 1993

評価方法：(前期) 前期の授業では可能な限り発表も行い、学生諸君の授業参加を重視したい。

(課題、講義) 従って、平常点(10%)、レポート(30%)、定期試験(60%)の総合評価を行う。

(後期) 論述筆記試験(自筆ノートに限り持ち込み可。コピー不可)

## 国際コミュニケーション概論2

担当者：（前期）阿部 純一

テキスト：授業開始後、参考文献とあわせて紹介する。

目 標：現代国際社会の形成過程、構造、問題点の分析を通じて、今後、国際関係を学んでいく上で必要とされる基礎知識を修得する。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

	週	内 容
前 期	1	学問としての国際関係論と、その研究対象・アプローチ
	2	国際関係論の成立契機と問題意識
	3	現代国際関係の展開（Ⅰ）第二次大戦の終結～米ソ冷戦の開始
	4	現代国際関係の展開（Ⅱ）米ソ平和共存の時代
	5	現代国際関係の展開（Ⅲ）冷戦終結への軌跡
	6	システムとしての国際関係
	7	国際関係における戦争と平和（Ⅰ）現代の国際紛争
	8	国際関係における戦争と平和（Ⅱ）核時代の安全保障
	9	国際関係の経済学（Ⅰ）南北対立から相互依存の時代へ
	10	国際関係の経済学（Ⅱ）地域統合と経済摩擦
	11	現代国際関係の直面する諸問題
	12	（予備日）
備 考		講義内容の順序は、必要に応じて変更する場合がある。



担当者：(後期) 石井 敏

研究室： [ ]

テキスト：Klopf, D. & Ishii, S. Communicating Effectively Across Cultures.  
南雲堂 その他プリント配布。

目 標：外国語学習の究極の目標は、異文化間の相互理解を促進することである。そこで、異文化間コミュニケーションの諸問題の原因と改善策を概説する。

週	内 容
1	科目の目標の再確認、講義方法、受講上の注意、評価方法についての説明。異文化間コミュニケーションの重要性についての解説(教科書1~10頁)。
2	人間コミュニケーションに関する一般概念、対人レベルのモデルと過程及び構成要素、各構成要素の機能等についての考察(教科書11~18頁)。
3	文化の定義、一般概念モデルと構造及び構成要素、文化とコミュニケーションの相関関係等についての考察(教科書18~21頁)。
後	4 異文化間コミュニケーションの概念とモデルの紹介。「異文化間」、「国際」、「異人種間」、「異民族間」等の概念の比較検討(教科書21~28頁)。
5	コミュニケーションにおけるシンボルの機能についての解説。言語メッセージと文化の関係、意味の問題等についての考察(教科書29~36頁)。
6	コミュニケーションにおける非言語メッセージの役割の説明。非言語メッセージの分類、文化との関係等の比較文化的考察(教科書36~46頁)。
7	コミュニケーションにおける知覚の心理的問題、知覚の概念と過程、文化が知覚に及ぼす影響等についての心理的分析(教科書48~51頁)。
8	自己の概念とコミュニケーションにおける自己知覚についての解説。文化と自己知覚、特に日本人の自己知覚の心理的考察(教科書52~55頁)。
期	9 コミュニケーションにおける要求の重要性と対人要求についての一般的解説。日本人の対人要求の特徴と問題の心理的分析(教科書55~59頁)。
10	精神文化の核となる価値と信念の概念の明確化。異文化間コミュニケーションにおける両者の分析と考察(教科書59~64頁)。
11	態度の心理的 concept の明確化。異文化間コミュニケーションにおける態度、ステレオタイプ、偏見等の問題の分析と考察(教科書64~69頁)。
12	文化と対人役割の関係、異文化間コミュニケーションにおける対人役割の比較文化的考察。(教科書69~75頁)。今期の全講義の総復習
備考	受講の学生は、教科書の指定箇所を必ず予習してから出席すること。各講義は、学生の予習を前提として進められる。

参考文献：(前期)

(後期) 石井敏他 『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣。

鍋倉健悦編著『日本人の異文化コミュニケーション』北樹出版。

評価方法：(前期) 論述筆記試験(自筆ノートに限り持ち込み可。コピー不可)

(提出課題、試験等)(後期) 評価は、出席状況、課題レポートと学期末試験の結果による。

# 英語音声学 1

半期完結（前期）

担当者：大西 雅行

研究室：[602]

テキスト：なし

目 標：英語の音声特徴を解説し、それが正しく、容易に発音できるよう指導する。  
日本人が間違いやすい音や、むずかしい発音は重点的に説明し、訓練する。

予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	発音器官の働きと発声・発音練習
2	日米の母音比較
3	日本人にむずかしい母音
4	英語の子音
5	間違いやすい子音
6	変化する音
7	弱くなったり、聞えなくなる音
8	つながる音。ひとつになる音
9	英語のリズムとアクセント
10	アクセントの構造
11	イントネーション
12	目立つ音
備考	

評価方法：テストは7月に行う。

## 英語音声学 2・4

半期完結（前期・後期）

担当者：清水 由理子                      研究室：[636]

テキスト：堀口俊一監修『現代英語音声学』 英潮社

目 標：英語の音声についての基礎を学ぶ。英語を聞いて理解したり、話したりする時、また、教職に就き英語の発音指導をする時の助けとなるよう、米音・英音の特徴を日本語とも比較しながら講義する。

予定 ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容	
前	1	授業内容の説明。音声学とはどのようなことを扱う分野か。 音声表記について。(テキスト：Chapter Iを参照)	
	2	音素とは何か。音素と音声表記の関連。 調音器官と発声の仕組み。(Chapter I, Exercises)	
	3	母音の特徴と分類。基本母音とは何か。 英語の前母音について。(Chapter II)	
	4	英語の中央母音と後母音について。 (Chapter II, Exercises)	
	5	二重母音について。(Chapter III, Exercises) 子音の特徴と分類。(Chapter IV)	
後	6	英語の閉鎖音、摩擦音、破擦音について。(Chapter IV)	
	7	英語の鼻音、側音、半母音について。(Chapter IV, Exercises)	
	8	子音群とは何か。英語における子音群の特徴。(Chapter V)	
	期	9	音の変化について。音の連結、音の脱落、音の同化、強形と弱形などを扱う。 (Chapter VI, Exercises)
		10	強勢とリズムについて。(Chapter VII, Exercises)
		11	接続と抑揚について。特に、感情と抑揚の関連性、および基本的な抑揚の型。 (Chapter VIII, Exercises)
		12	まとめ
備考			

評価方法：半期完結科目であるので、学期末の試験結果により評価する。ただし、quizを時々行い、評価の際に参考とする。

# 英語音声学 3

半期完結（後期）

担当者：大西 雅行                      研究室：[602]

テキスト：なし

目 標：英語の音を正しく身につけるよう英語の音声現象を整理し、解説する。

予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
後 期	1	発音に必要な器官
	2	日本語と英語の母音比較
	3	やさしい母音とむずかしい母音
	4	子音の種類と分類法
	5	日米の子音比較
	6	区別しにくい子音
	7	変化する子音。置き換える音
	8	弱くなる音。消える音
	9	つながる音。長短のある音
	10	英語のアクセント
	11	英語のリズム
	12	英語のイントネーション
備考		

評価方法：1月に1回テストを行う。

# スピーチ・クリニック1・2・3・4

半期完結（前期・後期）

担当者：津田 望

目 標：本講義はLSを使用し、英語音の発音とhearingの改善にむけて、①子音、母音の単音および語中音の発音練習、②hearingと発音のcontrast練習、③intonation等のパターン学習などを目的とする。コースと平行し、パソコンによる音声グラフ分析表記で、native音との比較を個別に行なう予定である。

予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	①単音および語中音練習（子音－破裂音：/p, b, t, d, k, g/、母音－前母音/i, i:, e/ ②上記音の発音とhearingのcontrast練習 ③上記音のintonation練習
2	練習：1週目と同じ。 練習した音に関するquiz
前	3 ①（子音－歯唇摩擦音：/f, v/） （母音－前方母音：/e, æ/）
4	練習：3週目と同じ。 練習した音に関するquiz
5	①（子音－歯摩擦音：/θ, ð/、歯茎摩擦音：/s, z/） （母音－中央母音：/a, ʌ/）
後	6 練習：5週目と同じ。 練習した音に関するquiz
7	①（子音－歯茎軟口蓋摩擦音：/ʃ, ʒ/、破擦音：/tʃ, dʒ/） （母音－中央母音：/ə, ø, ə:/）
8	練習：7週目と同じ。 練習した音に関するquiz
期	9 ①（子音－側音：/l/、半母音：/r/） （母音－後方母音：/u:, U/）
10	練習：9週目と同じ。 練習した音に関するquiz
11	①（子音－鼻音：/m, n, ŋ/、半母音：/w, j/） （これまで練習した母音の復習）
12	練習：11週目と同じ。 これまで練習した全ての音に関するquiz
備考	②contrast練習と③intonation練習は、①と同様に毎週行なう。

評価方法：毎回の授業への貢献度と出席頻度、及びquizの最終評価点により決定する。



	週	内 容
後 期	1	文章解析（3）：文章の文字数分布 例示プログラムを使って、文書中の文章の文字数分布表を作る。
	2	文章解析（4）：表計算ソフトの利用 表計算ソフト（MS-Excel）を利用して、文字数分布表をグラフにする。
	3	文章解析（5）：MS-Word と MS-Excel のリンク 表組とグラフを使って、ワープロと表計算のソフト間のデータ連携を学ぶ。
	4	文章解析（6）：単語データベース作成 文書中の単語のデータベースを作成する。
	5	文章解析（7）：品詞による単語データベースの検索 指定した動詞およびその変化を検索・抽出する。
	6	文章解析（8）：単語の使用頻度 単純集計により、単語別の使用頻度をカウントする。
	7	文章解析（9）：文章データベース作成 文書中の文章のデータベースを作成する。
	8	文章解析（10）：文章データベースの検索 指定した動詞およびその変化を含む文章を検索・抽出する。
	9	情報検索の応用（1）：図書館の利用 本学図書館の情報を検索する。
	10	情報検索の応用（2）：参考資料の作成 図書館情報から、個人用の参考資料を作成する。
	11	パソコン通信（1）：パソコン通信接続法 パソコン通信とは何か、またそのアクセスの方法等を学ぶ。
	12	パソコン通信（2）：外部データベースの利用 パソコン通信を使って、外部データベースから情報を得る。
備考		

評価方法：評価は、定期試験に替わる前・後期各1回の実習試験と、同じく前・後期各（製出課題、試験等）2回程度のレポートおよび、出席を加味して行う。





週	内 容
1	Genre について—Aristotle の <i>Poetics</i> や Northrop Frye の Genre について。叙事詩, Homer の <i>Illiad</i> 及び <i>Odyssey</i> , J. Milton の <i>Paradise Lost</i> まで。
2	叙事詩, C. Marlowe の "Passionate Shepherd to His Love" 及び M. Drayton の "Idea" を紹介、分析する。
3	Drama の始まり、ギリシアの演劇, イギリスの演劇—中世からルネッサンスへ。エリザベス朝演劇について。University Wits から Shakespeare へ。
4	Shakespeare の 4 大悲剧— <i>Hamlet</i> , <i>Macbeth</i> , <i>Othello</i> , <i>King Lear</i> を取り上げる名場面, 名台詞を紹介する。
5	前の授業の継続—及びその他の Shakespeare の劇について。喜劇, 歴史劇など。文芸思潮について概括をする。
6	Renaissance の特徴をイギリスを中心にみる。Chaucer, Spenser, Marlowe, Shakespeare, Donne と続く英詩の伝統を具体的な詩を例に解説する。
7	Metaphysical Poets の詩の特徴を J. Donne の <i>Holy Sonnets</i> No. 14 を引用し、分析する。さらに古典主義の詩人たち—J. Dryden, A. Pope などに言及する。
8	Romanticism, 特にイギリスを中心に W. Blake, R. Burns, W. Wordsworth, S. T. Coleridge などの初期の詩人たちを扱う。また <i>Lyrical Ballads</i> の "Preface" に言及する。
9	L. G. Byron, J. Keats, など後期ロマン派の詩人たちを扱う。文学と思想, 革命, 社会情勢と 言う点から Byron, Shelley を、文学と創造力, 芸術と美意識との関係から Keats を見る。
10	イギリスの小説の流れ—物語から小説へ—D. Defoe, J. Swift, H. Fielding などに言及し 近代小説の流れを追う。
11	小説の分類, 形態, 特徴など, 文学の祖型などに触れる。女流作家—J. Austen, Brontë 姉妹, G. Eliot など比較的好く知られた小説に触れる。特に <i>Wuthering Heights</i> を扱う。
12	短編小説の分析とその面白さについて—意識の探求と実験—J. Joyce, D. H. Lawrence, など, 特に彼らの短編を中心に講義する。時間があれば J. Thurber, E. A. Poe, O. Henry, など。
備 考	1 受講者は必ず授業に出席して notetaking すること。2 時にレポートの提出を求めることが ある。3 エリザベス朝演劇の授業は次の週に跨ることがある。

参考文献: *The World's Great Literature*, P. H. Houston & J. K. Bonnell, Doubleday, Doran & Co., 1919  
*English Literature*, William J. Long, Ginn & Co., 1964.  
*History of English Literature*, E. E. Legouis & L. Cazamian, J. M. Dent & Sons, 1960.  
*The Concise Cambridge History of English Literature*, George Sampson, C. U. P., 1970.  
*Theory of Literature*, Rene Wellek & A. Warren, Harcourt, Brace & Co., 1953.

評価方法: 試験は前期と後期の2回行う。

(出題、講義) 評価方法は主に試験と出席 (毎回取れたらのこと) などによる。



週	内 容
1	続き：（ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオットほか）
2	小説（後期；ハーディほか）
3	世紀末文学（ワイルド）
4	19世紀から20世紀へ（ハウスマン、ハーディ、イエイツの詩、ヘンリ・ジェイムズ、コンラッドの小説）
5	20世紀文学前期（1）：T. S. エリオット、ヴァージニア・ウルフ、ジョイスの革進性。
6	20世紀文学前期（2）：劇；G. B. ショウ、シングほか 小説；D. H. ロレンス、E. M. フォースター
7	20世紀文学前期（3）：第1次大戦とスペイン内戦
8	20世紀文学後期（1）：イヴリン・ウォー、グレアム・グリーン
9	20世紀文学後期（2）：怒れる若者たち
10	20世紀文学後期（3）：シリトウ、ゴールディングの小説、第2次大戦後の詩人たち
11	20世紀文学後期（4）：サムエル・ベケットの不条理性
12	イギリス文学総括と最近の文学事情
備考	

参考文献：特に指定しないが、イギリス文学史を1冊読んでおけば理解が深まるう。

評価方法：試験（前・後期各1回）

（従出課題、試験等）

## アメリカ文学概論 1

担当者：(前期) 秋山 武夫                      研究室：[622]

テキスト：ジャック・カポー 『喪われた大草原』 (太陽社)

目 標： アメリカ文学の流れ、変化、思潮を概説した後、植民地時代から19世紀後半までの主要作家の代表作を論じる。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	アメリカ文学はどのような特徴を持つのか、その発生の時期から現代まで、数人の作家、作品をとりあげて、序論とする。
	2	アメリカ文学の源流となったピューリタニズムとはどのようなものを述べ作家たちにどのような影響を及ぼしたかを語る。
	3	ベンジャミン・フランクリンの『自叙伝』、クェーカー教徒ジョン・ワールマンの『日記』を論じる。
	4	ワシントン・アーヴィングの代表作『スケッチブック』とW.F.クーパーの代表作「革脚絆物語」五部作を概説する。
	5	ユニテリアン主義と超絶主義を論じ、その代表的人物エマーソンの作品とH.D.ソーローの『森の生活』について述べる。
	6	天才E.A.ポーの詩、詩論、短編小説について述べる。
	7	N.ホーソーンの代表作『緋文字』と短編小説について述べる。
	8	H.メルヴィルの作家としての姿勢を語り、代表作『白鯨』について述べる。
	9	『草の葉』の詩人W.ホイットマンの特徴について語る。
	10	国民作家マーク・トゥエンの『ハックルベリーフィンの冒険』と中、短編小説について語る。
	11	ヨーロッパ、アメリカ両大陸にまたがる作家ヘンリー・ジェームズの『ある婦人の肖像』と中、短編。
	12	女流詩人エミリー・ディッキンソンの詩を読みながら、このユニークな詩人の特徴を語る。
備 考		

担当者：(後期) 島田 啓一

研究室：[617]

テキスト：

目 標：

	週	内 容
後 期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備 考		

## アメリカ文学概論 2

担当者：香取 豊

研究室：[607]

テキスト：なし

目 標： 歴史の流れに於けるそれぞれの時期の社会的風潮と文学が如何に関わり合  
って来たか、また小説が如何に変化をとげて来たかを主要な作家の生涯及び  
作品を通して述べてゆく。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
前           期	1 植民地時代から18世紀へ P u r i t a n i s m
	2 18世紀後半から19世紀へ W a s h i n g t o n I r v i n g
	3 J a m e s F e n i m o r e C o o p e r
	4 E d g a r A l l a n P o e
	5 R a l p h W a l d o E m e r s o n H e n r y D a v i d T h o r e a u
	6 N a t h a n i e l H a w t h o r n e
	7 H e r m a n M e l v i l l e
	8 リアリズム文学発生期 M a r k T w a i n
	9 リアリズムの抬頭 W i l l i a m D e a n H o w e l l s , A m b r o s e B i e r c e
	10 H e n r y J a m e s
	11 H a m l i n G a r l a n d E d i t h W h a r t o n
	12 リアリズム成長期(前) 自然主義
備 考	

週	内 容
1	Stephen Crane Frank Norris
2	Ellen Glasgow Jack London
3	Theodore Dreiser
4	Muckraking movement Upton Sinclair, Willa Cather
5	Willa Cather Sherwood Anderson
6	Sherwood Anderson リアリズム成長期(後), 芸術運動
7	Lost Generation 1930年代概観, Sinclair Lewis
8	Sinclair Lewis Francis Scott Key Fitzgerald
9	John Dos Passos
10	Ernest Hemingway
11	William Faulkner
12	John Steinbeck
備考	

参考文献： 特になし

評価方法： 前期及び後期試験の合計点により評価する。

(提出課題、試験等)

# 英作文1・2

和文英訳

担当者：青柳 明

テキスト：『自然な英語表現演習』

目 標：我々の身近な生活に関係のあるトピックに関して英作文を行う。日米両語の発想上の違い及び表現の相違点を認識し、日本人がよく犯す間違いに触れていく。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	第1回目の授業では講義概要の説明を行い、与えられたタイトルで簡単な英作文を書く。
	2	第2回目の授業では「旅行」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第1章 pp.10-11)
	3	第3回目の授業では第2回目に続き「旅行」に関する英作文を行う。 (教科書：第1章 pp.12-13)
	4	第4回目の授業では「言語」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第2章 pp.17-18)
	5	第5回目の授業では第4回目に続き「言語」に関する英作文を行う。 (教科書：第2章 pp.19-21)
	6	第6回目の授業では「産業・公害」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第3章 pp.24-25)
	7	第7回目の授業では第6回目に続き「産業・公害」に関する英作文を行う。 (教科書：第3章 pp.26-27)
	8	第8回目の授業では「科学」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第4章 pp.32-33)
	9	第9回目の授業では第8回目に続き「科学」に関する英作文を行う。 (教科書：第4章 pp.33-36)
	10	第10回目の授業では「読書」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第5章 pp.40-42)
	11	第11回目の授業では第10回目に続き「読書」に関する英作文を行う。 (教科書：第5章 pp.42-44)
	12	第12回目の授業では「日常生活」に関する内容英作文を行う。 (教科書：第6章 pp.48-49)
備考		



	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では前期第12回目につき「日常生活」に関する英作文を行う。 (教科書：第6章 pp. 50-52)
	2	第2回目の授業では「社会」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第7章 pp. 56-58)
	3	第3回目の授業では第2回目につき「社会」に関する英作文を行う。 (教科書：第7章 pp. 58-60)
	4	第4回目の授業では「健康・病気」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第8章 pp. 64-65)
	5	第5回目の授業では第4回目につき「健康・病気」に関する英作文を行う。 (教科書：第8章 pp. 65-69)
	6	第6回目の授業では「風景・自然」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第9章 pp. 70-71)
	7	第7回目の授業では第6回目につき「風景・自然」に関する英作文を行う。 (教科書：第9章 pp. 72-74)
	8	第8回目の授業では「文化・文明」に関する内容の英作文を行う。 (教科書：第10章 pp. 78-80)
	9	第9回目の授業では第8回目につき「文化・文明」に関する英作文を行う。 (教科書：第10章 pp. 80-82)
	10	第10回目の授業ではparagraph recognition の練習を通して、英文 paragraph の特徴を学ぶ(プリント教材)。
	11	第11回目の授業では第10回目につき英文paragraph の特徴を学び、簡単な paragraph writing を行う(プリント教材)。
	12	第12回目の授業では第11回目の授業で行ったparagraph writing へのコメントを行う。
備考		

参考文献： 授業時に指示する。

評価方法： 評価は前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスへの参加を重要視するので、積極的に参加すること。

# 英作文3

和文英訳

担当者：市河 千代子

テキスト：木塚晴夫, Roger Northridge; Common Errors in English Writing

目 標：日本語から出来るだけはなれ、英語で考え随筆を書くコースである。随筆の内容がいくらよくても文法が弱いのは困るから、上記のテキストを用いる。  
授業は学生の書いた作品をクラス全員で批評し、次に書く作品の参考にする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	授業の内容を説明し、質問があればそれに答える。
	2	essay writing に当り、心得ておく必要のあることを英文で読み、基礎知識をかためる。
	3	与えられた題でessay を書く。
	4	前の週に書いたessay を全員で批評する。
	5	テキスト units 1, 2, 3をマスターする。
	6	essay を書く。
	7	前の週に書いたessay の批評。
	8	テキスト units 4, 5, 6をマスターする。
	9	essay を書く。
	10	前の週に書いたessay の批評。
	11	テキスト units 7, 8, 9, 10をマスターする。
	12	テキスト 1 より 10 までの範囲で試験。
備考		

	週	内 容
後 期	1	essay を書く。
	2	essay の批評。
	3	テキスト units11, 12, 13
	4	essay を書く。
	5	essay の批評。
	6	テキスト14, 15, 16
	7	essay を書く。
	8	essay の批評。
	9	テキスト17, 18, 19, 20
	10	essay を書く。
	11	essay の批評。
	12	テキスト11より20までの範囲で試験
備 考		

参考文献：Writing with a Purpose by James M. Mc Crimmon

評価方法： 提出されたessay の点数と、テキストの試験の点数、に出欠及び遅刻を、  
(提出課題、試験等) 点数に換算して学年末の評価とする。

# 英作文 4

和文英訳

担当者：四宮 満

研究室：[530]

テキスト：

目 標： 英文、日本文の抜粋を読み、英語でまとめるという作業を通じて、英語の作文能力、構成法を上達させる。テキストは、「英語の発想」「日本人の英語」を参考書として利用する予定である。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	日英語の発想の違いについて説明する。対照言語学的アプローチにより その I
	2	” その II
	3	” その III
	4	英文の抜粋（新聞記事など）を読み、それを英文でまとめさせる。 I 課題を課し、（翌週まで）
	5	前週の作文についての解説 添削したものを復習させる。 II 英文の抜粋を読み、英文でまとめさせる。課題を課す。
	6	III ”
	7	IV ”
	8	V ”
	9	VI ”
	10	VII ”
	11	VIII ”
	12	IX ”
備考		

	週	内 容
後 期	1	日本文の抜粋（論文、随筆、などさまざまなジャンルのもの）を読み、英文でサマライズさせる。課題を課す。
	2	先週の課題のものを添削し、各自復習させる。日本文の抜粋を英文でまとめさせる。課題を課す。
	3	”
	4	”
	5	”
	6	”
	7	”
	8	課題を与え、英文でペーパーを書く訓練をする。
	9	”
	10	”
	11	”
	12	”
備考		

評価方法：評価は、日常のものと、前・後期のレポートとの総合で判断する。  
 (提出課題、試験等)

# 英作文 5

## 和文英訳

担当者：中村 繁 研究室：[533]

テキスト：プリント（予定）

目 標：文法応用の和文英訳練習。基本問題と応用問題の両方から構成され、受講生から「役に立った」と喜ばれてゐる。英作文を基礎からやり直したい人や教職志望者に有用。初回授業出席者の中、最前列から50名に受講を許可する。

年間予定 ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	授業の目標・内容その他につき概要説明。登録を許可した学生に受講カードを配布、回収する。教材プリント配布。
	2	文・基本時制（1）。
	3	文・基本時制（2）。
	4	Itの用法（1）。
	5	Itの用法（2）。
	6	否定の用法（1）。
	7	否定の用法（2）。
	8	完了の用法。
	9	不定詞の用法（1）。
	10	不定詞の用法（2）。
	11	動名詞の用法。
	12	分詞の用法。
備考		

	週	内 容
後 期	1	比較の用法。
	2	仮定法の用法。
	3	物主構文。
	4	和文英訳実作演習（1）。
	5	和文英訳実作演習（2）。
	6	和文英訳実作演習（3）。
	7	Précis Writing(1)。
	8	Précis Writing(2)。
	9	Précis Writing(3)。
	10	自分の意見・主張を英語で書く練習（1）。
	11	自分の意見・主張を英語で書く練習（2）。
	12	自分の意見・主張を英語で書く練習（3）。
備考		

評価方法：定期試験と平素の勤怠。

(提出課題、試験等)





週	内 容
1	過去→不可能の too。
2	同・不同の言ひ方。
3	比較級と最上級。
4	比較級の程度を示す語句。
5	比例比較： the+比較級。
6	譲歩表現。
7	連結語句。
8	仮定法。
9	直接話法・間接話法。
10	強調表現。
11	総合問題。
12	総合問題。
備考	

評価方法：定期試験と平素の勤怠。

(提出課題、試験等)

# 英作文 7

## 和文英訳

担当者：野本 浩智

テキスト：今西 基茂：新選英作文100題

目 標：日本語の現代文を正確に英訳できる能力を養うのが目標である。それで授業は実習的に進めることになる。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	年間の予定と授業の進め方の説明を行う。
	2	和文英訳にあたって、英文の主語の効果的な選び方を考える。 (教科書 pp. 5～8)
	3	自動詞と他動詞の使いわけを、日英両語を比較しながら考える。 (教科書 pp. 9～12)
	4	時制の機能を確認して正しい用法の練習を行う。(教科書 pp. 13～15)
	5	準動詞の種類と用法を実践的に確認する。(教科書 pp. 16～18)
	6	日英両語の態の用法と意味を比較して、英語の態の正しい用法を考える。 (教科書 pp. 19～21)
	7	代名詞の的確で効果的な用法を考える。(教科書 pp. 22～24)
	8	形容詞について種類と用法を確認する。(教科書 pp. 25～27)
	9	副詞の文中における位置について実例によって練習を行う。 (教科書 pp. 28～29)
	10	接続詞の効果的な用法を考える。(教科書 pp. 30～32)
	11	関係詞について、和文英訳上注意すべき点を考える。 (教科書 pp. 33～35)
	12	前回までの内容を確認するため、比較的長文の和文英訳を試みる。(プリント)
備考		

	週	内 容
後 期	1	語法について転換など注意すべき点を具体的に考える。 (教科書 pp. 36~37)
	2	否定文を日英両語について比較し、正しい英文の書き方を考える。 (教科書 pp. 38~39)
	3	比較構文を日英両語について対比しながら、正しい英文の比較構文を学習する。 (教科書 pp. 40~42)
	4	強調構文の効果的な書き方を具体的に考える。(教科書 pp. 43~45)
	5	仮定の表現を具体的に考え、注意すべき点を確認する。 (教科書 pp. 46~48)
	6	句と節の効果的な扱い方を具体的に考える。(教科書 pp. 49~51)
	7	形式主語と形式目的語について、それぞれの扱い方を具体的に考える。 (教科書 pp. 52~54)
	8	慣用表現の効果的な使い方を考える。(教科書 pp. 55~57)
	9	省略によって文を効果的にまとめる方法を具体的に考える。 (教科書 pp. 58~60)
	10	和文英訳にあたって注意すべき英語と米語の違いを具体的に考える。 (教科書 pp. 61~63)
	11	長文の訳し方を練習する。(教科書 pp. 64~67)
	12	前回までのまとめとして、長文の和文英訳を試みる。 (教科書 pp. 68~70)
備考		

評価方法： 科目の性質上、試験も行うが、平常の成績を主として評価する。授業への(提出課題、試験等)積極的参加が必要である。

# 英作文 8

## 和文英訳

担当者：野本 浩智

テキスト：T. Womack, S. Miura : 英文構成法

目 標： 和文の現代文を正確に英訳する能力を養うことを目的とする。したがって授業は実習を主として進めることになる。受講者は毎回英文を書くことになるのでそのつもりで出席すること。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	年間の予定と授業の進め方を説明する。
2	主語の選び方を実践的にとらえる。(教科書 pp. 1~4)
3	句と節の正しい用法、書きかえなどを練習する。(教科書 pp. 5~8)
4	名詞の種類とそれぞれの用法を具体的に練習し確認する。 (教科書 pp. 9~12)
5	冠詞の用法はなかなか複雑であるので、基本的な用法を具体的に確認し、冠詞の正しい扱い方を考える。(教科書 pp. 13~16)
6	形容詞の種類とそれぞれの用法を実例によって確認し、英文中での効果的な使い方を実習する。(教科書 pp. 17~20)
7	副詞の文中における位置、機能について考える。(教科書 pp. 21~24)
8	比較構文について日英両語の表現を比較し、英文の比較表現の効果的な書き方を考える。(教科書 pp. 25~28)
9	代名詞の種類とそれぞれの用法を改めて確認し、実際的な練習を行う。 (教科書 pp. 29~32)
10	関係詞の種類と用法について考え、実践的な練習を行う。 (教科書 pp. 33~37)
11	助動詞の種類とそれぞれの用法を具体的に考える。(教科書 pp. 38~43)
12	前回までの内容をまとめ、確認するために比較的長い和文の英訳を試みる。 (プリント)
備考	

	週	内 容
後 期	1	自動詞と他動詞の用法を日英両語について比較し、正しい英文を書くための動詞の用法を考える。(教科書 pp. 44~47)
	2	時制についての考え方をまとめ、正しい用法について実践的に練習する。(教科書 pp. 48~52)
	3	時制の接続について練習を行って、注意すべき点を確認する。(教科書 pp. 53~56)
	4	態について種類とそれぞれの用法を確認し、日英両語の態表現を比較し、正しい英文を書く練習を行う。(教科書 pp. 57~60)
	5	仮定法の正しい用法を確認するために、実際的な練習を行う。(教科書 pp. 61~64)
	6	準動詞の種類とそれぞれの用法を確認し、効果的に活用する方法を具体的に考える。(教科書 pp. 65~69)
	7	話法について、転換の場合の注意点を実践的に考える。(教科書 pp. 70~74)
	8	前置詞の種類と用法を確認し、日本語にはないものであるから、英文を書く際に注意すべき点を考える。(教科書 pp. 75~80)
	9	接続詞の種類と用法を確認し、効果的な用法を考える。(教科書 pp. 81~84)
	10	句読点その他英文を書く場合に注意すべきいくつかの事項を具体的に確認し練習を行う。(教科書 pp. 85~95)
	11	長文の訳し方を練習する。(プリント)
	12	前回までの内容をまとめ、確認するための長文の和文英訳を試みる。(プリント)
備考		

評価方法： 科目の性質から平常の成績を主として評価する。試験も場合によっては行(提出課題、試験等)う。授業への積極的な参加を求めたい。

# 英作文9

## 和文英訳

担当者：野本 浩智

テキスト：長谷川 潔：日・英語の比較による英作文

目標：現代国語の和文を正確な英文にする能力の養成を目的とする。そのために授業を実習的に進める予定である。受講者は毎回英文を書くことになるので、そのつもりで出席すること。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	年間予定と授業の進め方を説明する。
2	主語 (1)：和文を英文にするにあたって、主語をどのように選定するのが効果的であるかを考える。(教科書 PP. 1～5)
3	主語 (2)：形式主語など英語特有の主語の扱い方を考える。(教科書 PP. 6～10)
4	冠詞：日本語にはない冠詞の用法を考える。(教科書 PP. 11～16)
5	形容詞：形容詞の種類を確認し、効果的な用法を考える。(教科書 PP. 17～21)
6	文型 (1)：5文型の意味を改めて確認し、和文英訳にあたっての文型の選び方を考える。(教科書 PP. 22～26)
7	文型 (2)：和文を5文型のどれにあてはめて英訳するのがもっとも効果的であるかを考える。(教科書 PP. 27～32)
8	動詞：自動詞と他動詞を的確に使いわけて、文法的に正しい英文を書く方法を考える。(教科書 PP. 33～38)
9	使役表現：和文と英文の使役表現の違いを考え、正確な英訳の方法をさぐる。(教科書 PP. 39～42)
10	態：和文と英文の態の違いに注目し、和文英訳にあたってどちらの態を選ぶべきかを考える。(教科書 PP. 43～47)
11	助動詞：英語の助動詞の意味を確認し、効果的で正確な用法を考える。(教科書 PP. 48～52)
12	今回は今までやってきたことをまとめ、比較的長い和文を英訳することによって、内容を確認する。(プリント)
備考	

	週	内 容
後 期	1	時制：英語の時制の意味を確認し、その正しい使い方を考える。 (教科書 PP. 53～56)
	2	仮定法：仮定法の正しい用法を、和文と英文を対照しながら考える。 (教科書 PP. 57～61)
	3	話法：話法の転換について注意すべき点を確認する。(教科書 PP. 62～67)
	4	慣用句：慣用句の効果的な用法を具体的に考える。(教科書 PP. 68～73)
	5	副詞：副詞の文中における位置と機能について考える。 (教科書 PP. 74～78)
	6	比較：比較構文の正しい書き方を具体的に考える。(教科書 PP. 79～82)
	7	否定：和文と英文の否定文の相違に注目し、否定文の効果的な訳し方を考える。 (教科書 PP. 83～87)
	8	接続詞：接続詞の種類と用法を具体的に考える。(教科書 PP. 88～94)
	9	関係詞：関係詞の種類と効果的な用法を考える。(教科書 PP. 95～99)
	10	口語表現：口語表現の特色と和文英訳における扱い方を考える。 (教科書 PP.100～105 )
	11	長文：長文の訳し方を実例によって実習する。(教科書 PP.106～108 )
	12	前回までの内容をまとめ、長文の和文英訳によって確認する。(プリント)
備考		

評価方法： 科目の性質上、試験も行うが、平常の成績を主体として評価する。授業へ(提出課題、試験等)の積極的な参加が必要である。

# 英作文10

和文英訳

担当者：藤田 永祐 研究室：[538]

テキスト： 検討中。応用性がある、実用性のある内容のものを使用する。

目 標：英作文は、型どおりやっていくだけでは決して能力はつかない。なるべく多くの英訳を試みると同時に、英文を読む、聴く際にもいってみれば、英作文的視点が入るようになって欲しい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
前 期	1 テキストとは独立したエッセイの英訳を辞書を使用してする。 テキストにそっての授業。
	2 名詞中心の構文の大切さについての話。テキストにそって授業。
	3 エッセイの英訳を添削したものを取りあげ、細かなコメントをする。 テキストにそって実施指導。
	4 テキストにそって実施指導。
	5 和文に捉われた英文についての話。テキストにそって授業。
	6 テキストと独立した新聞記事の英訳を辞書を使用してする。 テキストにそっての授業。
	7 テキストにそって実施指導。
	8 新聞記事の英訳を添削したものを取りあげ、細かなコメントを述べる。 テキストにそっての授業。
	9 英訳に際しての、主語の設定の仕方についての話。テキストにそっての授業。
	10 テキストに沿って実施指導。
	11 日本語の文章や語句の柔軟性と英語の文章や語句の柔軟性についての話。 テキストにそって授業。
	12 テキストにそって実施指導。休み中の宿題について。
備考	



	週	内 容
後 期	1	中間テストについての講評。
	2	テキストとは独立したエッセイの辞書を使用しての英訳。 テキストにそっての授業。
	3	テキストにそっての実施指導。
	4	和文と英文のもつ様々なニュアンスや趣きについての話。 テキストにそっての授業。
	5	エッセイの英訳を添削したものについて細かなコメントをする。 テキストにそって授業。
	6	テキストにそっての実施指導。
	7	日本人の書く英文とネイティブ・スピーカーの書く英文にみられる一般的特徴 についての話。テキストにそって授業。
	8	新聞のコラムの辞書を使つての英訳の作業。テキストにそっての授業。
	9	テキストにそって実施指導。
	10	新聞のコラムの英訳を添削したものについて細かなコメントをする。 テキストにそって授業。
	11	テキストにそって実施指導。
	12	テキストにそって授業。今までの総括。
備 考		

参考文献：参考文献は授業中、必要に応じて挙げる。

評価方法：年4回実施するテキストと独立した文章の英訳の作業は、成績評価にくみこむ。中間テストと期末テストとの結果をあわせ考慮して年間の評価を出す。

# 英作文11

エッセイ・ライティング

担当者：阿部 一

研究室：[501]

テキスト：F. H. O'Connor, (1990) Express yourself in written English, NTC.

目 標：本講座は、基本的な英文が書ける人を対象に、いかにしてパラグラフからまとまりのあるエッセイに仕上げればよいのかを体系的に解説・実践するものである。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	オリエンテーション：日本人の英作文——一体何が問題か？また、どうすればよいのか？
2	パラグラフについて考える——文からパラグラフへ／トピックとアイデアをどう使い分けて組み立てていくか？（その1）
3	パラグラフについて考える——分かりやすいパラグラフ形式／事実をどう扱えばよいか？（その2）
4	パラグラフについて考える——事実を上手に描写する（その3）
5	トピック文の展開法をより深く考えてみる——例証の仕方と実例を研究し実践してみる（その1）
6	トピック文の展開法をより深く考えてみる——比較や対照の仕方と実例を研究し実践してみる（その2）
7	トピック文の展開法をより深く考えてみる——理由づけの仕方と実例を研究し実践してみる（その3）
8	トピック文の展開法をより深く考えてみる——定義づけの仕方と実例を研究し実践してみる（その4）
9	パラグラフを発展させてみる——実例を研究して「論理性」を学び取ろう（その1）
10	パラグラフを発展させてみる——時間の流れに合わせて構成する仕方と実践（その2）
11	パラグラフを発展させてみる——空間の流れに合わせて構成する仕方と実践（その3）
12	応用（その1）——英文の手紙を書いてみよう／手紙の書き方とポイント
備考	

	週	内 容
後 期	1	英作文サンプルの発表と検討——受講生のサンプルを具体的にチェックしてみる（その1）
	2	英作文サンプルの発表と検討——受講生のサンプルを具体的にチェックしてみる（その2）
	3	パラグラフからエッセイへ——英文に論理性をどうもたせるか（その1）
	4	パラグラフからエッセイへ——英文に論理性をどうもたせるか（その2）
	5	エッセイを書いてみる——議論の組み立て方と実践（その1）
	6	エッセイを書いてみる——議論の組み立て方と実践（その2）
	7	エッセイを書いてみる——日本の風物や習慣について書く（その1）
	8	エッセイを書いてみる——日本の風物や習慣について書く（その2）
	9	エッセイを書いてみる——履歴書／留学用エッセイ／感想文などを書いてみる
	10	応用（その2）——コンピューターやワープロでエッセイを書いてみる／コツと注意点
	11	応用（その3）——書いたエッセイを人の前で発表してみる／コツと注意点
	12	全体のまとめ：今後の課題と練習法について
備考		

評価方法：授業課題としては①授業内のグループ及び個人による実践発表を行う（ハン（提出課題、試験等）アウトを作成し形式に従って行なう）②学年末に規定のテーマに基づいたレポートをまとめて提出する③前・後期にそれぞれ定期試験を行なう④発表重視型の授業なので出席はキチンとすること。評価は総合評価とし割合は、①40%②20%③合計30%④10%である。

英作文12・13

エッセイ・ライティング

担当者：E. カーニイ 研究室：[529]

テキスト：Print, tapes, established writing and topical news items.

- 目 標：1. To correct mistakes and mistaken ideas about writing.  
 2. To find how one can best express something in order to achieve good written communication.

年間予定 ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	a. introduction of methods and class practice b. written piece for evaluation(‘think’item selection)
2	Basic errors in construction...adjective and noun control in relation to article use.
3	Punctuation...good comma use and bad use of similar stops..the comma stressed as a communication tool.
4	Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.
5	Ambiguity. writing with awareness of meaning intended and meaning received.
6	Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one’s own work.
7	1. the relative pronoun and the related pitfalls 2. some absurdities in singular and plural use.
8	Continuation of the ‘plural’ theme...difficulties with ‘each’ and the use of ‘everyone’ and ‘his or hers’.
9	Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.
10	Introductions and endings...summaries and conclusions...the open ending.
11	Writing a short short story and including all the work we have covered so far.
12	Balanced writing...the sweeping statement and ‘narrow-minded’ attitudes in producing biased writing.
備考	

週	內 容
1	Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.
2	Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.
3	Letter writing. a) person to person, b) business, c) other letters, notes, job applications, forms, etc..
4	Conciseness in documentary writing. A look at the range of meaning of the word, 'academic'.
5	The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.
6	Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.
7	Economy of expression. reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.
8	Criticism. analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.
9	The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.
10	E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.
11	Creative expression... ranges and limitations. Creative writing and the modern video.
12	Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.
備 考	

評鑑方法：Writing assignments will be given weekly. Each paper is corrected (提出課題、試驗等) and graded. Students are invited to keenly make note of their usual mistakes and correct them until they are no longer making those mistakes. If necessary, a final paper will be set at the end of the year.

Final test paper due: last class of the course.

# 英作文14

エッセイ・ライティング

担当者: G. S. ゴーマン

テキスト: SIGNIFICANT SCRIBBLES

目 標: CURTIS KELLY&IAN SHORTREED LINGUAL HOUSE.

PURPOSE IS TO ENHANCE STUDENT'S WRITING ABILITY.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	COURSE INTRODUCTION&OUTLINE. ASSIGNMENT OF DIARY&COMPOSITIONS.
2	WHAT ARE SENTENCES, PARAGRAPHS. COMPOSITIONS? SENTENCE COMBINING.
3	HOW TO USE TRANSITION WORDS IN THE ENGLISH LANGUAGE.
4	DESCRIPTIVE WRITING AND THE USE OF MODIFIERS.
5	HOW TO USE PARTICIPIAL/NOUN/INFINITIVE CLAUSES.
6	HOW TO USE SUBORDINATE/RELATIVE CLAUSES.
7	THE USE OF METAPHOR AND SIMILE.
8	DIRECT/INDIRECT SPEECH IN WRITING.
9	THE USE OF PERSONIFICATION IN WRITING.
10	THE USE OF PUNCTUATION IN WRITING.
11	LETTER WRITING
12	REVIEW OF COURSE/COURSEWORK.
備考	

週	內 容
1	EDITING YOUR OWN SENTENCES/PARAGRAPH.
2	EDITING YOUR PARTNER'S SENTENCES/PARAGRAPHS.
3	WRITING ONE PARAGRAPH ESSAYS.
4	WRITING SHORT ESSAYS.
5	WRITING ABOUT HOW TO DO SOMETHING-GIVING INSTRUCTIONS.
6	OBJECTIVE REPORTING-TELLING WHAT HAPPENED.
7	THE USE OF CAUSE & EFFECT IN WRITING.
8	COMPARING & CONTRASTING IN WRITING.
9	CLASSIFICATION IN WRITING.
10	DESCRIBING A PROCESS IN WRITING.
11	EXPOSITORY WRITING.
12	REVIEW OF COURSE/COURSEWORK. EVALUATION OF COURSE.
備考	

評估方法： STUDENTS WILL BE RATED ON THE BASIS OF ATTENDANCE, MID-TERM AND  
(提出課題、試驗等) FINAL COMPOSITIONS.

# 英作文15

## エッセイ・ライティング

担当者: C. J. プール

目 標: Writing is an important way of communicating. However, students writing in a foreign language often forget that they are writing to communicate. Instead they focus on the details—spelling, punctuation, grammar, etc. As a result they often fail to express their ideas clearly. This course will teach students to go beyond the technical details and learn how to communicate on paper.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introductions; course outline; Free Writing — students will write a short essay on a topic of their choice.
2	Paper Conversations — students will have conversations with classmates by writing back and forth.
3	Step 1: Pre-Writing — students will learn how to choose a topic and prepare for writing an essay.
4	Pre-Writing(continued).
5	Paper Conversations; Free Writing.
6	Step 2: Rough Draft — students will learn the importance of writing for meaning rather than focussing on form.
7	Rough Draft(continued).
8	Paper Conversations; Test on Step 1 & 2.
9	Step 3: Responding—students will learn how to analyze essays by commenting on other students' rough drafts.
10	Responding(continued).
11	Paper Conversations; Free Writing.
12	Test on Steps 1-3.
備考	



週	內 容
1	Paper Conversations; review of Steps 1-3.
2	Step 4: Revising—students will learn how to improve their rough drafts by adding information and clarifying their ideas based on classmates' comments.
3	Revising(continued).
4	Step 5: Editing — students will be taught proofreading skills and how to use a dictionary.
5	Editing(continued).
6	Paper Conversations; Test on Steps 1-5.
7	Step 6: Evaluating—students will practice how to read critically.
8	Evaluating(continued).
9	Newspaper publishing—groups of students will work to make a class newspaper containing the most interesting essays written during the year.
10	Newspaper Publishing(continued).
11	Newspaper Publishing(continued).
12	Reading, discussing, and evaluating student newspapers.
備考	

# 英作文16

## 翻訳 I

担当者：四宮 満 研究室：[530]

テキスト：「日本文の翻訳」（サイデンステッカー，安西）

目 標：日本の小説とその翻訳とを比較検討させ、文学作品のやさしいものを翻訳させることにより英語の作文能力を上達させ、同時に言語と文化の問題を考えさせる。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	I 日英語の発想の違い、それに伴う翻訳上の問題点を解説する。
2	II "
3	III "
4	日本の小説の抜粋とその翻訳を比較検討する。 日本の作品の抜粋をアサイメントに出す。
5	アサイメントについて解説。添削したものを自己点検させる。 日本の小説の抜粋とその翻訳を比較検討する。アサイメントを出す。
6	同 上
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
備考	

	週	内 容
後 期	1	日本の小説とその翻訳の比較検討をする。 日本の作品の抜粋をアサイメントに出す。
	2	前回のアサイメントについて解説する。添削したものを自己点検させる。 日本の小説とその翻訳の比較検討をする。アサイメントを出す。
	3	同上
	4	”
	5	”
	6	”
	7	”
	8	”
	9	”
	10	”
	11	”
	12	”
備考		レポートとして前・後期に翻訳させる。

評価方法：日常の作文とレポートにより評価する。

(提出課題、試験等)

# 英作文17

## 翻訳 I

担当者：林 節雄 研究室：[618]

テキスト：「翻訳再入門」加島・志村共著。これに基づき講義する。各自購入不要。

目 標：翻訳、ことに英語の原文を日本語に翻訳する仕事に興味のある学生を対象とし、時に日本語を英語に翻訳する仕事にも触れながら、言葉の技術を磨く。上記の講義と、米国の週刊誌 *Time* の易しい記事の翻訳添削を柱とする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」というトピックについて話し、手始めにごく短い原文（英語・日本語）の翻訳実習を行う。
2	第2回目の授業ではテキストの「後戻りしない文章」という章を解説し、 <i>Time</i> の易しい記事の翻訳実習。
3	第3回目の授業では「後戻りしない文章（続）」について話し、 <i>Time</i> 記事翻訳実習。
4	第4回目の授業では「後戻りしない文章（続）」について話し、 <i>Time</i> 記事翻訳実習。
5	第5回目の授業では「直喩の訳し方」という章を解説し、 <i>Time</i> 翻訳実習。
6	第6回目の授業では「直喩の訳し方（続）」について話し、実習。
7	7回目は「直喩の訳し方（続）」について話し、実習。
8	8回目は「意味のストレス」という章を解説し、実習。
9	9回目は「意味のストレス（続）」について話し、実習。
10	10回目は「意味のストレス（続）」について話し、実習。
11	11回目は「辞書と翻訳」という章を解説し、実習。
12	12回目は「辞書と翻訳（続）」について話し、実習。前期定期試験の説明。
備考	上記の「実習」は前の週の課題の添削、解説を含む。

週	内 容
1	第1回目の授業では前期定期試験結果の講評。および「辞書と翻訳（続）」の章の解説。
2	第2回目の授業では「時制のこと」の章の解説と、 <i>Time</i> 記事の翻訳実習。
3	第3回目の授業では「時制のこと（続）」について話し、実習。
4	4回目は「時制のこと（続）」について話し、実習。
5	5回目は実習を中心に授業を行う。
6	6回目は実習を中心に。
7	7回目は実習を中心に。
8	8回目は実習。
9	9回目は実習。
10	10回目は実習。
11	11回目は実習。
12	12回目はまとめと後期定期試験の説明。
備考	「実習」は前期同様前の週の課題の添削、解説を含む。

参考文献：授業中に紹介する。

評価方法：2回の定期試験と授業中の課題の翻訳実績による。但し後者を重視し、定期試験は授業内容の再確認程度の平易なものとする。

# 英作文18

## 翻訳Ⅱ

担当者：林 節雄                      研究室：[618]

テキスト：「現代翻訳考」「翻訳の技術」中村著。各自購入は不要。講義材料に使う。

目 標：（翻訳Ⅰ）（旧英作文17）と同じであり、同様のやり方で言葉の技術を磨く。  
上記の講義と、米国の週刊誌 *Time* のより高度な記事の翻訳添削を柱とする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では上記テキストの中から「翻訳家への道」の項を解説し、手始めにごく短い原文（英語・日本語）の翻訳実習を行う。
2	第2回目の授業では「翻訳家への道」（続）について話し、 <i>Time</i> 記事翻訳実習。
3	第3回目は「翻訳とは何か」の項を解説し、翻訳実習。
4	第4回目は「翻訳とは何か」（続）について話し、実習。
5	第5回目は「超訳は翻訳か」について話し、実習。
6	第6回目は「超訳は翻訳か」（続）について話し、実習。
7	第7回目は「誤訳だらけの本」について話し、実習。
8	第8回目は「誤訳だらけの本」（続）について話し、実習。
9	第9回目は「原文修正は許されるか」について話し、実習。
10	第10回目は「原文修正は許されるか」（続）について話し、実習。
11	第11回目は「熟した自然な訳文」について話し、実習。
12	第12回目は「熟した自然な訳文」（続）について話し、実習。前期定期試験の説明。
備考	上記「実習」は前の週の課題の添削、解説を含む。

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では前期定期試験結果の講評。および <i>Time</i> 記事の翻訳実習。
	2	第2回目の授業では実習を中心に授業を行う。
	3	第3回目は実習。
	4	4回目は実習。
	5	5回目は実習。
	6	6回目は実習。
	7	7回目は実習。
	8	8回目は実習。
	9	9回目は実習。
	10	10回目は実習。
	11	11回目は実習。
	12	12回目はまとめと後期定期試験の説明。
備考	「実習」は前期同様前の週の課題の添削、解説を含む。	

参考文献：授業中に紹介する。

評価方法：2回の定期試験と授業中の課題の翻訳実績による。但し後者を重視し、定期試験は授業内容の再確認程度の平易なものとする。

# 英会話1

Highly Advanced (Discussion)

担当者: E. カーニイ      研究室: [529]

テキスト: Prints and Videos

目 標: To have students join in discussion sessions with a view to increasing vocabulary and developing greater ability in expression.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Outlining of programme and methods. Some assessment of ability with questions, answers, and variations on self-introduction.
2	A look at media items and some documentary material. Group work on forming ideas to be readied for discussion.
3	Speaking up front..practice in talking to a small group...then to a larger group.
4	Holding the audience's attention. Getting confirmation of your communication.
5	The problems of bias and the importance of incorporating other ideas and opinions.
6	Pitfalls: negative thinking and narrow-minded attitudes. Avoiding the sweeping statement.
7	Study of some established discussion scenes in novels and movies. How to people generally handle difficult situations?
8	Practice in discussion of minor items; personal likes and dislikes, complaining, infringement of rights.
9	Strong disagreement and controlled language. Etiquette in discussion where feelings are running high.
10	Practice in emphasis with controlled gestures. Discuss why religion seems to be the cause of so much war worldwide.
11	Pitch and intonation as valuable tools in communicating. The minus side concerning misuse of these same tools.
12	A review of the first half of the programme. A check on vocabulary and related expression.
備考	Subjects for discussion will tend to vary with the items of news available.



	週	內 容
後 期	1	Technical subjects. Vocabulary and preparation. Covering the issues on nuclear power.
	2	The pros and cons of nuclear power in the light of Chernobyl and Three Mile Island.
	3	Topical and debatable issues; smoking, pollution, abortion, marriage and 'family'.
	4	Balanced discussion. awareness of other opinions, and avoiding the dogmatic approach.
	5	Advertizing. Discussions dealing with the general range of ads and their influences.
	6	Continued work on the pros and cons of advertizing techniques, including subliminal advertizing and age zoning.
	7	Presentations and speeches. Six to ten minute speeches while fielding questions. Prepared and unprepared speeches.
	8	Pressure practices with time limits. A look at some famous speeches. Chaplin's Hitler, Churchill, Kennedy, etc.
	9	Some recent fads. What is 'Politically correct'? A look at verbosity and economy of expression.
	10	Summarizing and cutting down on prepared items. Group work to radically shorten certain articles and written works.
	11	Recaps and reviews of the years work. Open time for reworking some ideas that have had time to mellow or mature.
	12	Criticisms and recriminations. Testing.
備 考		

評價方法：Grading for this course will take place each week and will comprise (提出課題、試驗等) a combination of class participation with a willingness to show real improvement. Students that have insufficient grade status will be tested at the end of the year.

Testing: last class the school year.

英会話 2・13

Highly Advanced (discussion)・Advanced

担当者: T. ヒル 研究室: [627]

テキスト: Articles from Newspapers and Magazines

目標: To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.

年間予定 ( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Euthanasia: should it be legalized in our modern society?
2	Article 9: should it be changed?
3	International Community: what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality: a sickness or an alternative life-style?
6	Aids: how should children be taught about the problem?
7	Mass Media: the good points and the bad points.
8	Northern Territories: do we need them?
9	Japan: what can we be proud of in our culture?
10	Japan: what should we be ashamed of in our culture?
11	Test — a speech (15mins)
12	Test — a speech (15mins)
備考	

週	内 容
1	Japanese women: what should their role be in society?
2	'Japan is a boy of 12': Does America misunderstand us?
3	Japanese education: its strengths and weaknesses.
4	God: is religion important in the modern world?
5	Royalty: do we need them?
6	Smoking: should it be banned in all public places?
7	English education in Japan: its strengths and weaknesses.
8	Foreigners: do we want them in Japan?
9	A multicultural society: what is it? do we want it?
10	Sport: its role in modern life.
11	Test — a speech (15mins)
12	Test — a speech (15mins)
備考	

評価方法： Students will be graded on participation in class discussion, (提出課題、試験等) mid-term and final speech, and attendance.

### 英会話3

Highly Advanced (discussion)

担当者: N. H. ジョスト

テキスト: Materials provided by instructor to include a series of articles from current publications.

目 標: To provide students with the opportunity to discuss advanced topics concerning current events, social and cultural issues, and to survey the different forums for discussing those topics.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course introduction: Aims of the course; requirements of the students; class procedure; class policy; grading system; and interviewing and selection of students.
2	Specific introduction of the first semester: Includes a detailed presentation and scheduling of the first semester's discussion series.
3	Presentation and practice discussion: "Components of a discussion;" topic for this week's discussion provided by teacher.
4	Brief review and first discussion assignment: Oral presentation by students of last weeks topics; selection and refinement of next week's discussion topic.
5	Discussion: Student discussion monitored, reviewed, and critiqued by instructor in the form of a brief lecture.
6	Lecture and Assignment: "The role of debate and its effectiveness;" class assignment for debate to include selection of topic, selection of monitor.
7	Brief review and time allowance for debate preparation: Honor questions and queries from students; scrutinize group's arguments.
8	Debate: Full class allowance for debate.
9	Detailed inquiry and discussions: A look at the previous debate with concentration on strengths of each group's arguments; and open discussion.
10	Semester review and first presentation of first semester's exam: A review of this semester's topics and discussions; assign groups with topics for oral exam.
11	Exam preparations: Groups refine topics, conclude research and have a mock discussion of final presentation.
12	Final exam in the form of a student designed presentation: Students will conduct and administer an extended discussion for marks.
備考	

週	内 容
1	Second semester introduction: Presentation of aims and outline of topics for the coming semester; distribution of first semester's marks; and general comments.
2	Lecture and discussion: "Parliamentary Procedure: Uses and Benefits;" discussion on the difference between the role of speech in the U.S.A. and Japan.
3	Follow up discussion and first assignment for second semester: Review last week's and discussion new thoughts on those topics. Review last semester's discussions.
後 4	Discovery of topics and time allowance for preparation: Methods of discovery for different topics and group work of next presentation, and discussion.
5	Review of parliamentary procedure in terms for next discussion: Mock discussion; techniques for interjection and timing of interjections.
6	Discussions: Student generated discussion with the use of Parliamentary Procedures.
7	Survey of the previous week's discussion: "Effectiveness and Utility of Parliamentary Procedure;" considerations from students
8	Article reviews: Collect article reviews assigned in the first week of second semester; assign next discussion.
期 9	Open class: Question and Answer session on any topics; check on progress for next discussion.
10	Final class discussion: Student generated and graded discussion.
11	Review of student's assessment of their projects and lecture on focal points:
12	Final examination: individual oral examinations.
備考	

## 英会話 4

Highly Advanced (ディベート)

担当者：阿部 一 研究室：[501]

テキスト：Fryar, Thomas and Goodnight (1990) Basic Debate, NTC.

目 標：本講座はある程度の英語力がある人を対象にディベートの基礎から実践までを取り扱かうものである。ディベートの予備知識は特に必要としないが、英語の運用能力（聞く力と話す力）は中級程度のレベルが必要とされよう。

年間予定 ( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	オリエンテーション：日本人のコミュニケーションとディベートの特徴
	2	ディベートの基礎と基本用語解説（その1） — 英語の論理性を考える+ビデオにみるディベートの実際（在日外国人による日本語のディベート）
	3	ディベートの基礎と基本用語解説（その2） — 英語の論理性を考える+ビデオにみるディベートの実際（アメリカのハイスクールにみる英語のディベート）
	4	ディベートの基礎と基本用語解説（その3） — 英語の説得性・実証性を考える+ビデオにみるディベートの実際（テレビにみる英語の正式ディベート）
	5	ディベートに役立つ表現やテクニックを考える+問題設定及び分析の仕方を考える（その1）
	6	ディベートに役立つ表現やテクニックを考える+問題設定及び分析の仕方を考える（その2）
	7	ビデオによるディベート研究（その1）+情報収集のやり方
	8	ビデオによるディベート研究（その2）+情報分析及び整理の仕方
	9	ディベートを実践してみる（その1） — 即興ディベート [日本語篇]
	10	ディベートを実践してみる（その2） — 即興ディベート [日本語篇]
	11	ディベートを実践してみる（その3） — 即興ディベート [英語篇] * 論題設定について解説 ** スタジオ
	12	ディベートを実践してみる（その4） — 即興ディベート [英語篇] * ディベートの評価について解説 ** スタジオ
備考		

週	内 容
1	正式ディベートを考える（その1）——ビデオによるディベートの総合的研究（大学、大統領選、国連など）
2	正式ディベートを考える（その2）——基本ルール、フォーマット、論題設定など
3	正式ディベートを考える（その3）——リサーチ、資料収集、原稿、リハーサルなど
4	正式ディベートを考える（その4）——戦略、論旨の流れ、尋問など
5	正式ディベートを考える（その5）——口頭練習をどうするか？ノートをどう取るか？*シミュレーション活動
6	正式ディベートの実践（その1）——論題 [ ] *教室内実践
7	正式ディベートの実践（その2）——論題 [ ] *教室内実践
8	正式ディベートの実践（その3）——論題 [ ] *スタジオ
9	正式ディベートの実践（その4）——論題 [ ] *スタジオ
10	ディベート：さらなる発展のために——撮影ビデオの徹底分析と反省（その1）
11	ディベート：さらなる発展のために——撮影ビデオの徹底分析と反省（その2）
12	まとめ：今後どうやって学習を進めていけばよいか？
備考	*後期に一度、実際ディベートの第一線で活躍している人（ディベーター）に来てもらって体験談と上達するコツを話してもらう予定です。

参考文献：J. M. Sproule(1980) *Argument*, McGraw-Hill.

評価方法：授業課題としては①授業内のグループ及び個人による実践発表を行なう（個（提出課題、試験等）人発表についてはハンドアウトを作成し形式に従って行なう）②学年末に規定のテーマに基づいたレポートをまとめて提出する③発表重視型の授業なので出席はキチンとすること。

評価は総合評価とし割合は①グループ40%/個人30% ②20% ③10%である。

## 英会話 5

Highly Advanced (スピーチ)

担当者：大川 道代

テキスト：Payne, J., & Prentice, D. Getting Started in Public Speaking. NTC, 1990.

- 目 標：1) To introduce fundamental principles of public speaking  
 2) To develop skills in self expression and presentational speaking  
 3) To discover your own potentials and capacities as a performer  
 4) To improve your communication skills through the presentations

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	Introduction to the course. Syllabus. A selective speaking test. Explanation of homework: Self introduction with visual aids.
	2	Self introduction with visual aids.
	3	Self introduction with visual aids.
	4	Demonstration speech.
	5	Demonstration speech.
	6	Videotaping self introduction with visual aids and demonstration speech in the studio.
	7	Explanation of Persuasive speech. Impromptu speech.
	8	Impromptu speech.
	9	Videotaping impromptu speech.
	10	Persuasive speech.
	11	Persuasive speech.
	12	Videotaping persuasive speech.
備考	A 5 to 10-page term paper will be assigned on the following issues: speech purposes, organization, and nonverbal delivery.	



週	內 容
1	Introduction to Performance Studies. Literary Selection for solo or group performances.
2	Composing and presenting the introduction.
3	In-class rehearsal.
4	In-class rehearsal.
5	Solo or group performances.
6	Introduction to writing as performance.
7	Topic selection and composing manuscripts orally.
8	In-class rehearsal.
9	In-class rehearsal.
10	Preparation for interpretation festival. Dress rehearsal.
11	Discussion on interpretation festival.
12	Summary of the course.
備考	A 3 to 5-page reaction paper to the interpretation festival will be assigned.

- 評価方法： 1) Speech Performances 40 %  
 (提出課題、試験等) 2) Written Works \* 40 %  
 3) Class Participation \*\* 20 %

\* Written works may include any of the following: outline, homework assignment, papers, speech critiques, original manuscripts.

All papers must follow the MLA Handbook for Writers of Research Papers: Second Edition 1984 for format of references.

\*\* Participation in the interpretation festival is required.

# 英会話 6

Highly Advanced (通訳)

担当者：鍋倉 健悦

研究室：[531]

テキスト：なし

目 標：ある程度の通訳ができるようにする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	通訳概論： 通訳に関する基礎知識の学習
	2	"
	3	国際経済（詳細未定） 3～4センテンスの逐次通訳練習からスタート、 サイト・トランスレーション、シャドウイングの練習
	4	"
	5	"
	6	"
	7	"
	8	"
	9	国際政治（詳細未定）
	10	"
	11	"
	12	"
備考		

	週	内 容
後 期	1	〃
	2	〃
	3	社会問題（詳細未定）
	4	〃
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	一般科学（詳細未定）
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	〃
備 考		

参考文献：英語の聴き方話し方（竹内書店新社），英語の通訳（サイマル出版会）

評価方法：毎回の練習がテストとなる。

（提出課題、試験等）

## 英会話 7

Highly Advanced (通訳)

担当者：阿部 一 研究室：[501]

テキスト：Myers and Herndon(1991) Dynamics of Speech, NTC.

Cheepen and Monaghan(1992) Spoken English, Pinter.

目 標：本講座は、通訳 I の既習者を対象に、より本格的な英語力の養成、通訳技術の修得、幅広い文化的背景知識の整備そして実践練習（主として同時通訳）を行うものである。

年間予定 ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	オリエンテーション：国際コミュニケーションの現状と通訳の位置付けと役割
	2	基本通訳技法のチェック（その1）+英語力一般と英米事情の研究
	3	基本通訳技法のチェック（その2）+英語力一般と英米事情の研究
	4	基本通訳技法のチェック（その3）+英語力一般と評価・測定について
	5	レアリアに基づくFORの総合的研究（VTR）（その1）
	6	レアリアに基づくFORの総合的研究（VTR）（その2）
	7	レアリアに基づくFORの総合的研究（VTR）（その3）+ 英語力一般と日本語力一般の向上訓練（その1）
	8	レアリアに基づくFORの総合的研究（VTR）（その3）+ 英語力一般と日本語力一般の向上訓練（その2）
	9	パブリック・スピーキングの実践・訓練（その1） 同時通訳の理論と基礎訓練（その1）
	10	パブリック・スピーキングの実践・訓練（その2） 同時通訳の理論と基礎訓練（その2）
	11	パブリック・スピーキングの実践・訓練（その3） 同時通訳の理論と基礎訓練（その3）
	12	同時通訳の理論と基礎訓練（その4） 同時通訳の実践研究+OJTの解説
備 考		前期に一度、現役の同時通訳者（NHK衛星放送担当）に実践的な話をしてもらいます。

	週	内 容
後 期	1	同時通訳の実践研究（その1） FRAME理論（その1）
	2	同時通訳の実践研究（その2） FRAME理論（その2）
	3	同時通訳の実践研究（その3） FRAME理論（その3）
	4	同時通訳の実践研究（その4） FRAME理論（その4）
	5	リアル・タイム実践（その1） 専門分野の用語研究（その1）
	6	リアル・タイム実践（その2） 専門分野の用語研究（その2）
	7	リアル・タイム実践（その3） 専門分野の用語研究（その3）
	8	リアル・タイム実践（その4） 専門分野の用語研究（その4）
	9	リアル・タイム実践（その5） 専門分野の用語研究（その5）
	10	リアル・タイム実践（その6） 専門分野の用語研究（その6）
	11	通訳技法レベルアップ上のポイント OJTのコツと各条件について
	12	職業としての通訳の可能性と業界展望 通訳検定など各種検定・資格試験について
備 考	5～10週をメドに衛星放送を利用したリアル・タイムの同時通訳実践を行ないます ので欠席は厳禁です。	

評価方法：評価は、前・後期各一回のレポートと授業参加度による。

(提出課題、試験等)とりわけ、後期に行なわれるリアル・タイム実践シリーズは評価の重要な対象となるので、全て参加することが義務づけられる。

# 英会話 8

Advanced

担当者: D. ブラドリー

テキスト: Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka; Polite Fictions, Kinseido

- 目標: 1. To use the text as a basis for discussion.  
 2. To think about the idea of culture.  
 3. In the simulation games, to create feelings which are similar to those you might encounter when you travel to a different culture.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	Introduction
	2	General Discussion Topics - Giving Opinions
	3	"
	4	" - Newspaper Articles
	5	"
	6	Simulation Game on Cultural Clashes
	7	Chapter 1 - You and I are Equals: greetings and how they reflect social assumptions.
	8	Chapter 2 - You and I are Close Friends: names and being friendly.
	9	Chapter 3 - You and I are Relaxed: a look at different styles of entertaining.
	10	Chapter 4 - You and I are Independent: social structure and how it is reflected in the way people ask favors.
	11	Chapter 5 - People as Individuals: how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say.
	12	Test
備考		

	週	内 容
後 期	1	Film on cross-cultural exchange
	2	"
	3	Chapter 6 - Being Original: emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy.
	4	Chapter 7 - Questions, Questions!: "aisatsu" questions don't need to be answered.
	5	Chapter 8 - Answer to the Point!: straight line versus circular logic.
	6	Chapter 9 - Conversational Ballgames: conversation as a sport, tennis versus bowling.
	7	Chapter 10 - Don't Apologize!: when not to apologize.
	8	Chapter 11 - Nobody Told Me! when to apologize.
	9	Culture Simulation - Game
	10	" - Discussion
	11	Review
	12	Test
備 考		

評価方法： Assessment will be based on attendance, class participation, homework assignments and tests.

# 英会話9

Advanced

担当者: J. J. ダゲン 研究室: [610]

テキスト: Kearny, M.A., et.al.; The American Way, Prentice-Hall Regents

目標: This class will present and explain the values, attitudes, and cultural patterns underlying American behavior patterns and institutions. This will be used as the basis of class discussion.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course description and explanation(text pp.vii-ix).
2	Chapter 1--Introduction to American Culture (pp.1-17). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on chapter 1.
4	Chapter 2--Basic American Values and Beliefs (pp.18-37). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on chapter 2.
6	Chapter 3--The Protestant Heritage (pp.38-57). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on chapter 3.
8	Chapter 4--The Frontier Heritage (pp.58-77). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on chapter 4.
10	Chapter 5--The Heritage of Abundance (pp.78-99). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on chapter 5.
12	Midyear Examination.
備考	



週	內 容
1	Review of first term material.
2	Chapter 6--The World of American Business (pp.100-119). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on chapter 6.
4	Chapter 7--Government and Politics in the United States (pp.120-139). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on chapter 7.
6	Chapter 8--Ethnic and Racial Assimilation in the United States (pp.140-159). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on chapter 8.
8	Chapter 9--Education in the United States (pp.160-181). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on chapter 9.
10	Chapter 10--Organized Sports and Recreation (pp.182-199). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on chapter 10.
12	Final Examination.
備考	

評價方法 : Grades will be based on attendance, in-class participation, bi-weekly (提出課題、試驗等) assignments, and a midyear and final exam.

英会話10

Advanced

担当者：A. R. ファルヴォ

テキスト：FIRST TERM HOUSESITTER SECONDTERM MYGIRL

目 標：TO FOCUS ON INFERENCE AND PREDICTION THROUGH THE USE OF VISUAL MATERIAL

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	COURSE INTRODUCTION-EXPECTATIONS GRADING CRITERIA AND STANDARDS .
	2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATIONS
	3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
	4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
	5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
	6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTER IN DIFFERENT COMMUNICATIVE SITUATIONS
	7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL -DIRECT AND INDIRECT SPEECH
	8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
	9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
	10	INFERENCEAL LEARNING AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
	11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
	12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIAL WITH 50 QUESTIONS CONTENT, INFERENCE
備考		

週	内 容
1	MYGIRL-VIDEO REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION MATERIAL
2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATION
3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTER IN DIFFERENT SITUATIONS
7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL -DIRECT AND INDIRECT SPEECH
8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
10	INFERENCE LEARNING AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIALS WITH 50 QUESTIONS- CONTENT, INFERENCE
備考	

参考文献 : SCRIPT OF BOTH VIDEOS

評価方法 : CLASS ATTENDANCE, PARTICIPATION AND RESULT OF TWO EXAMS -50  
 (表出課題、試験等) QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTIONS AND CONTEXT AS  
 DETERMINED THROUGH INFERENCE TYPE QUESTIONS

英会話11・22

Advanced・Intermediate

担当者: T. J. フォトス

テキスト: "News World"

目 標:

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	The EC PartI The unification of Europe
2	The EC PartII Expansion brings growing pains
3	The US PartI The last superpower ponders its foreign policy
4	The US PartII The Democrats in office again - after 12 years
5	The US PartIII A society plagued by domestic problems
6	Japan PartI Exploring the meaning of "international contribution"
7	Japan PartII The Emperor visits China—the first time in over 1,000 years
8	Russia PartI The center of gravity shifts: from the union to the independent republics
9	Russia PartII The August revolution: increasing troubles in the union
10	Germany Together again—after 45 years
11	Eastern Europe Economic and ethnic problems: a volatile combination
12	The Middle East PartI The Arab-Israeli conflict
備考	

	週		後 期	內	容
1	The Middle East	PartII		After the Gulf war	
2	Southern Europe			A contrast in growth and stagnation	
3	China			Balancing between government control and economic growth	
4	Taiwan			Poised between East and West	
5	Korea			Moving fitfully toward economic and political unity	
6	Southeast Asia			Searching for peace in a war-torn region	
7	Latin America			Groping for peace and prosperity	
8	Africa			The long, winding road toward democracy	
9					
10					
11					
12					
備考					

# 英会話12

Advanced

担当者: I. ゴメス

テキスト: Focus on American Culture- Elizabeth Henly (Regents / Prentice-Hall)

目 標: The text and video segments look at four aspects of the lifestyle in the United States : family, work, education and trends. Students will carefully view and discuss the news reports on each of these topics and increase their understanding of the culture and cultural diversity found in the United States.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	Intro to Course: Course outline, intro of students + text, format of class. Unit 1- "The family in America" - pp.1-5. (Segment 1)
	2	1st topic- "Mid-Life Moms." Compare trends in motherhood to other cultures. pp.6-11 conduct survey of family trends. Review segment 1.
	3	Segment 2: pp.12-16. "Fast-Track Parents" - Parents today, their values and lifestyles: compare US + Japan.
	4	Continue segment 2. pp.17-23. The Baby boom generation and the new baby boom. Review. and conclude segment 1.
	5	Segment 3: pp.24-30. "Is Love Color Blind?" Discuss adoption in society and transracial adoption in US + Japan.
	6	Continue Segment 3. Debate issue of transracial adoption. pp.31-36. Review.
	7	Unit2: Work in America. Segment 4- Manufacturers falsely advertise the environment. Compare with Japan. Investigate the environmental concerns of business. pp.37-41.
	8	Continue segment 4. Discuss green consumerism fad. Impact on Japan . pp.42-47. Review.
	9	Segment 5: "Beyond 9 to 5". pp.49-55. How has technology affected peoples lives? Compare. Make list.
	10	Continue segment 5. pp.56-59. Talk about future impact of advanced communications and products in people's lives. Review.
	11	Segment 6: "The joys + Risks of the "Daddy Track"-the role of men in child care in US/Japan culture. pp.60-67. Talk about companies and their concerns about families.
	12	Continue segment 6. pp.68-70. "The Family Leave Bill" talk about it. Role play "daddy track" Review + assign research project due on 1st day of class in September
備考		

週	内 容
1	Intro Unit3- Education in America. Segment 7-pp.72-76. The idea of bilingual education-discuss it and debate it. Collect research papers.
2	Continue with segment 7. pp.77-83. Read about the idea of official language. Debate it. Review.
3	Segment 8: "Judgement Day" compare cultural differences in higher education system. pp. 85-90
4	Continue this segment. pp. 91-96 Review
5	Segment 9- "Cheating in college"-comparing cultural attitudes towards cheating. What should be done about it? pp.97-103
6	Continue segment 9. Focus on US/Japan college life: studies + lifestyle. pp.104-108 Review.
7	Unit 4 : "Trends in America"-Segment 10 "New Suburban Design for living" What is suburbia? pp.109-114
8	Continue segment 10-discuss alternatives to the suburbs. New community living designs. pp.115-120. Review.
9	Segment 11: "Health Care for the Poor"-Compare health care in US/Japan/Europe. Readings about some solutions to the problem, pp.121-126
10	Continue segment 11-Focus on Japan's health care for unskilled foreign workers issue. pp.127-132. Review.
11	Segment 12 "The Perfect Baby: A Follow Up." Genetic engineering across cultures. Planning for future. Medical ethics questions raised, pp.133-143.
12	Exam of Units 3 and 4 (written-multiple choice and fill-ins for vocabulary check + oral question)
備考	

# 英会話14

Advanced

担当者: C. B. 池口

テキスト: Speech Communication for International Students; P. Dale and J. Wolf

目 標: This course aims to develop clear and effective verbal communication skills as a manifestation of a clear, analytic and critical thinking. It will essentially focus on group discussions that will eventually prepare students for their individual speeches.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course Orientation. This will include course description, course objectives, evaluation method and details of the term's course content and schedule.
2	Chapter 1: Speaking to Develop Self-Confidence. The lesson will focus on helpful tips and exercises to prepare students for their individual speeches.
3	Informal Speeches: Delivery of individual speeches
4	Informal Speeches continued
5	Chapter 2: Thinking on your feet. The lesson will include guidelines and exercises for the delivery of impromptu speeches.
6	Graded Impromptu Speech Presentation
7	Graded Impromptu Speech Presentaion continued
8	Chapter 3: Speaking to inform. The lesson will focus on the fundamentals of speaking to inform.
9	CBS News: Viewing
10	CBS News: Group Discussions and presentation
11	Summary and Course evaluation for the first term
12	
備考	



	內 容
後 期	1 Course Re-orientation; The day's lesson will consist mainly of reiterating course objectives requirements and schedule for the 2nd term.
	2 Chapter 5 : Speaking to inform. The lesson will consist of the fundamental principles of informative speeches and classroom exercises to prepare for the speeches.
	3 Graded Informative Speech Presentation
	4 Chapter 7 : Speaking to Persuade. The lesson will focus on the guidelines and basic exercises to help prepare and organize for individual speeches.
	5 Graded Persuasive Speech Presentation (for those who could not deliver their informative speeches)
	6 Chapter 8 : Debating. This lesson will essentially consist of the fundamental principles and rules of debating.
	7 Motion Picture Viewing
	8 Motion Picture Viewing continued
	9 Application of Chapter 8 : Debaing on the Issues involved in the movie (Graded)
	10 Lesson 9 continued: other groups debating (Graded)
	11 Summary and Course Evaluation for the 2nd term / for the school-year.
	12
備 考	

評価方法： Student evaluation will be based on class performance to be derived from (提出課題、試験等) participation in discussions, speeches and oral tests, a mid-year and a final test.

# 英会話15

Advanced

担当者: N. H. ジョスト

テキスト: First semester: Two contemporary movies from the Screen Play series.

目標: To provide students with an opportunity to examine authentic American English; to examine the themes of a major motion picture; to investigate how these themes are presented, and to discuss the validity of the film.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course introduction: Aims of the course; requirements of the students; class procedure; class policy; grading system; and interviewing and selection of students.
2	View film in its entirety.
3	Discuss major themes of the film; carefully examine pages 1 to 10; examine vocabulary, and discuss the setting characterization.
4	Discuss development of movie; carefully examine pages 11 to 20; student presentation of lexical items; view next portion of the film.
5	Examination characterization; carefully examine pages 21 to 30; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
6	Assign midterm evaluation projects; carefully examine pages 31 to 40; student presentation of lexical items; discussion of themes.
7	Review the film to date; carefully examine pages 41 to 50; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
8	Time allowance for student midterm projects; field questions and queries from students; carefully examine pages 51 to 60; student presentation of vocabulary.
9	Possible quiz on lexical items covered thus far; time allowance for projects; carefully examine pages 61 to 70; student presentation of lexical items; discuss themes.
10	First group of student projects; discussion of characterization; themes and plot; carefully examine pages 71 to 80.
11	Second group of student projects; carefully examine pages 81 to 88; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
12	Final group of student projects; finish film; discuss group projects; semester evaluations; and collect student evaluations.
備考	

週	內 容
1	Introduce next film; preset first semester's evaluations; assign next week's topics.
2	View film in its entirety.
3	Discuss major themes of the film; discuss the setting, characterization, and plot, or story line; assign several students to define (to occur each week).
後 4	Discuss development of movie; carefully examine pages 11 to 20; student presentation of lexical items; view next portion of the film.
5	Examination characterization; carefully examine pages 21 to 30; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
6	Assign final evaluation projects; carefully examine pages 31 to 40; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
7	Review the film to date; carefully examine pages 41 to 50; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
8	Time allowance for final projects; field questions and queries from students; carefully examine pages 51 to 60; student presentation of lexical items.
期 9	Possible quiz on lexical items covered thus far; time allowance for projects; carefully examine pages 61 to 70; student presentation of lexical items
10	First group of student projects; discussion of characterization; themes and plot; carefully examine pages 71 to 80; student presentation of lexical items.
11	Second group of student projects; carefully examine pages 81 to 88; student presentation of lexical items; discussion of themes; view next portion of the film.
12	Final group of student projects; finish film; discuss group projects; final evaluations; and collect student evaluations.
備 考	

# 英会話16

Advanced

担当者: J. M. サーロー

テキスト: No set text. Prints may be used instead

目標: In this class we will attempt to reproduce natural conversations by using pair work, role playing and discussions. The emphasis of this class will be on spoken English.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	The Rights of Man (and Woman too)
2	Role playing
3	The Wrongs of Man- pollution and the environment
4	Role playing
5	Over population and family planning
6	Role playing
7	Personal freedom
8	Role playing
9	Education or Indoctrination?
10	Role playing
11	AIDS
12	Role playing
備考	

	週	內 容
後 期	1	Work and play
	2	Role playing
	3	Health and longlife
	4	Role playing
	5	Homes and families
	6	Role playing
	7	Violence on TV
	8	Role playing
	9	Dreams
	10	Role playing
	11	Foreign workers
	12	Role playing
備 考		

評價方法： Grades will be awarded according to attendance, punctuality, effort (提出課題、試驗等) in class and attainment. There will be an oral examination as well as continuous assessment.



	週 內 容
	1 Review of first term material.
	2 Organizing your speech (Putting Your Speech Together, pp.55-63).
	3 Putting Your Speech Together, Exercises pp.63-68.
後	4 Informative speaking (Speaking to Inform, pp.71-82).
	5 Organizing Your Informative Speech, pp.83-91).
	6 Informative Speech Presentation #1 (pp.91-95).
	7 Informative Speech Presentation #2
	8 Persuasive speaking (Speaking to Persuade, pp.117-132).
期	9 Organizing Your Persuasive Speech, (pp.133-144).
	10 Persuasive Speech Presentation #1 (pp.145-149).
	11 Persuasive Speech Presentation #2
	12 Final Examination.
備 考	

評価方法 : Grades will be based on in-class participation (especially speech (提出課題、試験等) presentations), a paper midyear exam, and a final exam oral presentation.

# 英会話18

Advanced (通訳)

担当者：鍋倉 健悦

研究室：[531]

テキスト：なし

目標：基本的な逐次通訳ができるようにする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	通訳概論： 通訳に関する基本知識の学習
2	”
3	国際経済 (詳細未定) ワン・センテンスの逐次通訳練習からスタート。 サイト・トランスレーション、シャドウイングの練習。
4	”
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	国際政治 (詳細未定)
11	”
12	”
備考	



	週	内 容
後 期	1	”
	2	”
	3	”
	4	社会問題（詳細未定）
	5	”
	6	”
	7	”
	8	”
	9	”
	10	”
	11	”
	12	”
備考		

参考文献：英語の通訳（サイマル出版会）、通訳への道（法学書院）

評価方法：毎回の練習がテストとなる

（提出課題、試験等）

# 英会話19

Intermediate

担当者: E. カーニイ      研究室: [529]

テキスト: Print and Videos

目 標: To have the students improve their conversational ability through the study and practice of idiomatic and essential material.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introduction of class and classroom methods. Some examples of practice routines and some general advice.
2	Groups and pairs check. What are individual student's problems in simple communication?
3	Reaction conversation. Short form dialogue with both known and unknown focus point. Introduction of pressure practice.
4	Negative question and some simple ways of mastering its use and surviving its pressures.
5	A practice session on negative question through a wide range of formulas. Advice on practice methods at home.
6	Useful practices for improvement including hearing and expressing. Some vocabulary for idiomatic work.
7	One-minute and two-minute speeches. A check on speeches to locate particular difficulties in expression.
8	Fives. A practice of linked questions that focus on one subject. Time limits in practices.
9	Pronunciation difficulties for Japanese. Exercises and advice. Some telephone practice to emphasize these problems.
10	Hearing practices: emphasizing repeated hearings, reinforcing learned material.
11	Anecdotes: recounting, questioning, explaining.
12	Survey of Spring programme. Casual conversation vs specific. Outline of Autumn schedule.
備考	

週	內 容
1	Established dialogues. Famous scenes from movies. Acting and mimicking. Speaking to or for an audience.
2	Write and act out a conversation. Group and pair work.
3	Politeness and situation, and telephoning various people of different status, talking 'up' and 'across'.
4	Interview practice. coverage of main items. pairs and groups.
5	Continuation of interviews using prepared resume. Handling direct questions and keeping up with your interviewer.
6	Conditional. A guide for use in coversation that tends to avoid grammar consciousness. Abbreviated forms and a success formula.
7	Small descriptions in conversation. How to describe simple actions. A vocabulary for describing action.
8	Presenting a teaching piece. Teach the class your favourite thing using some prop or gimmick.
9	Discussion. establishing a useful vocabulary and communicating contrary ideas safely.
10	Practice in balancing ideas and stating one's opinion. Group and class practice.
11	Four minute speeches open to questions. Handling questions and making your point.
12	Summary of years work, reinforcements. Some advice. Testing.
備考	

評鑑方法 : Grades will be greatly influenced by the amount of classwork done.  
 (提出課題、試驗等) Besides spot quizzes, there will be a test at the end of each term.  
 Test 1: the last class of the first term.  
 Test 2: the last class of the second term.

# 英会話20

Intermediate

担当者: J. J. ダゲン 研究室: [610]

テキスト: P. Gilbert; Super Talk, MacMillan Language House

目 標: In this class, students will be given ample chances to improve their oral communicative skills by making use of the English which they have studied for years, but perhaps have had limited chances to use.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course description and explanation (text pp.iii-viii).
2	Theme #1 (Weddings, pp.1-4): Introduction, Comprehension Questions, Interview Your Partner, Lecture.
3	Theme #1: Topic, Group Discussion.
4	Theme #1: Final Report, Group Presentation. Theme #2 (Planning for Cheap Food, pp.5-10): Intro., Comp.Q's., Interview, Lecture.
5	Theme #2: Topic, Group, Discussion.
6	Theme #2: Final Report, Gr. Pres. Theme #3 (Planning How to Spend Your Money, pp.11-17): Intro., Comp.Q's., Interview, Lecture.
7	Theme #3: Topic, Group, Discussion.
8	Theme #3: Final Report, Group Presentation. Theme #5 (Advertising This School, pp.25-32): Intro., Comp.Q's., Interview, Lecture.
9	Theme #5: Topic, Group, Discussion.
10	Theme #5: Final Report, Group Presentation.
11	Review and make-up
12	Midyear Examination.
備考	

	週	内 容
後 期	1	Review of first term material.
	2	Theme #6 (An Advertising Campaign, pp.33-39): Intro., Comp.Q's., Interview, Lecture.
	3	Theme #6: Topic, Group, Discussion.
	4	Theme #6: Commercial Production Setup.
	5	Theme #6: Commercial Production
	6	Theme #6: Com. Prod. Analysis, Gr. Pres. Theme #8 (Helping People to Travel in Japan): Intro., Comp.Q's., Interv., Lecture.
	7	Theme #8: Topic, Group, Discussion.
	8	Theme #8: Final Report, Group Pres. Theme #9 (Aroud the World in 80 Days, pp.55-61): Intro., Comp.Q's., Interv., Lecture
	9	Theme #9: Topic, Group, Discussion.
	10	Theme #9: Final Report, Group Presentation.
	11	Review and Make-up.
	12	Final Examination.
備 考		

評価方法 : Grades will be based on class attendance and participation (提出課題、試験等) (including group discussions, group presentations, and topics) and on a midyear and final test.

英会話21

Intermediate

担当者: A. R. フォルヴォ

目 標: VIDEO TEACHING MATERIALS -HOME ALONE I II  
TO HELP STUDENTS  
SEE COMMUNICATION IN THE TOTAL CONTEXT  
AND PERCEIVE MANY FACTORS

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	COURSE INTRODUCTION TEACHER EXPECTATIONS GRADING CRITERIA ATTENDANCE
2	GUIDED SELECTION -COMPREHENSION WITH VIEWING GUIDE
3	COLLECTION /PERCEPTION OF VERBAL CLUES I. E. DOUBT, ANGER, HAPPINESS, ETC
4	COLLECTION OF VISUAL CLUES -EXPLOIT CULTURAL INFORMATION -CONTRASTIVELY
5	NOTE TAKING TECHNIQUES- CATERGORIZE, PRIORITIZE AND ANALYZE INFORMATION
6	SIMPLE REPETITION OF BASIC PHRASES AND ESSENTIAL STRUCTURES
7	VOCABULARY COMPREHENSION IN CONTEXT USING NON VERBAL CLUES
8	PRACTICE IN CONTEXT OF COMMUNICATIVE FUNCTIONS IN EXPRESSING EMOTIONS
9	FOCUS ON COPYING GESTURE -GUESSING WHAT IS BEING TALKED ABOUT -NO SOUND
10	SUPRASEGMENTAL FEATURES -INTONATION PATTERNS -VOICE TONE, PAUSE, ETC.
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF WEEKS TWO THROUGH TEN TOPICS DISCUSSED
12	TERM END EXAMINATION ON VIDEO WITH 50 QUESTIONS ON RESPONSE, DESCRIPTION
備考	

		内 容
後 期	1	HOME ALONE II REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION- INTRODUCTION OF SECOND TERM VIDEO
	2	GUIDED SELECTION WITH ADVANCED COMPREHENSION TECHNIQUES
	3	COLLECTION OF PERCEPTION OF VERBAL CLUES OF VARIOUS EMOTIONS
	4	FOCUS ON VISUAL CLUES -EXPLOIT CROSS-CULTURAL DIFFERENCES.
	5	GUIDED NOTE TAKING OF UNSCRIPTED MATERIAL OF SPECIFIC LANGUAGE FEATURES
	6	REPETITION OF MORE ADVANCED COMMUNICATIVES LANGUAGE STRUCTURES
	7	FOCUS ON NONVERBAL CLUES FOR LEXICAL COMPREHENSION
	8	COMMUNICATIVE LANGUAGE FUNCTIONS PRACTICE WITH VISUAL CLUES
	9	GESTURE REPETITION AND PRODUCTION USING NON VERBAL CLUES
	10	FOCUS ON INTONATIONAL FEATURES-VOICE TONE, HEDGING AND HESITATION TECHNIQUES
	11	REVIEW FOR TERM EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGH THE TERM
	12	TERM END EXAMINATION WITH VEDEO-50 QUESTIONS, CONTENT, DESCRIPTION ETC.
備考		

参考文献：SCRIPT OF BOTH VIDEOS

評価方法：CLSS ATTENDANCE, PARTICIPATION

(提出課題、試験等) RESULT OF TWO EX`AMS - 50 QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTION AND CONTENT COMPREHENSION

## 英会話23

Intermediate

担当者: I. ゴメス

テキスト: Point/Counterpoint, G. W. Pifer + N. W. Mutoh, (Newbury House)

目 標: Students will learn how to express their opinions and formulate a persuasive argument on a given topic of debate. They will develop critical thinking skills.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
	1 Intro to Course and each other ; review outline ; give a written placement test : dictation part and write a 6 sentence essay on personal background.
	2 Intro. Unit 1 pp5-6. Explain format of home preparation for classroom discussion. Brainstorm in groups about a personal experience waiting for the bus.
	3 Continue Unit 1. Begin role play preparation by writing a script in groups of 4. pp. 6-7. "Waiting in line" Discuss Indirect/Polite; Direct/Rude speech.
前	4 Unit 2: "A Good Future"-pp. 9-10. "How much influence should a parent have over a teenager's future?" is the topic. Write down key points for role play script.
	5 Continue "A Good Future"-Continue refining scripts and focus on voice as a tool for persuasion. Do role plays and write key phrases on board.
	6 Unit 4: "Little White Lies" pp. 16-17. Discuss a "White lie" as opposed to a big /dark lie" Should a person say them and when?
	7 Continue "Little White Lies"-Role play. Discuss reasons why students told "White lies" pp. 18-19.
	8 Unit 11: "Yes sir, Yes Ma'am"-pp. 41-42. Is there a limit to how much children should obey their parents? -Make a list of what should be obeyed.
	9 Continue "Yes sir, Yes Ma'am" pp. 43. Role play. Focus on body language + voice this time. Really persuade.
	10 Free-style class-decide on a controversial topic students confront in their college life and role play it. To practice "improvisation"-No script allowed.
	11 Review Class-vocabulary, idioms and key expressions will be discussed.
	12 Mid-term exam in class on Units 1, 2, 3, 4, 11. Timed oral test during exam based on a question two students will debate with the teacher.
備考	



週	內 容
1	Unit 12: "Living With In-Laws"-p. 49 Should in-laws live with their children? Analyze the letter on p. 49. Discuss personal situations in groups.
2	Unit 12: Continue. Have role-plays. p. 51-53. Expand the role plays to be dramatic, specific + persuasive.
3	More of Unit 12- groups of 6 : Speaking up in a large group is the challenge today. Asserting oneself.
4	Unit 16 -p. 71- Intro the idea of "conformity", tradition, "custom", and brainstorm about "Uniforms".
5	Begin to role play unit 16 on Uniforms. Form 2 large groups - a school board and a company.
6	Finish role plays on "uniforms. Challenge is on speaking out in a very large group.
7	Unit 21 -p. 100-101 "Whom Should We Hire?" - Do you prefer "experience to recent education" as hiring criteria?"
8	Continue Unit 21 -p. 102-103. expressing certainty, supporting evidence or examples, clarifying main point.
9	Role plays of job interviews. Forcus on selling yourself to the employer by highlighting strengths.
10	A film to be announced such as "Father of the Bride" to discuss and compare the tradition of weddings as a social + cultural ritual. Part I.
11	Finish film Part II Discuss. Criteria in small groups.
12	Final Exam : Unit 12, 16 and 21.
備考	

## 英会話24

Intermediate

担当者: G. S. ゴーマン

テキスト: SCREENPLAY ' FRIED GREEN TOMATOES. '

目 標: TO ENHANCE THE STUDENT'S ABILITY  
TO HEAR, READ AND DISCUSS CONTEMPORARY AMERICAN ENGLISH.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前           期	1	INTRODUCTION AND OUTLINE OF COURSE.
	2	DISCUSSION AND ANALYSIS OF MOVIE REVIEW.
	3	DISCUSSION AND ANALYSIS OF SETTING AND LANGUAGE USED IN MOVIE.
	4	MOVIE-ANALYSIS AND DISCUSSION. OF 10 MINUTES.
	5	ADDITIONAL DISCUSSION OF DIALECT USED IN MOVIE.
	6	DISCUSSION AND ANALYSIS OF NEXT 10 MINUTES.
	7	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
	8	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
	9	STUDENT ORAL REPORTS AND DISCUSSION OF BLACK/WHITE RELATIONS IN US.
	10	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
	11	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
	12	REVIEW OF MOVIE TO DATE. TEST.
備考		

週	內 容
1	REFRESHER SYNOPSIS OF MOVIE.
2	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
3	ANALYSIS AND DISCUSSION OF MAIN CHARACTERS OF MOVIE.
4	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
5	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
6	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
7	STUDENT REPORTS AND DISCUSSION OF CONTEMPORARY BLACK/WHITE RELATIONS.
8	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 10 MINUTES.
9	ANALYSIS OF CHANGE IN THE MOVIE CHARACTERS.
10	ANALYSIS AND DISCUSSION OF LAST 10 MINUTES.
11	DISCUSSION AND ANALYSIS OF ENTIRE MOVIE.
12	COURSE CRITIQUE/EVALUTION. TEST.
備考	

評鑑方法：STUDENTS WILL BE RATED ON THE BASIS OF ATENDANCE, PARTICIPATION AND MID-TERM/FINAL TEST.

英会話25

Intermediate

担当者: G. S. ゴーマン

テキスト: SCREENPLAY OF 'DANCE WITH WOLVES.'

目標: TO ENHANCE THE STUDENT'S ABILITY  
TO HEAR, READ AND DISCUSS DIALECT  
ICAL AMERICAN ENGLISH.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	INTRODUCTION AND OUTLINE OF COURSE.
2	ANALYSIS AND DISCUSSION OF CULTURAL BACKGROUND TO MOVIE.
3	DISCUSSION OF MOVIE REVIEW.
4	DISCUSSION AND ANALYSIS OF FIRST 15 MINUTES.
5	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
6	ANALYSIS AND DISCUSSION OF CULTURAL BACKGROUND (NATIVE AMERICANS).
7	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
8	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
9	DISCUSSION OF MYTHOLOGY OF THE AMERICAN WEST.
10	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
11	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
12	REVIEW OF MOVIE. TEST.
備考	

	週	內 容
後 期	1	REFRESHER SYNOPSIS OF MOVIE.
	2	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	3	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	4	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	5	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	6	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	7	DISCUSSION OF NATIVE AMERICAN/WHITE PROBLEMS.
	8	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	9	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	10	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	11	ANALYSIS AND DISCUSSION OF NEXT 15 MINUTES.
	12	REVIEW OF ENTIRE MOVIE. CRITIQUE & EVALUATION OF COURSE. FINAL TEST.
備 考		

評估方法：STUDENTS WILL BE RATED ON ATTEND-  
 (提出課題、試驗等) ANCE, PARTICIPATION, THE MID-TERM  
 AND FINAL TESTS.

# 英会話26

Intermediate

担当者：K. ハリス

テキスト：None

目標：

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introduction to the course. Handout syllabus. Student introductions.
2	Begin situation English lessons. Situations will be chosen by teacher and students.
3	Continue situations which include writing dialogs.
4	Situational English. with video
5	Situational English.
6	Begin group discussions. Topics will be chosen by teacher and students.
7	Group disc.
8	Group disc. with video
9	Group disc. with video
10	Situational English
11	Group discussion
12	Exam $\frac{1}{2}$ written-dialog and $\frac{1}{2}$ group discussion participation
備考	

週	內 容
1	Language Activity - Centering on vacation experiences.
2	Begin strategic interaction work. Students will work with more complex situations.
3	Continue strategic interactions with video.
4	Strategic interactions.
5	Strategic interactions.
6	Begin group debate. Students will formulate positions on a given topic and debate the
7	pro's and cons of various viewpoints.
8	Continue group debate
9	Group debate
10	Projects-presented by small groups, giving the pro's and con's of an issue.
11	Projects.
12	Exam -group discussion and written pro and con analysis.
備考	

評價方法 : Students will be graded primarily on their class participation, ie, speaking in class, participating in group discussions, etc.

Projects will be another important factor, for grades, followed by exams, and homework.

Students will be expected to attend classes regularly, and participate in every lesson.

# 英会話27

Intermediate

担当者: T. ヒル 研究室: [627]

テキスト: Talk it Over (LONGMAN)

目 標: To introduce the necessary vocabulary and teach interaction skills for discussion of issues of concern to young adults.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introduction to the course.
2	Going for an interview: how to portray yourself in a good light.
3	Sport and its role in our modern society.
4	Crime and Punishment: how to get the balance right.
5	Water: its importance, and what should be done about pollution.
6	Famous stories of Japan - what is their moral significance?
7	Age: how old is too old?
8	Time: how it should be divided between study and leisure.
9	Children today have too much — at least in the Advanced Nations.
10	Electronic equipment: the problems and the benefits.
11	Success: what is it and how can it be achieved?
12	Test — A speech (10 mins)
備考	



	週	內 容
後 期	1	Should students take part-time jobs?
	2	Honesty: what is it? Is it always desirable?
	3	Smoking: should it be prohibited in all work areas?
	4	Scientific experiments: good or bad?
	5	What should schools teach?
	6	The Family: should all members have equal rights?
	7	Motor vehicles: a blessing or curse?
	8	The generation gap and how the problem should be solved.
	9	The importance of work, both physically and mentally.
	10	School vacations and their purpose.
	11	Examinations: their role in education.
	12	Final test — A speech (10 mins)
備考		

評估方法：Students will be graded on participation in class discussion, (提出課題、試驗等) mid-term and final speech, and attendance.

# 英会話28

Intermediate

担当者: C. B. 池口

テキスト: Speech Communication for International Students; P. Dale and H. Wolf

目標: This course is designed to assist students to further improve, more than fluency, 'creativity' in speaking. Role-play, pair-work and group discussions will prepare students for individual presentations, the end goal of which is effective communication.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course Orientation. This will include course description, course objectives, evaluation methods and details of the term's course content and schedule.
2	Chapter 1: Speaking to develop self-confidence. The lesson will include simple helpful tips and exercises to prepare students for their individual speeches.
3	Supplementary print: an application of the rules of the game. Group discussions and oral report. Graded
4	Informal speeches based on Chapter 1: individual presentation
5	Chapter 2: Thinking on your feet. The lesson will include simplified guidelines and exercises for impromptu speeches.
6	Supplementary print: Group discussions and presentation based on the guidelines given.
7	Graded impromptu speech: individual presentation.
8	Graded impromptu speech: continued
9	Contemporary movie: session 1 (viewing)
10	Contemporary movie: session 2 Graded group discussions on the social issues involved in the movie.
11	Summary and course evaluation for the 1st term
12	
備考	

週	內 容
1	Course Re-orientation: The lesson will consist of explaining course objectives, requirements, and content and schedule for the 2nd term.
2	Chapter 5: Speaking to inform. The basic principles of informative speeches will be presented, classroom exercises for individual speeches.
3	Supplementary Print. Group discussions will focus on central relevant issues after which oral presentations will follow.
後	4 Presentation of Mini-informative speeches.
5	Chapter 7: Speaking to Persuade. Fundamental principles and guidelines for speech presentation.
6	Supplementary Print. Relevant issues will serve to provide topics for informative speech presentation.
7	Graded Persuasive Speech Presentation
8	Contemporary Film Viewing
期	9 Contemporary Film Viewing continued
10	Discussion on the Pros and Cons of the issues involved in the film will be graded
11	Summary and course evaluation for the 2nd term and for the school-year.
12	
備 考	

評估方法： Student grades will be based on class performance which will include class (提出課題、試講等) discussions, oral presentations, a midyear and a final test.

英会話29・30

Intermediate

担当者: N. H. ジョスト

テキスト: Stories From Lake Wobegon by Longman; Monologues by Garrison Keillor.

目標: To provide students of intermediate level with an opportunity to develop conversation skills, to develop listening skills, and to learn about and appreciate American culture through the use of authentic monologues from American radio.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Course introduction: Aims of the course; requirements of the students; class procedure; class policy; grading system; and interviewing and selection of students.
2	Introductions and lecture: Student introductions; lecture, "Methods of learning English: Individually and Chorally."
3	<i>The Living Flag</i> unit one: Theme patriotic events; writing task; guided discussions.
4	Second half of unit one: tasks based on the use of the causative verb.
5	<i>A day at the Circus with Mazumbo</i> , unit two: Theme being a parent; news stories.
6	Second half of unit two: tasks based on news headlines. Short review of last two units; preparations for unit three.
7	<i>Bruno the Fishing Dog</i> unit three: Theme being appreciated; "would" in the habitual past.
8	Second half of unit three: tasks based on the use of would in the habitual past; assign preparations for midterm exam.
9	<i>Sylvester Krueger's Desk</i> , unit four: Theme heroes, use of present and perfect participles.
10	Second half of unit four: tasks based on the use of the present and perfect participles.
11	Preparations for midterm examination.
12	Midterm examination.
備考	

	内 容
	1 Return examination and lecture: "Importance of Vocabulary Acquisition," start unit five.
	2 <i>The Lake Wobegon Cave</i> , unit five: Theme tall tales; use of reported speech.
	3 Second half of unit five: tasks based on the use of reported speech.
後	4 <i>Thanksgiving: The Exiles Return</i> , unit six: Theme going home; past perfect; writing tasks.
	5 Second half of unit six: tasks based on the use of past perfect.
	6 <i>Father Emil's Starry Night</i> , unit seven: Theme finding a vocation; present perfect
	7 Second half of unit seven: tasks based on the use of the present perfect.
	8 <i>Storm Home</i> , unit eight: Theme finding a haven; present unreal conditions.
期	9 Second half of unit eight: tasks based on the use of modal; perfects and past unreal.
	10 <i>Starting the Car in Winter</i> : unit nine: theme accepting help; review for final exam.
	11 Final examinations
	12 Continue final examinations; student evaluations.
備 考	

英会話31・32

Intermediate

担当者: D. M. マイヤーズ

テキスト: I PLAN TO DISTRIBUTE PRINTED READINGS THE WEEK PRECEDING EACH DISCUSSION

目 標: THIS COURSE WILL BE A FORUM FOR WEEKLY DISCUSSION OF SELECTED SOCIAL ISSUES WHICH I BELIEVE WILL BE OF INTEREST TO THE STUDENTS.

THE DISCUSSION TOPICS THEMSELVES ARE LISTED BELOW:

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	THE SIGNIFICANCE OF SPORTS AND OTHER PHYSICAL ACTIVITIES FOR THE MAINTENANCE OF INDIVIDUAL WELL-BEING AND HEALTH
2	THE CHARACTER, QUALITY, DEFECTS, AND PROPOSALS FOR THE REFORM OF ENGLISH-LANGUAGE EDUCATION IN CONTEMPORARY JAPAN
3	MUSIC AS VOCATION, AVOCATION, OR MERELY RELAXATION IN THE LIFE OF THE MODERN INDIVIDUAL
4	THE USE AND ABUSE OF ALCOHOL IN TRADITIONAL AND CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY
5	TO WED OR NOT? AND IF SO, WHEN, AND ON WHAT TERMS?: THE CHANGING INSTITUTION OF MARRIAGE IN MODERN JAPAN
6	THE ROLE OF TRAVEL IN BROADENING THE PERSPECTIVES OF THE INDIVIDUAL AND FACILITATING INTERNATIONAL CULTURAL EXCHANGE
7	JAPAN'S CHANGING POPULATION: THE CAUSES, EFFECTS, ATTITUDES, AND RESPONSES TO THE PRESENCE IN JAPAN OF INCREASING NUMBERS OF ILLEGAL FOREIGN WORKERS
8	JAPAN'S CRIMINAL UNDERWORLD: PARAGONS OF TRADITION? OR DANGEROUS PREDATORS?
9	DEFINITION OF REALITY, OR ITS DISTORTION?: THE ROLE OF THE MEDIA IN EDUCATING AND INFORMING, OR MISINFORMING, THE RESPONSIBLE INDIVIDUAL
10	INTERNATIONAL MARRIAGE: GARDEN OF OPPORTUNITY, OR MINEFIELD OF CULTURAL MISUNDERSTANDING?
11	THE SEMPAI-KOHAI RELATIONSHIP AND THE SUBORDINATION OF THE INDIVIDUAL TO THE GROUP: GOOD AND BAD RESULTS
12	EAST IS EAST AND WEST IS WEST. BUT WILL THE TWAIN YET MEET?: EAST-WEST CULTURE DIFFERENCES IN THE CONTEXT OF CONTEMPORARY JAPAN
備考	

週	内 容
1	THROUGH THE "TELEVISION WASTELAND": ADVANTAGES AND LIABILITIES OF SPENDING TIME BEFORE THE "TUBE"
2	"WHAT DO WOMEN WANT?": WOMEN'S STATUS AND AMBITIONS, AND THE FORCES BLOCKING THEM, IN CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY
3	"ANIMALS ARE PEOPLE, TOO": HOW FAR SHOULD SOCIETY GO TO SEE THAT MAN'S BEST FRIEND, AND THE OTHER MEMBERS OF THE ANIMAL KINGDOM, ARE TREATED HUMANELY?
4	CINEMATOGRAPHY AND IMAGINATION: THE POWER OF FILMS IN FORMING AN INDIVIDUAL'S WORLD VIEW AND ASPIRATIONS
5	FROM MANGA TO MAUPASSANT: THE LURE OF LITERATURE, AND ITS CONTRIBUTION TO OUR EVERYDAY LIVES
6	"WHAT ARE YOU DOING TO DECREASE TOKYO'S TRASH?": PRACTICAL MEASURES FOR THE INDIVIDUAL CONCERNED TO PRESERVE THE ENVIRONMENT
7	TAROT CARDS, TEMPLES, TESOs, AND UFO'S: THE PERENNIAL APPEAL OF RELIGION, MAGIC, MYSTERY, AND THE OCCULT TO THE IRRATIONAL SIDE OF OUR HUMAN NATURE
8	FROM BEETHOVEN TO THE BEATLES: THE IMPORTANCE OF MUSIC IN OUR LIVES
9	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
10	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
11	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
12	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
備考	

# 英会話33

Intermediate

担当者: L. ヴィレヌーヴ

テキスト: English Idioms and Colloquial Expressions

目 標: This course covers more than 140 idioms and colloquial expressions.  
It is designed to help the student increase his/her understanding of more complex words encountered in daily life. A story takes us to New York from Kuwait. Key Word: Come! Relax! Improve!

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Description of a family life pp.1-3
2	A fight between two brothers breaking the family harmony pp.7-9
3	A journey with class pp.13-15
4	Going through customs pp.19-21
5	Checking in a hotel and apartment hunting pp.25-27
6	Midterm review pp.1-27
7	Opening a bank account pp.31-33
8	A holdup pp.37-39
9	How to buy a car pp.43-45
10	At a restaurant pp.49-51
11	The Good Indian pp.55-57
12	Final Exam
備考	



週	内 容
1	A romance with a nurse pp. 61-63
2	The wedding pp. 67-69
3	A football game pp. 73-75
4	Visit to an amusement park pp. 79-81
5	The divorce pp. 85-87
6	Midterm Review pp. 61-87
7	A catastrophe pp. 91-93
8	New York pp. 97-99
9	A visit to Central Park pp. 103-105
10	The beggar pp. 109-111
11	The return to the homeland pp. 115-117
12	Final Exam: comprehension test on the whole story
備考	

参考文献 : None

評価方法 : Attendance is A MUST FOR THE THIRD YEAR students.

(提出課題、試験等) Each participant will be evaluated according to his/her activity in class and the result of the comprehension test. For the fourth year students half of the class attendance is required, as well as the final comprehension test.

# 英会話34

Intermediate

担当者: L. ヴィレヌーヴ

テキスト: English Idioms and Colloquial Expressions

目標: This course covers more than 140 idioms and colloquial expressions. It is designed to help the student increase his/her understanding of more complex words encountered in daily life. A story takes us to New York from Kuwait. Key Word: Come! Relax! Improve!

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Description of a family life pp. 1-3
2	A fight between two brothers breaking the family harmony pp. 7-9
3	A journey with class pp. 13-15
4	Going through customs pp. 19-21
5	Checking in a hotel and apartment hunting pp. 25-27
6	Midterm review pp. 1-27
7	Opening a bank account pp. 31-33
8	A holdup pp. 37-39
9	How to buy a car pp. 43-45
10	At a restaurant pp. 49-51
11	The Good Indian pp. 55-57
12	Final Exam
備考	

週	内 容
1	A romance with a nurse pp. 61-63
2	The wedding pp. 67-69
3	A football game pp. 73-75
4	Visit to an amusement park pp. 79-81
5	The divorce pp. 85-87
6	Midterm Review pp. 61-87
7	A catastrophe pp. 91-93
8	New York pp. 97-99
9	A visit to Central Park pp. 103-105
10	The beggar pp. 109-111
11	The return to the homeland pp. 115-117
12	Final Exam: comprehension test on the whole story
備考	

参考文献 : None

評価方法 : Attendance is A MUST FOR THE THIRD YEAR students.

(提出課題、試験等) Each participant will be evaluated according to his/her activity in class and the result of the comprehension test. For the fourth year students half of the class participation is required, as well as the final comprehension test.

英会話35

Intermediate

担当者: J. J. ウォールドマン

テキスト: Instead of a textbook, prints will be used to increase participation, meet specific language needs, and provide variety.

目標: To help students raise their level of fluency and increase their understanding of cultural differences through conversation activities and group discussions.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introductions with students and teacher. An explanation of the syllabus, teacher's grading system, and requirements.
2	Activities will revolve around students' ideas for topics they would like to discuss throughout the semester.
3	Discussions will center around the importance of listening to English to increase speaking. Listening homework, in the form of a listening diary, will be explained.
4	The differences and similarities between American and Japanese universities will be the main cultural topic.
5	Pronunciation and intonation practice.
6	Discussions will be on conversation techniques such as hesitating, interrupting politely, and useful classroom phrases.
7	Quiz on material given in the first 6 lessons. Listening practice using storytelling techniques.
8	Discussion of dating and marriage customs will be the cultural topic.
9	Pronunciation and intonation practice.
10	Listening practice using storytelling and retelling.
11	Oral test - Speeches on some aspect of Japanese culture will be given by students.
12	Communication practice using English word games.
備考	

週	内 容
1	Communication practice using music to facilitate speaking.
2	Discussion and comparison of education in regards to AIDS.
3	English by newspapers to widen range of conversation topics and improve information gathering skills.
後	4 A continuation of English by newspaper.
5	Discussion of homework project to meet and interview a non-Japanese person and report about their life in Japan.
6	Pronunciation and intonation practice.
7	Discussion of essential Japanese-American cultural differences.
8	Listening practice using storytelling techniques.
期	9 Discussion of American-Japanese leisure activities and attitudes toward work and family life.
10	Communication practice using English word games.
11	Oral test.
12	Written student self-evaluation and course evaluation.
備 考	

# 英文法 1

担当者：児玉 仁士 研究室：[614]

テキスト：A. Waldhorn, A. Zeiger; *A Practical English Grammar for College Students*, 金星堂

目 標： 英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	英文法の予備知識として、その概要を説明する。
	2	文の構成（第1章）：品詞およびその分類（第2章）について
	3	名詞の形態（数・性・格）（第3章）について
	4	代名詞およびその用法（第4章）について
	5	動詞および文中におけるその機能（第5章）について
	6	時制・法・態（第5章）について
	7	形容詞とその機能（第6章）について
	8	副詞およびその位置（第7章）について
	9	接続詞（等位接続詞・従位接続詞）（第8章）について
	10	前置詞およびその機能（第9章）について
	11	準動詞（動名詞・分詞・不定詞）（第10章）について
	12	句（名詞句・形容詞句・副詞句）と節（名詞節・形容詞節・副詞節）について
備考		

	週	内 容
後 期	1	一致 (agreement) (Section-第1章) : 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について
	2	代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) (第2章) について
	3	代名詞の照応 (第3章) について
	4	時制の一致 (第4章) について
	5	助動詞の用法 (特に法助動詞) (第4章) について
	6	形容詞・副詞の機能上の相違 (第5章) について
	7	副詞の配列 (第5章) について
	8	修飾語・句の問題点 (1 : 懸垂分子・懸垂不定詞) (第6章) について
	9	修飾語・句の問題点 (2 : 懸垂動名詞) (第6章) について
	10	語・句・節の配列の一貫性 (第7章) について
	11	並列に関する問題点 (第8章) について
	12	文における省略 (特に文体上) の問題 (第9章) について
備考		

参考文献 : ロングマン : Language Activator

: Dictionary of Contemporary English

評価方法 : 前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。  
(提出課題、試験等)

## 英文法 2

担当者：近藤 ヒカル                      研究室：[608]

テキスト：プリント使用

目 標：この授業の目的は現代英語の文章（特に文学作品）を読む上での、および中学・高校の英語教師になった場合の英語の文法的な素養を養うことにあるので、イギリス英語（英文法2）とアメリカ英語（英文法3）で書かれた実際の作品を読みながら、以下のスケジュールに従って文法事項を履修するものとする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	文の種類（平叙－疑問、肯定－否定、叙実－叙想、命令－感嘆、5文型、単文－複文－重文）
2	名詞の種類（可算－不可算、集合－群集、物質名詞の個別化、抽象名詞の語形成と助数詞、固有名詞の普通名詞化）
3	名詞の数（規則－不規則複数、複合名詞の複数、動詞との呼応、複数名詞の形容詞用法）
4	名詞の性と格（性の表し方、通性、副詞的属格・与格・対格、性状の対格、所有格の作り方、群属格、所有格の意味、二重所有格）
5	人称代名詞と不定代名詞（特殊用法のwe、総称複数、特殊用法のit、/any, one, none, each, every, all, both）
6	疑問代名詞と関係代名詞（従属節中での役割と文中での役割、関係代名詞の諸用法：限定－継続、反復、二重限定、省略、as, than, but、複合関係代名詞）
7	前週の続き
8	形容詞の種類と用法（限定用法－前位修飾と後位修飾、叙述用法）
9	形容詞の比較変化（語としての規則・不規則変化の諸形式、文としての比較の諸形式）
10	数詞（基数・序数・倍数によるさまざまな単位の表し方）
11	冠詞（定冠詞と固有名詞、冠詞の省略と語順、冠詞と2個以上の名詞）
12	副詞（単純・疑問・関係副詞、副詞の機能と他品詞との関係、動詞修飾副詞の文中での位置－様態・程度・期間・時・場所・助動詞修飾・副詞語・文修飾）
備考	各文法事項につき受講生に分担を決めてレポート形式で発表してもらう。



	週	内 容
後 期	1	動詞の種類と5文型（完全・不完全自動詞、完全・授与・不完全他動詞）
	2	動詞の活用と主語・述語の一致
	3	能動態と受動態
	4	動詞の時制（現在・過去・未来時制の意義、完了時制の諸形式）
	5	法（仮定法の諸時制と諸形式、および条件節の省略）
	6	助動詞（種類、will, shallの用法）
	7	準動詞（不定詞）
	8	準動詞（分詞）
	9	準動詞（動名詞）
	10	接続詞（等位接続詞、従位接続詞と従節の機能）
	11	話法（話法の種類、話法の転換）
	12	間投詞、句と節
備 考		前期に同じ。

評価方法：成績評価は前期・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。  
（提出課題、試験等）



週	内 容
1	動詞の種類と5文型（完全・不完全自動詞、完全・授与・不完全他動詞）
2	動詞の活用と主語・述語の一致
3	能動態と受動態
4	動詞の時制（現在・過去・未来時制の意義、完了時制の諸形式）
5	法（仮定法の諸時制と諸形式、および条件節の省略）
6	助動詞（種類、will, shallの用法）
7	準動詞（不定詞）
8	準動詞（分詞）
9	準動詞（動名詞）
10	接続詞（等位接続詞、従位接続詞と従節の機能）
11	話法（話法の種類、話法の転換）
12	間投詞、句と節
備考	前期に同じ。

評価方法：成績評価は前期・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。  
 （提出課題、試験等）



	週	内 容
後 期	1	(12)冠詞 不定冠詞・定冠詞(の用法)・無冠詞・冠詞の反復 (第8章 pp. 67-72)
	2	(13)形容詞 限定用法と叙述用法・限定用法だけの形容詞・叙述用法だけの形容詞・形容詞の語順 (第10章 pp. 81-83)
	3	(14)分詞形容詞と分詞・分詞形容詞・動詞的形容詞・数量形容詞・基数詞と序数詞 (第10章 pp. 84-88)
	4	(15)副詞 副詞の種類・形容詞と同形の副詞・副詞の位置と用法 (第11章 pp. 89-94)
	5	(16)注意すべき副詞 — 特に類似した副詞の使い分けを扱う。 (第11章 pp. 94-97)
	6	(17)比較構文 比較構文と形容詞・原級・比較級・最上級 (第12章 pp. 98-101)
	7	(18)注意すべき比較構文(比較級・最上級)・慣用表現 (第12章 pp. 101-107)
	8	(19)否定 否定の種類・語否定・文否定・部分否定と全体否定 (第14章 pp. 120-122)
	9	(20)注意すべき否定表現・否定の意味を含む肯定文 (第14章 pp. 123-125)
	10	(21)仮定法 条件文の仮定法(仮定法過去完了・仮定法現在・条件節の省略・主節の省略) (第15章 pp. 126-129)
	11	(22)条件文以外の仮定法(祈願・願望・命令・要求などの表現) (第15章 pp. 129-131)
	12	◇最終試験(1年間学んだことについて総合的な問題を出題)
備考	前期の備考欄参照のこと。	

参考文献：○教室で必要に応じてあげる。

評価方法：○前期レポート(一定の課題について)／後期 ペーパーテスト／平常点、  
(提出課題、試験等) 出席など、これら3つを考慮に入れ総合的に判定する。



週	内 容
1	Varying the message: modality
2	前週の続き
3	Expressing time: verb tenses & adjuncts of time
4	前週の続き
5	前週の続き
6	Expressing manner and place: adjuncts & manner
7	前週の続き & place
8	Reporting what people say or think
9	前週の続き
10	Combining messages: subordination and coordination
11	Making text: cohesion & ellipsis
12	The structure of information
備考	

参考文献：リーチ&スヴァルトヴィック『現代英語文法』紀伊國屋書店

評価方法：ふだんの発表と定期試験および授業を活発にするためにどれだけ貢献したか（提出課題、試験等）による。

## 英文法 6

担当者：三好 健

研究室：[527]

テキスト：Margaret M. Bryant: Modern English Syntax

目 標： 英文のテキストを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、主として読解力の向上と、教職のための実力養成を目指したい。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
	2	品詞について。(テキスト第1章)
	3	文の構造について。(テキスト第2章)
	4	文の機能について。(テキスト第3章)
	5	節について。(その1. 名詞節) (テキスト第4章)
	6	節について。(その2. 形容詞節) (テキスト第5章)
	7	節について。(その3. 副詞節) (テキスト第6章)
	8	主語について。(テキスト第8章)
	9	代名詞の照合について。(テキスト第9章)
	10	動詞について。(テキスト第11章)
	11	目的語について。(テキスト第12章)
	12	補語について。(テキスト第13章)
備考		



	週	内 容
後 期	1	動詞句について。(テキスト第14章)
	2	助動詞について(その1. shallとwill)。(テキスト第15章)
	3	助動詞について(その2. shall, will 以外と擬似助動詞)。 (テキスト第16章)
	4	形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
	5	副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
	6	否定について。(テキスト第19章)
	7	比較について。(テキスト第20章)
	8	態について。(テキスト第21章)
	9	仮定法について。(テキスト第24章)
	10	不定詞について。(テキスト第25章)
	11	分詞について。(テキスト第26章)
	12	話法について。(テキスト第27章)
備考		

参考文献：第1回目の授業で指示する。

評価方法：平常の成績と年2回の試験による。

(提出課題、試験等)



週	内 容
1	動詞の種類について。(テキスト:「動詞」第1節)
2	動詞の活用・時制について。(テキスト:「動詞」第2～3節)
3	態について。(テキスト:「動詞」第4節)
4	仮定法について。(テキスト:「動詞」第5節)
5	命令法・助動詞について。(テキスト:「動詞」第6～7節)
6	不定詞について。(テキスト:「動詞」第8節)
7	分詞について。(テキスト:「動詞」第9節)
8	動名詞について。(テキスト:「動詞」第10節)
9	前置詞について。(テキスト:「前置詞」)
10	接続詞・感投詞について。(テキスト:「接続詞」「感投詞」)
11	一致について。(テキスト:「一致」)
12	語順について。(テキスト:「語順」)
備考	

参考文献:第1回目の授業で指示する。

評価方法:平常の成績と年2回の試験による。

(提出課題、試験等)

## 時事英語 I - 1

担当者：新井 妥門

テキスト：なし

目 標： テレビ・ラジオから録音したニュース等を教材として使い、ディクテーションすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	オリエンテーション
	2	教材のレコーディング
	3	ディクテーション 1
	4	ディクテーション 2
	5	ディクテーション 3
	6	ディクテーション 4
	7	教材のレコーディング
	8	ディクテーション 5
	9	ディクテーション 6
	10	ディクテーション 7
	11	ディクテーション・8
	12	テスト
備考	L・L教室を使用する予定。60分のカセットテープを持参すること。	

	週	内 容
後 期	1	教材のレコーディング
	2	ディクテーション 9
	3	ディクテーション 10
	4	ディクテーション 11
	5	教材のレコーディング
	6	ディクテーション 12
	7	ディクテーション 13
	8	ディクテーション 14
	9	ディクテーション 15
	10	ディクテーション 16
	11	まとめ
	12	テスト
備 考		

評価方法：定期試験 出席状況  
 (提出課題、試験等)

## 時事英語 I - 2

担当者：新井 妥門

テキスト：なし

目 標： テレビ・ラジオから録音したニュース等を教材として使い、ディクテーションすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	オリエンテーション
	2	教材のレコーディング
	3	ディクテーション 1
	4	ディクテーション 2
	5	ディクテーション 3
	6	ディクテーション 4
	7	教材のレコーディング
	8	ディクテーション 5
	9	ディクテーション 6
	10	ディクテーション 7
	11	ディクテーション 8
	12	テスト
備考	L・L教室を使用する予定。60分のカセットテープを持参すること。	

	週	内 容
後 期	1	教材のレコーディング
	2	ディクテーション 9
	3	ディクテーション 10
	4	ディクテーション 11
	5	ディクテーション 12
	6	教材のレコーディング
	7	ディクテーション 13
	8	ディクテーション 14
	9	ディクテーション 15
	10	ディクテーション 16
	11	まとめ
	12	テスト
備考		

評価方法：定期試験 出席状況

(提出課題、試験等)

## 時事英語 I - 3

担当者：海老沢 達郎

テキスト：①「英字新聞の読み方ハンドブック」海老沢達郎。

②「英字新聞の読み方練習ノート」海老沢達郎。

目標：英字新聞の基本的な読み方を指導すると同時に、外国の権威ある評論家等が執筆した高い水準の記事を味読し、英字新聞を読む楽しさを指導していきたい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	第2回目の授業では「英字新聞を読む意義と読み方」について講義する。 (②の教科書：PP. 1-2)
3	第3回目の授業では「英字新聞の特徴」について講義する。 (①の教科書：PP. 1-11)
4	第4回目の授業では「通信社」について講義し、ヘッドラインとリード(1)-(5)までを読み、解説する。(①の教科書：PP. 12-16, ②の教科書：P. 4)
5	第5回目の授業ではヘッドラインとリード(6)-(17)までを読み、解説する。 (②の教科書：PP. 5-7)
6	第6回目の授業ではヘッドラインとリード(18)-(29)までを読み、解説する。 (②の教科書：PP. 7-9)
7	第7回目の授業ではヘッドラインとリード(30)-(41)までを読み、解説する。 (②の教科書：PP. 10-12)
8	第8回目の授業ではヘッドラインとリード(42)-(53)までを読み、解説する。 (②の教科書：PP. 12-14)
9	第9回目の授業ではヘッドラインとリード(54)-(60)までを読み、解説する。 (②の教科書：PP. 15-16)
10	第10回目の授業では「日本人執筆による評論記事」について読み、解説する。 (②の教科書：PP. 18-19)
11	第11回目の授業では前期のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では、平常試験を行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。



週	内 容
1	第1回目の授業では前期の平常試験の解答と諸注意などを行なう。
2	第2回目の授業では「日本人執筆による評論記事（後半）」を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 19-20）
3	第3回目の授業では「投書欄」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 22-23）
4	第4回目の授業では「投書欄（後半）」の記事を読み、解説し、ディスカッションを行なう。（②の教科書：PP. 24-25）
5	第5回目の授業では「世界の英字紙」について講義し、「コラム欄①」の記事を読み、解説する。（①の教科書：PP. 17-22, ②の教科書：PP. 27-28）
6	第6回目の授業では「コラム欄①（後半）」の記事を読み、解説し、「コラム欄②」の記事を読む。（②の教科書：PP. 29-31）
7	第7回目の授業では「コラム欄②（後半）」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 31-33）
8	第8回目の授業では「オピニオン欄①」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 43-45）
9	第9回目の授業では「オピニオン欄②」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 46-47）
10	第10回目の授業では「文化欄」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 49-50）
11	第11回目の授業では「文化欄（後半）」の記事を読み、解説する。 （②の教科書：PP. 51-52）
12	第12回目の授業では後期のまとめを行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

参考文献：教室で指示する。

評価方法：評価は前期の平常試験と後期のレポートと授業への貢献度によって決定する。  
（提出課題、試験等）授業は予め予習してあることを前提として講義する。

## 時事英語 I - 4

担当者：海老沢 達郎

テキスト：①「英字新聞の読み方ハンドブック」海老沢達郎。②プリント

目 標：米国の代表的新聞であるThe New York Timesを使用して、米国がどのような国際問題、国内問題に関心を持っているかについて講義し、考えてみたい。同時にThe New York Timesの読み方を指導する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	第2回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース①」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 1-2)
3	第3回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース②」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 3-4)
4	第4回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース③」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 5-6)
5	第5回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース④」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 7-8)
6	第6回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑤」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 9-10)
7	第7回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑥」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 11-12)
8	第8回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑦」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 13-14)
9	第9回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑧」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 15-16)
10	第10回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑨」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント：PP. 17-18)
11	第11回目の授業では前期のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では、平常試験を行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

週	内 容
1	第1回目の授業では前期の平常試験の解答と諸注意を行なう。
2	第2回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑩」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント: PP. 19-20)
3	第3回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑪」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント: PP. 21-22)
4	第4回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑫」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント: PP. 23-24)
5	第5回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑬」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント: PP. 25-26)
6	第6回目の授業では「主要な国際ニュースと国内ニュース⑭」のサマリー記事を読み、解説する。(プリント: PP. 27-28)
7	第7回目の授業では「国内ニュース①」の記事を読み、解説する。 (プリント: P. 29)
8	第8回目の授業では「国内ニュース①(後半)」の記事を読み、解説する。 (プリント: P. 29)
9	第9回目の授業では「国内ニュース②」の記事を読み、解説する。 (プリント: P. 30)
10	第10回目の授業では「国内ニュース②(後半)」の記事を読み、解説する。 (プリント: P. 30)
11	第11回目の授業では「アメリカのかかえている国内の諸問題」について、ディスカッションを行なう。
12	第12回目の授業では後期のまとめを行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

評価方法: 評価は前期の平常試験と後期のレポート、及び授業への貢献度によって決定(提出課題、試験等)する。授業は予め予習してある事を前提として講義する。

時事英語 I - 5

担当者：金子 節也

テキスト：*I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...*, ほか

目 標： 日米関係，ハイテク，日欧関係，アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事をおおいに活用したい。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化…幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
	2	日米関係 — その1. テキストの2. "The Media Plays Up American Pressure" の最初の3分の1。テキストpp. 11-14
	3	日米関係 — その2. テキストpp. 15-18 その他最新英字紙による補足。アメリカ口語表現の特徴にもふれる。
	4	日米関係 — その3. "A Caution to the U.S.-Japan Relationship" (pp. 19-22) その他英字紙。
	5	日米関係 — その4. テキストpp. 23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。
	6	日米関係 — その5. テキストの4 "How to Influence Big Business and Go Win-Win" (pp. 29-33)
	7	日米関係 — その6. テキストpp. 34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。最新ビジネス用語にもふれる。
	8	日英関係 — その1. テキスト "I Too, Am a Bit of Workaholic, but..." (pp. 37-41) 現代イギリス事情にもふれる。
	9	日英関係 — その2. テキストpp. 38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。
	10	ハイテク技術と雇用 — その1. テキストpp. 55-59 産業ロボットの導入と労使関係。
	11	ハイテク技術と雇用 — その2. テキストpp. 60-64
	12	イギリス事情 — その1. テキスト "The Unions Were Just Too Greedy" (pp. 47-51) 日英生産性比較。
備考		

	週	内 容
後 期	1	イギリス事情 — その2. テキスト pp. 52-55
	2	ジャーナリズム研究 — その1. テキスト "I Must Have a Little Japanese Blood" (pp. 1-5). アメリカのジャーナリズムについて。
	3	ジャーナリズム研究 — その2. テキスト pp. 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。
	4	ジャーナリズム研究 — その3. テキスト pp. 8-10 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。
	5	アジア — その1. テキスト "Japan as a Big Brother" の 'Help Us Stand on Our Two Feet' (pp. 65-67)
	6	アジア — その2. テキスト 'The Japanese Rather Look West' (pp. 68-70)
	7	アジア — その3. テキスト 'Do More for Our Spiritual Enrichment' (pp. 71-73)
	8	ジャパン・バッシング — その1. テキスト <i>Japan Unveiled</i> . "Japan, Not Russia, Main Threat" (pp. 2-4)
	9	ジャパン・バッシング — その2. テキスト "Bashing Japan Isn't the Answer" (pp. 6-8)
	10	キャリア・ウーマン — その1. テキスト "OL-She's Indispensable" (pp. 33-34)
	11	キャリア・ウーマン — その2. テキスト "Japan's New Breed of Office Ladies" (pp. 36-41)
	12	高齢化社会の到来。テキスト "Japan's Aging Population-A Guinea Pig" (pp. 72-76)
備考	テキスト <i>Japan Unveiled</i> は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。	

参考文献：『ニッポン・ウォッチング』金子節也著，朝日出版社，1991.

評価方法：出席状況，ふだんの授業へのコミットメント，テスト成績の3つを主な評価（提出課題、試験等）基準とする。

## 時事英語 I - 6

担当者：工藤 政司

テキスト：国内及び海外の英字新聞、雑誌記事のコピー。

目 標： 世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。従って時事英語 I - 8 では英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通曉し、国際人としての教養を身につけることを目指す。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	授業のすすめ方についてのオリエンテーション。教材配布。
2	New York Times Weekly Reviewに取り上げられた日本の政治問題。
3	同上継続講読と解説。
4	Time誌に取り上げられた日本の経済問題。
5	同上継続講読と解説。
6	アメリカ政治の現況と問題点。Newsweek使用。
7	同上継続講読と解説。
8	アメリカの社会問題。Time使用。
9	同上継続講読と解説。
10	イギリスの政治と社会問題。使用教材The Independent
11	同上継続講読と解説。
12	E C問題の解説。Financial Times 特集記事。
備考	国内外事情の変化に伴い、内容に変更の生じることがある。使用教材は主として評論、原則として2回で読み切る。

	週	内 容
後 期	1	ドイツの政治と東西結合の影響。International Herald Tribuneの特集記事を使用。
	2	同上継続講読と解説。
	3	フランスの政治情勢をTimeの記事を使って研究する。
	4	同上継続講読と解説。
	5	中国と東南アジア問題をAsian Wall Street の記事を使用して研究。
	6	同上継続講読と解説。
	7	World Today の記事によるロシア問題の検討。
	8	同上継続講読と解説。
	9	New York Times Weekly ReviewのOp Ed 講読
	10	同上継続講読と解説。
	11	TimeのCover Story を読む。
	12	同上継続講読と解説。
備 考	国内外の情勢の変化に伴い内容及び順序に変更の生じることがある。使用記事は主考として評論、2回で読み切ることを原則とする。	

参考文献：特にないが、新聞やテレビの報道には常に注意を払うこと。

評価方法：前試験結果40%、後期試験結果40%、平常点20%

(提出課題、試験等)

## 時事英語 I - 7

担当者：長谷川 倫子

テキスト：プリント

目 標：英語ニュースを読む楽しみの一つは、日本語のマスメディアでは得られない情報を得られることにある。またその社会的背景がわかると、理解度はますます深まって行く。ここでは英語ニュースを積極的に利用する力を養うことを目標に授業をすすめて行きたい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前           期	1	授業内容・目標・進め方の解説。
	2	メディアリテラシーとは。マスメディアメッセージに対するクリティカルなアプローチとは。
	3	最新の時事問題を解説のうえ、テキストを読む。
	4	同 上
	5	同 上
	6	同 上
	7	同 上
	8	同 上
	9	同 上
	10	同 上
	11	同 上
	12	試 験
備考	1992年度、前期にとりあげたものは、ロイヤルウエディング、ドイツ極右のレポート、ヒラリークリントン、若者とマスメディア、遺伝子解読とその問題点、他多数。	



	週	内 容
後 期	1	試験の評価と後期のプリントの解説。
	2	最新の時事問題を解説のうえテキストを読む
	3	同 上
	4	同 上
	5	同 上
	6	同 上
	7	同 上
	8	同 上
	9	同 上
	10	同 上
	11	同 上
	12	試 験
備 考	1991年度後期—ロス暴動, アメリカ大統領選, 世界を駆けめぐるアメリカ大衆文化, 難民問題, アメリカの都市問題, 教育問題等	

参考文献: TIME, NEWSWEEK, JAPAN TIMES, CBS60MIN, NEWS, CNN等

評価方法: 前期1回・後期1回試験

(提出課題、試験等)

時事英語 I - 8

担当者：森永 京一 研究室：[605]

テキスト：藤井他 「English for Mass Communication」 1994 Edition 朝日出版社刊

目 標：英字新聞・雑誌やテレビ・ラジオの報道・解説などを自由に理解・活用できるようにするのが目的。最新のトピックを重視するので、必ずしも、以下のリストどおりの順序で講義を進めるとは限らない。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	オリエンテーション
	2	ジャーナリズム英語の特異性
	3	見出しの用法 略語
	4	新聞の英語と放送英語
	5	政治の英語 (国内)
	6	政治の英語 (外国)
	7	経済の英語
	8	経済の英語 (続)
	9	金融の英語
	10	外交の英語
	11	国際機構の英語
	12	国際問題の英語
備考		

	週	内 容
後 期	1	国際問題の英語（続）
	2	軍事の英語
	3	天気予報などの英語
	4	災害・事故の英語
	5	犯罪・司法の英語
	6	労働関係の英語
	7	環境問題の英語
	8	科学の英語
	9	スポーツの英語
	10	芸術の英語
	11	映画の英語
	12	まとめ
備考		

評価方法：前後期のテスト

（提出課題、試験等）

## 商業英語 I - 1

担当者：海老沢 達郎

テキスト：An Introduction to Business Writing, Tatsuo Ebisawa.

目 標：本講義では、英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	第2回目の授業では「Business Englishを学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。(教科書：PP. 1-8)
3	第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。(教科書：PP. 8-18)
4	第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。(教科書：PP. 19-22)
5	第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方(後半)と取引の申し込み」について講義する。(教科書：PP. 23-24)
6	第6回目の授業では「取引の申込み(後半)と取引の申込みに対する応答」について講義する。(教科書：PP. 25-28)
7	第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答(後半)」について講義する。(教科書：PP. 29-31)
8	第8回目の授業では「引合い」について講義する。(教科書：PP. 32-34)
9	第9回目の授業では「引合い(後半)」について講義する。 (教科書：PP. 35-37)
10	第10回目の授業では練習問題2を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。(教科書：PP. 38-41)
11	第11回目の授業では前期授業のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では練習問題2の解答と諸注意などを行なう。
	2	第2回目の授業では「オファー」について講義する。(教科書: PP. 42-44)
	3	第3回目の授業では「オファー(後半)とオファーに対する応答」について講義する。(教科書: PP. 45-48)
	4	第4回目の授業では「オファーに対する応答(後半)」を講義し、練習問題3を第3回レポートとする。(教科書: PP. 49-52)
	5	第5回目の授業では「海上保険証券」について講義する。(教科書: PP. 53-55)
	6	第6回目の授業では「信用状」について講義する。(教科書: PP. 56-59)
	7	第7回目の授業では「信用状(後半)」について講義する。(教科書: PP. 60-62)
	8	第8回目の授業では練習問題3の解答と諸注意をなどを行なう。更に「積出しに関する通信」について講義する。(教科書: PP. 63-64)
	9	第9回目の授業では「積出しに関する通信(後半)」について講義する。(教科書: PP. 65-71)
	10	第10回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。(教科書: PP. 72-75)
	11	第11回目の授業では「クレームと問題の解決(後半)」について講義する。(教科書: PP. 76-78)
	12	第12回目の授業では後期のまとめを行なう。
備 考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。	

参考文献: 教室で指示する。

評価方法: 評価は前後期3回のレポートと前期の平常試験と授業への貢献度によって決(装出課題、試験等)定する。授業は予め予習してあることを前提として講義する。

## 商業英語 I - 2

担当者：海老沢 達郎

テキスト：①「英字新聞の読み方ハンドブック」海老沢達郎，②プリント

目 標：Business Englishをビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、国際ビジネスに必要な基本的な事柄である「経済英語」と「やさしい国際経済学」を講義し、指導する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	第2回目の授業では「景気の上昇と景気の後退」について講義し、英文経済記事(1) - (7)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 1-2)
3	第3回目の授業では「物価と経済指標」について講義し、英文経済記事(8) - (14)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 3-4)
4	第4回目の授業では「消費と市場」について講義し、英文経済記事(15) - (21)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 5-6)
5	第5回目の授業では「株」について講義し、英文経済記事(22) - (28)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 7-8)
6	第6回目の授業では「貿易と関税」について講義し、英文経済記事(29) - (35)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 9-10)
7	第7回目の授業では「取引・交渉と貿易・禁止」について講義し、英文経済記事(36) - (42)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 11-12)
8	第8回目の授業では「貿易・報復と貿易摩擦」について講義し、英文経済記事(43) - (49)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 13-14)
9	第9回目の授業では「銀行と通貨」について講義し、英文経済記事(50) - (56)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 15-16)
10	第10回目の授業では「金利」について講義し、英文経済記事(57) - (63)を読み、経済用語の解説を行なう。(プリント：PP. 17-18)
11	第11回目の授業では前期のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

週	内 容
1	第1回目の授業では前期の平常試験の解答と諸注意などを行なう。
2	第2回目の授業では「外国為替」について講義し、英文経済記事(64)-(70)を読み経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 19-20)
3	第3回目の授業では「投資と海外資金援助」について講義し、英文経済記事(71) - (77)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 21-22)
4	第4回目の授業では「E C統合」について講義し、英文経済記事(78)-(84)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 23-24)
5	第5回目の授業では「累積債務」について講義し、英文経済記事(85)-(91)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 25-26)
6	第6回目の授業では「インサイダー取引」について講義し、英文経済記事(92) - (98)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 27-28)
7	第7回目の授業では「雇用と人事」について講義し、英文経済記事(99) - (105)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 29-30)
8	第8回目の授業では「M & A 1」について講義し、英文経済記事(106)-(112)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 31-32)
9	第9回目の授業では「M & A 2」について講義し、英文経済記事(113)-(119)を読み、経済用語の解説を行なう。(フリト: PP. 33-34)
10	第10回目の授業では、英文ビジネスレターの作成をレポート提出とし、これについて詳しく説明し、質問を受ける。
11	第11回目の授業では英文ビジネスレターの解答と諸注意などを行なう。
12	第12回目の授業では後期のまとめを行なう。
備考	上記の内容等については、必要に応じて変更する場合がある。

参考文献: An Introduction to Business Writing, Tatsuo Ebisawa

評価方法: 評価は前期の平常試験と後期のレポート及び授業への貢献度によって決定す(提出課題、試験等)る。授業は予め予習してある事を前提として講義する。

## 商業英語 I - 3

担当者：杉山 晴信                      研究室：[601]

テキスト：小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』（北星堂，1988）

目 標： 貿易取引の流れに沿って、各取引段階における通信文を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務の知識も修得することがねらいです。日商主催の商業英語検定試験Bクラスの合格レベルの実力養成を目標とします。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	第1回目の授業では1年間の講義計画を説明し、商業英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部p.p. 2～3)
2	第2回目の授業では、ビジネスレターの構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部p.p. 4～15)
3	第3回目の授業では、ビジネスレターの文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部p.p. 16～18)
4	第4回目の授業では、「取引先の発見」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit1, p. p. 20～22)
5	第5回目の授業では、「取引の申し込み」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit2～3, p. p. 23～28)
6	第6回目の授業では、「信用照会」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit4, p. p. 29～31)
7	第7回目の授業では、「引合い」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit5～6, p. p. 32～37)
8	第8回目の授業では、「引合いに対する返事」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit7～8, p. p. 38～43)
9	第9回目の授業では、「オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit9, p. p. 44～46)
10	第10回目の授業では、「カウンター・オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit10, p. p. 47～49)
11	第11回目の授業では、「注文」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit11, p. p. 50～52)
12	第12回目の授業では、「注文の受諾」および「注文の謝絶」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit12～13, p. p. 53～58)
備考	



	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では、「成約」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit14, p. p. 59 ~61)
	2	第2回目の授業では、「信用状督促」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit15, p. p. 62 ~64)
	3	第3回目の授業では、「船積通知」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit16, p. p. 65 ~67)
	4	第4回目の授業では、「船積遅延と信用状訂正」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit17, p. p. 68 ~70)
	5	第5回目の授業では、「クレーム」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit18~19, p. p. 71 ~76)
	6	第6回目の授業では、「クレーム調整」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部Unit20, p. p. 77 ~80)
	7	第7回目の授業では、テキストで直接取り上げていないCourtesy Lettersの代表例として、「人物照会状」の読解と作成の訓練を行います。
	8	第8回目の授業では、「人物照会への返信」および「人物推薦状」について読解と作成の訓練を行います。
	9	第9回目以降の授業では、現物のビジネスレターを教材に用いて読解力を増強し、アドリブで通信文を作成するという形で演習を行います。
	10	上記参照
	11	上記参照
	12	上記参照
備考		

参考文献：羽田三郎編『英和貿易産業辞典』（研究社，1955）

評価方法： 講義4回に1回の割合で補充問題という形の宿題（レポート）を課します（提出課題、試験等）ので、必ず期日までに提出して下さい。成績評価は平常点（出席状況・レポート・授業貢献度等）を第一の尺度とし、前・後期の定期試験の結果を加味して決定します。



	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では、Unit12（成 約）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 37～39）
	2	第2回目の授業では、Unit13（信用状の開設と訂正）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 40～43）
	3	第3回目の授業では、Unit14（海上保険）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 44～47）
	4	第4回目の授業では、Unit15（輸出手配）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 48～51）
	5	第5回目の授業では、Unit16（船積み）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 52～55）
	6	第6回目の授業では、Unit17（輸入手配）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 56～59）
	7	第7回目の授業では、Unit18（決 済）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 60～63）
	8	第8回目の授業では、Unit19（クレーム）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 64～67）
	9	第9回目の授業では、Unit20（クレーム調整）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 68～71）
	10	第10回目の授業では、Unit21（紹介・推薦・社交文）につき上記のトレーニングを行います。（テキスト：p. p. 72～75）
	11	第11回目の授業では、商業英語検定試験A・Bクラスの過去問を用いて、読解力・作文力・および語彙力の演習を行います。
	12	第12回目の授業では、現物のビジネスレターを教材に用いて、読解力、作文力、および語彙力の演習を行います。
備 考	後期のVocabulary Checkは、第2週，第6週および第10週に予定しています。	

参考文献：小池直己・杉山晴信『商業英語検定試験にでる英単語』（南雲堂，1987）

評価方法： この授業では、月に一度、上記の参考文献（全員入手すること）をデータ（提出課題、試験等）ベースとしてVocabulary Check（語彙力診断テスト）を行います。成績評価は、出席状況，Vocabulary Checkの累積得点，授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前・後期の定期試験の結果を加味して決定します。

## 商業英語 I - 5

担当者：山本 孝夫

テキスト：プリント・[参考書] ①山田鎌一・佐野寛『国際取引法』有斐閣

②山本孝夫『英文契約書の書き方』日経文庫〔日本経済新聞社〕

③Folsom, Gordon, Spanogle『International Business Transactions』West

④高桑昭『国際取引法』青林書院

目 標：①国際取引と取引法の基本の理解 ②英文契約、米法の基本の理解

年間予定 ( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	国際取引法、国際取引法とは何か、その学び方
	2	国際取引の特色（国内取引と異なる問題・リスク等）
	3	国際取引の種類；各種取引と関連法
	4	国際取引に適用される法（1）（国際取引法、国際経済
	5	” （2）（抵触法、涉外実質法）
	6	国際貿易規則（インコタムーズ等）（1）（概説とFOB）
	7	” （2）（CIF条件）
	8	国際取引の当事者（企業、国家、国際機関等）
	9	国際売買契約（アメリカU.C.C、動産売買条約）
	10	国際的な代金決済（信用状）、運送・保険
	11	製造物責任；反トラスト法；ガットとMTO等
	12	前期のまとめ；夏休み中のレポート（課題）紹介
備考		

週	内 容
1	レポート提出（9月末）；後期のテーマ・学び方と指針
2	夏休み中のレポート中心に講評と助言（法律英語等）
3	国際技術移転・知的財産取引（1）（概説）
4	“ （2）（契約）
5	海外への進出と事業形態・合併事業（1）（概説）
6	“ （2）（契約）
7	プラント契約・資源開発契約・投融資契約
8	EC；NAFTA；国際経済法；国際倒産
9	国際税法（基本知識、租税条約、移転価格税制）
10	国際取引紛争の解決方法（1）（裁判と仲裁・ADR）
11	“ （2）（執行・国際民事訴訟）
12	まとめ
備考	

参考文献：上記（④まで）のほか、⑤石田貞夫『貿易の実務』日経文庫

⑥Folsom, Gordon, Spangle『International Business Transactions』

ナットシュエル版 West

⑦新堀 聡『貿易売買』同文館・『貿易取引入門』日本経済新聞社

⑧山本孝夫『国際取引紛争と外国弁護士起用上の注意点』

（『国際商事法務』1993年11月12月号）

①クラスにおいては、国際取引における英語、英文契約、米契約法（U.C.C など）、通商関係法にもふれる。②レポートを重視。③アメリカMichigan Law Schoolのケース・メソッドも参考にしたい。

評価方法：レポート中心。（日頃の出席・クラスへの参加を重視する。）

（提出課題、試験等）

商業英語 I - 6・7

担当者：横井 正利

テキスト：英文貿易商務

目 標：社会に出て実際に役に立つ様に、現状の貿易の流れを理解する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
前 期	1 第1回目の授業では、図を用いて輸出・輸入の創設までの流れを説明する。 (P 8~11)
	2 第2回目の授業では、輸入者が輸出者に対して取引希望の申込みをするまでの過程を説明する。(P 8~11)
	3 第3回目の授業では、輸入者の信用状態を調査する方法と、銀行に信用照会を問い合わせる方法を説明する。(P 11, 12)
	4 第4回目の授業では、輸出者が銀行から信用照会の回答を受け取り、それに対する謝礼状を出す過程を説明する。(P 13~15)
	5 第5回目の授業では、取引申込の承諾と、取引条件の協定を結ぶ方法を説明する。(P 16~18)
	6 第6回目の授業では、一般取引条件協定書について説明する。(P 18, 19)
	7 第7回目の授業では、取消不能信用状および決済について説明する。 (P 20)
	8 第8回目の授業では、保険とクレームについて説明する。(P 21, 22)
	9 第9回目の授業では、取引協定の成立から、売買契約成立までを図を用いて説明する。(P 22~26)
	10 第10回目の授業では、確定売申込み、反対申込み等を説明する。 (P 27~30)
	11 第11回目の授業では、売申込みの承諾・売買契約の成立を説明する。 (P 31~34)
	12 第12回目の授業では、前期の授業のまとめをし、レポートの課題を発表する。
備考	

週	内 容
1	第1回目の授業では、売買契約の履行の流れを図を用いて説明する。
2	第2回目の授業では、信用状の入手方法及び為替の予約について説明する。 (P 37, 43~45)
3	第3回目の授業では、船積申込みと保険の申込みの方法について説明する。 (P 41, 42)
4	第4回目の授業では、商品の発送の流れと船積指図書と本船受取証について説明する。(P 48, 49)
5	第5回目の授業では、船荷証券と送り状等について説明する。 (P 49, 50, 54)
6	第6回目の授業では、荷為替の取組方法と船積書類について説明する。 (P 53~56)
7	第7回目の授業では、荷為替手形の引受及び支払書類渡し、引受書類渡しについて説明する。(P 55~58)
8	第8回目の授業では、図を用いてはじめてから輸出と輸入の流れを説明する。 (P 209~ 211)
9	第9回目の授業では、第8回目の授業の続きを説明する。 (P 212, 213 )
10	第10回目の授業では、第9回目の授業の続きを説明する。 (P 212, 213 )
11	第11回目の授業では、第10回目の授業の続きを説明する。 (P 213, 214 )
12	第12回目の授業では、テストを行う。
備考	

参考文献： 貿易の実務（日経文庫）

評価方法： 前期のレポート、及び後期の試験によって決定する。出席を重視する。  
(提出課題、試験等)

## 時事英語Ⅱ－1

担当者：新井 妥門

テキスト：なし

目 標： テレビ・ラジオから録音したニュース等を教材として使い、ディクテーションすることにより聞き取りずらい音や語を認識しながらニュースに使われる表現に慣れること。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前           期	1	オリエンテーション
	2	教材のレコーディング
	3	ディクテーション 1
	4	ディクテーション 2
	5	ディクテーション 3
	6	ディクテーション 4
	7	教材のレコーディング
	8	ディクテーション 5
	9	ディクテーション 6
	10	ディクテーション 7
	11	ディクテーション 8
	12	テスト
備考	L. L教室を使用する予定。60分のカセットテープを持参すること。	



	週	内 容
後 期	1	教材のレコーディング
	2	ディクテーション 9
	3	ディクテーション 10
	4	ディクテーション 11
	5	ディクテーション 12
	6	教材のレコーディング
	7	ディクテーション 13
	8	ディクテーション 14
	9	ディクテーション 15
	10	ディクテーション 16
	11	まとめ
	12	テスト
備考		

評価方法：定期試験・出席状況  
 (提出課題、試験等)

## 時事英語Ⅱ－２

担当者：長谷川 倫子

テキスト：CBS60MIN. NEWS SCRIPT, TIME, NEWSWEEK 等

目 標：マスメディアが伝える内容を、その文化的背景にまでさかのぼり理解し、クリティカルに評価し、それに対する自分の考えを表現出来るようになることがこの授業の目標です。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	授業内容・すすめ方の解説
	2	1993年1年間のCBS60MIN. NEWSの紹介と、トピックの選択
	3	最近の時事問題のテキストをもとにディスカッション
	4	同 上
	5	同 上
	6	同 上
	7	学生が各自選択したCBS60MIN. NEWSのトピックの解説とディスカッション
	8	同 上
	9	同 上
	10	同 上
	11	同 上
	12	同 上
備考	時事英語はその時点における社会の流れを理解することにあるため、この概要は、あくまでも予定であり、状況に応じて柔軟に対応してゆきたい。	

	週	内 容
後 期	1	前期課題ニュースサマリーの発表と討論
	2	同 上
	3	同 上
	4	同 上
	5	同 上
	6	同 上
	7	英文レポートの書き方 (オリジナル・テキストを用いて) (1) アカデミックライティングとは
	8	英文レポートの書き方 (2) センテンスパターン
	9	英文レポートの書き方 (3) 文章の構成
	10	英文レポートの書き方 (4) 引用の方法
	11	英文レポートの書き方 (5) アカデミックライティングマニュアルの活用法
	12	授業のまとめ
備 考		

参考文献：TIME, NEWSWEEK, JAPAN TIMES等  
 評価方法：前期はニュースのサマリー，後期は英文のレポートを提出  
 (提出課題、試験等)授業における討論参加。

## 時事英語Ⅱ－3

担当者：森永 京一                      研究室：[605]

テキスト：浅野雅巳ほか「WORLD EVENTS '94」金星堂刊

目 標：英語資料活用能力強化を図るとともに、時事問題、国際問題への理解をさらに向上させるのが目的。ホットなテーマを選ぶことで学生諸君の関心を一層高めたいので、以下の順序には必ずしも準拠しない。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前           期	1	オリエンテーション
	2	英語資料と国内資料の相違点
	3	政治記事の翻訳演習
	4	経済記事の翻訳演習
	5	金融記事の翻訳演習
	6	国際関係の翻訳演習
	7	社会記事の翻訳演習
	8	スポーツ記事の翻訳演習
	9	コラムを読む
	10	コラムを読む(続)
	11	海外の日本関係記事を読む
	12	海外の日本関係記事を読む(続)
備考		

	週	内 容
後 期	1	英文記事の書き方
	2	英文記事の書き方（続）
	3	英字時事週刊誌について
	4	「タイム」を読む
	5	「タイム」を読む（続）
	6	「ビジネスウィーク」を読む
	7	米英の新聞を読む
	8	米英の新聞を読む（続）
	9	英字広告について
	10	テレビ報道特集番組
	11	テレビ報道特集番組（続）
	12	まとめ
備考		

評価方法：レポート提出

（提出課題、試験等）

## 商業英語Ⅱ - 1

担当者：杉山 晴信                      研究室：[601]

テキスト： 栗林定次郎・岩根典夫『英文貿易商務』四訂版（同文館，1992）

目 標： 上記のテキストと随時配布するプリントを用いて、貿易実務に関する手続き、制度、法令などを学ぶことを目標とします。前期はマクロ的に輸出入手続の流れを、後期はミクロ的に各種の専門事項をそれぞれ学習します。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前           期	1	第1回目の授業では、1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。（テキスト：P.P. 3～7）
	2	第2回目の授業では、貿易実務の遂行手順を時系列的に概観し、貿易マーケティングの段階について講義します。（配布プリントを使用）
	3	第3回目の授業では、取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、信用照会までを取り上げて講義します。（テキスト：P.P. 8～16）
	4	第4回目の授業では、貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。（テキスト：P.P. 16～26）
	5	第5回目の授業では、貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。（テキスト：P.P. 27～35）
	6	第6回目の授業では、貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積の手配までの過程を講義します。（テキスト：P.P. 35～43）
	7	第7回目の授業では、貿易取引の履行段階のうち、為替の予約、海上保険の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。（テキスト：P.P. 43～53）
	8	第8回目の授業では、貿易決済の段階のうち、船積み書類の整備から荷為替手形の取組までの過程を講義します。（テキスト：P.P. 53～62）
	9	第9回目の授業では、貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避方法を検討します。（配布プリントを使用）
	10	第10回目の授業では、貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段をテーマに講義します。（配布プリントを使用）
	11	第11回目の授業では、第10回目の授業までに学んできた貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して復習します。（テキスト：P.P. 63～91）
	12	第12回目の授業では、第11回目の授業にひき続き、貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して復習します。（テキスト：P.P. 92～118）
備考		

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では、種々の貿易形態について講義し、とりわけ直接貿易と間接貿易の長所と短所を比較検討します。(テキスト:P.P. 119~124)
	2	第2回目の授業では、市場調査と信用調査について講義し、市場調査項目、商業興信所、信用照会事項などを学びます。(テキスト:P.P. 124~128)
	3	第3回目の授業では、オファーとアクセプタンスについて講義し、特にオファーの法的性格と種類を詳しく学習します。(テキスト:P.P. 128~133)
	4	第4回目の授業では、一般取引条件の中の価格条件について講義し、各々の条件における当事者の危険負担等を学びます。(テキスト:P.P. 139~145)
	5	第5回目の授業では、一般取引条件の中の決済条件について講義し、両当事者からみた各決済方法の有利・不利を検討します。(テキスト:P.P. 145~153)
	6	第6回目の授業では、一般取引条件の中の品質条件、数量条件および船積条件について、その各々の構成内容を講義します。(テキスト:P.P. 153~163)
	7	第7回目の授業では、インボイスについて講義し、各種のインボイスの内容と目的を学びます。(テキスト:P.P. 168~173)
	8	第8回目の授業では、船荷証券について講義し、船荷証券の定義、法的性質記載事項、種類などを学びます。(テキスト:P.P. 173~181)
	9	第9回目の授業では、海上保険について講義し、特に各保険条件の填補範囲および免責事項を学習します。(テキスト:P.P. 181~190)
	10	第10回目の授業では、信用状について講義し、特に信用状の意義、当事者、分類と種類などを学びます。(テキスト:P.P. 190~203)
	11	第11回目の授業では、第10回目の授業に引き続いて信用状について講義し、信用状の形式および信用状統一規則を学びます。(テキスト:P.P. 203~巻末)
	12	第12回目の授業では、後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。
備 考		

参考文献：随時指示します。

評価方法：平常点（出席状況・レポート・授業貢献度等）を第一の尺度とし、前・後（提出課題、試験等）期の定期試験の結果を加味して、成績評価を決定します。

## 商業英語Ⅱ－２

担当者：横井 正利

テキスト：英文貿易商務

目 標：貿易に関する専門用語とその種類、また貿易の流れを理解する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	第1回目の授業では、海外取引の直接貿易と間接貿易について説明する。 ( P 119～124 )
2	第2回目の授業では、市場調査と信用調査について説明する。 ( P 124～127 )
3	第3回目の授業では、売申込みとその承諾について、及び売申込の種類について説明する。( P 128～133 )
4	第4回目の授業では、取引条件とインコタームズ ( F. O. B. の種類や C I F の種類など ) について説明する。( P 139～144 )
5	第5回目の授業では、4回目の授業のつづきを説明する。
6	第6回目の授業では、5回目の授業のつづきを説明する。
7	第7回目の授業では、支払い条件について説明する。( P 145～147 )
8	第8回目の授業では、荷為替手形、及び為替手形について説明する。 ( P 147～151 )
9	第9回目の授業では、品質条件について説明する。( P 153～156 )
10	第10回目の授業では、数量条件について説明する。( P 156～159 )
11	第11回目の授業では、船積条件について説明する。( P 159～163 )
12	第12回目の授業では、前期のまとめをし、レポートの提出について発表する。
備考	



週	内 容
1	第1回目の授業では、送り状について説明する。 ( P 168~171 )
2	第2回目の授業では、原産地証明書、及びCredit Notes, Debit Notesについて説明する。( P 171~173 )
3	第3回目の授業では、船荷証券とその種類について説明する。 ( P 173~181 )
4	第4回目の授業では、3回目のつづきを説明する。 (Order and Straight B/L)
5	第5回目の授業では、海上保険(前損・共同海損・単独海損など)について説明する。( P 181~189 )
6	第6回目の授業では、5回目の授業のつづきを説明する。
7	第7回目の授業では、信用状・保障状などについて説明する。 ( P 190~192 )
8	第8回目の授業では、信用状の種類(取引不能/可能・確認/無確認など)について説明する。( P 192~196 )
9	第9回目の授業では、商業信用状の流れについて説明する。 ( P 198~201 )
10	第10回目の授業では、保証状・保障状について説明する。
11	第11回目の授業では、7~10回目のまとめをする。
12	第12回目の授業では、テストをする。
備考	履修者は、商業英語 I をすでに履修した者に限る。

参考文献： 貿易の実務(日経文庫)

評価方法： 前期のレポート、及び後期の試験によって決める。出席を重視する。

(提出課題、試験等)

## 英語史概説

担当者：近藤 ヒカル 研究室：[608]

テキスト：プリント使用

目 標：英語の歴史を扱うこの講義では、英語学・英文学概論による重複を避ける観点から、徹底して諸文献を渉猟し、その範囲も文字の起源から初期近代英語までに限定した。目標はOEDの引用例が読めてShakespeareや聖書の英語が抵抗なく読めるようになることである。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	アルファベットの起源（文字の起こり、アルファベットの歴史）
2	英語の家系図（世界の言語とその歴史、日本語との比較）
3	文献学の重要性、英語諸方言、クレオール語、現代アメリカのかかえる言語問題
4	Old Englishの音韻・語形・統語
5	Cynewulf's <i>Elene</i> , Caedmon's <i>Hymn</i>
6	<i>Beowulf</i> (1)
7	<i>Beowulf</i> (2)
8	<i>Beowulf</i> (3)
9	<i>Beowulf</i> (4)
10	<i>The Battle of Maldon</i> (1)
11	<i>The Battle of Maldon</i> (2)
12	<i>The Battle of Maldon</i> (3), King Alfred, Wulfstan等
備考	手書き写本の解読を重視する。教材は辞書に至るまでプリント配布する。 ビデオ上映を多用する。

週	内 容
1	Middle Englishの音韻・語形・統語
2	<i>The Ormulum, Ancrene Wisse</i>
3	<i>The Canterbury Tales</i> (1)
4	<i>The Canterbury Tales</i> (2)
5	<i>The Canterbury Tales</i> (3)
6	<i>The Canterbury Tales</i> (4)
7	<i>Troilus and Criseyde, The Pearl, Piers Plowman</i> 等
8	Early Modern Englishの音韻・語形・統語
9	Shakespeare研究方法論
10	Shakespeareの喜劇・史劇
11	Shakespeareの悲劇・ロマンス劇
12	英訳聖書
備考	前期に同じ。

評価方法：成績評価は前期・後期の定期試験とレポート（予定）による。  
 （提出課題、試験等）出席は絶対条件とする。



	週	内 容
後 期	1	連音の音質変化
	2	同化の分類
	3	有声音と無声音
	4	省略と添加
	5	転置、置換、弱化
	6	音量変化
	7	卓立
	8	語アクセント
	9	文アクセント
	10	リズム
	11	イントネーションの分類
	12	イントネーションの機能と構造
備考		

評価方法：年2回のテスト。

(提出課題、試験等)

## 英語文法論

担当者：府川 謙也                      研究室：[537]

テキスト：Cowper, E. A. 1992. A Concise Introduction to Syntactic Theory

目 標：1950年代にNoam Chomskyによって変形生成文法理論が提唱され発展を遂げてきたが、その比較的最近理論的枠組であるGB理論を紹介する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	文法理論の目標を考える。
	2	The Theory in Context
	3	前週の続き
	4	Categories and Phrase Structure
	5	前週の続き
	6	前週の続き
	7	Thematic Relations and $\theta$ -roles
	8	前週の続き
	9	Predicting Phrase Structure
	10	前週の続き
	11	前週の続き
	12	NP-Movement
備考		

	週	内 容
後 期	1	前週の続き
	2	前週の続き
	3	Government and Case
	4	前週の続き
	5	前週の続き
	6	WH-Movement
	7	前週の続き
	8	前週の続き
	9	Move $\alpha$ and the Theory of Movement
	10	前週の続き
	11	The Empty Category Principle
	12	前週の続き
備 考		

評価方法：定期試験および授業を活発するためにどれだけ貢献したかによる。  
 (提出課題、試験等)

# 英語学特殊講義 1

## 意味論

担当者：阿部 一

研究室：[501]

テキスト：特になし (Dillon, Frawley, Lakoff などを部分使用。あとは資料配布)

目 標：本講座は英文法の諸問題を意味論的に再吟味するものである。その際、とりわけ「言語」と「認知」の関連性を重点的に取り上げ、色々な実証データを踏まえながら検討してみる。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	オリエンテーション：英文法の問題点と意味論——いくつかの興味深い事例を取り上げて問題点を指摘し、それに現在の意味論がどう答えるかをみてる。
2	この意味論講座で扱う話題の全体図を概観する——従来の定評ある意味論概説書を紹介し簡単に説明し、講座の位置付けをはっきりさせる。
3	英文法の意味論とは何か？——意味論、哲学的意味論そして言語学的意味論を考える。
4	意味へのアプローチをどうすればよいのか？——意味研究の難しさと問題点を考える。(その1)
5	意味へのアプローチをどうすればよいのか？——意味研究の難しさと問題点を考える。(その2)
6	意味と実存の問題を考える——英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その1)
7	意味と実存の問題を考える——英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その2)
8	意味と実存の問題を考える——英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その3)
9	意味と出来事の問題を考える——英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その1)
10	意味と出来事の問題を考える——英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その2)
11	意味と出来事の問題を考える——英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる(その3)
12	実在と出来事がどう関連するのか？——意味の役割は一体どんな形で保証されるのか？特に項構造について考えてみる。
備考	



	週	内 容
後 期	1	意味と空間概念について考えてみる（その1） — 序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	2	意味と空間概念について考えてみる（その2） — 空間と位置関係の仕組みと問題点
	3	意味と空間概念について考えてみる（その3） — 直示（ダイクシス）の面白さと問題点
	4	意味と相概念（アスペクト）について考えてみる（その1） — 相の多様性、多層性と問題点
	5	意味と相概念（アスペクト）について考えてみる（その2） — 英文法の具体例を取り上げて検討してみよう
	6	意味と時間概念について考えてみる（その1） — 序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	7	意味と時間概念について考えてみる（その2） — 時制と時間をどう区別し取り扱うか
	8	意味と時間概念について考えてみる（その3） — 英文法の具体例を取り上げて検討してみよう
	9	意味と法概念（モダリティ）について考えてみる（その1） — 序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	10	意味と法概念（モダリティ）について考えてみる（その2） — 法の種類と問題点
	11	意味と表現効果を考えてみる — 否定や修飾の問題を取り上げて検討してみる
	12	本講座の意味論のまとめと注意点：知識をどう検証し、またどう発展させていけばよいのか？
備考		

参考文献： 阿部(1993)『基本英単語の意味とイメージ』研究社。

評価方法： 授業課題としては①授業内のグループによる課題発表を行なう（サンプル（提出課題、試験等）のハンドアウトに基づいて形成に従って行なう）②個人で選んだテーマを調査研究して発表する③研究発表をレポートにまとめて学期末に提出する④発表を重視した授業なので出席はキチンとすること。評価は個人及びグループの授業内発表（規定のハンドアウトを含む）を重視する（全体の60%）。残りは前・後期のレポート（30%）、及び出席（10%）である。



	週	内 容
後 期	1	前期課題の返却と講評を行なう。英語音声における音韻形態論と音韻規則について論じる。(第8章: pp. 139-155)
	2	言語のリズムの仕組みについて考えた後、英語のリズムの特徴について音韻論の観点から論じる。(第9章: pp. 156-179)
	3	英語と日本語のリズムの特徴と音韻分析の方法について考える。(第9章: pp. 156-179)
	4	英語音声のイントネーションの特徴とその音韻分析の方法について論じる。(第10章: pp. 180-196)
	5	英語音声の単語レベルの強勢の予測の可能性を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について論じる。(第11章: pp. 197-218)
	6	英語の単語レベルの強勢の予測可能性を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について更に論じる。(第11章: pp. 197-218)
	7	英語の複合語のレベルの強勢の予測可能性を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について論じる。(第12章: pp. 219-241)
	8	英語の複合語のレベルの強勢の予測可能性を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について更に論じる。(第12章: pp. 219-241)
	9	英語の句のレベルの強勢の予測可能性を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について論じる。(第12章: pp. 219-241)
	10	発話時における英語の音連続に見られる諸現象を音韻論の観点から考え、それに関連する音韻規則について論じる。(第13章: pp. 242-261)
	11	英語の音韻諸規則と語彙の関係について論じる。(第14章: pp. 262-292)
	12	後期の総括と課題の発表
備 考		

参考文献: • English Phonetics and Phonology, P. Roach. (1991). CUP.

• English Phonology, H. J. Giegerich. (1992). CUP.

• 『英語の発音と英詩の韻律』, 窪蘭晴夫, 溝越彰. (1991)英潮社.

評価方法: 評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。

(提出課題、試験等) 授業は上記の各章を予め読んであることを前提とする。

前期のレポート提出日: 7月22日

後期のレポート提出日: 1月13日



週	内 容
1	<i>Women in Love</i> について、RupertとUrsulaを主題に、特にはこのカップルの結婚に至るまでの葛藤を、所謂star-equilibriumに照らして考える。
2	第3期の主題をlove-urge とpower-urgeということをも主題にして総覧する。
3	<i>Aaron's Rod</i> について、両性の社会に対する役割を主題に考える。
4	<i>Kangaroo</i> について、主として対社会における男性の在り方を考える。
5	<i>The Plumed Serpent</i> について、dark godの教理を主題に論考する。
6	<i>The Plumed Serpent</i> について、女性たちのキャラクターを主題に論考する。
7	第4期の主題をreciprocity of tenderness への転換をめぐって総覧する。
8	第4期に至る道程としての"The Ladybird", "The Man Who Loved Islands", 及び"The Man Who Was through with the World"の位置をめぐって論考する。
9	<i>Lady Chatterley's Lover</i> めぐって、現代文明下に生きるわれわれの生きざまに対するひとつの提言について考える。
10	<i>The Man Who Died</i> について、復活・再生を主たる論点として、作家の最終的にゆきついた境地を論考する。
11	ロレンス文学の総括にかえて、主としてこの作家の宇宙観について論じ、併せてJoyce の世界観と照合する。
12	一年の本講義を振り返り、受講者との質疑・討論の時間に当てる。
備考	本シラバスの作成は1993年9月30日である。一応24週に講義内容を割り当てたが当然講義回数が増(減)はありうることをお断りしておく。

参考文献： 頭書以外の参考文献は、随時講義時間内に紹介する。

評価方法： 評価は、前期の小論文提出(提出日：後期第1週)と後期の試験、及び平(提出課題、試験等) 常の授業への熱意によって判定する。

## イギリス文学各論 2

### 演 劇

担 当 者：長谷部 加寿子      研究室：[611]

テキスト：長谷部加寿子：「シェイクスピアに於る人間群像」高文堂出版社

目 標：シェイクスピア劇作品を中心に、イギリスルネッサンスの演劇風土と思想を  
考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容したかを考察する。役者、  
舞台、演出の変遷等を探求した後、現代のシェイクスピア劇を研究する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
前 期	1 イギリス・ルネッサンスの時代精神について概説する。エリザベス女王一世を中心とした宮廷人達や外国との関係などについて述べる。
	2 エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関係及び中世劇（神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇）について述べる。
	3 テキスト中の別表を中心に、1485年から1623年までの歴史的事実及び思潮と、シェイクスピア及び同時代劇作家達の作品等を概観する。
	4 この時代の劇作品の一覧（プリント配布）、シェイクスピア劇作品を4期に分け各時期の演劇的展開及び特徴を具体的に考察する。
	5 歴史劇全体の概観とテーマの解説・特徴などについて述べる。第1の4部作の中「ヘンリー6世」1部・2部・3部を具体的なせりふを通じて見ていく。
	6 「リチャード3世」について述べる。「リチャード3世」の上演、批評の変遷、及び現代の名優達のリチャード3世の演技についても言及する。
	7 第2の4部作の中「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部・2部を見ていく。詩人王であるリチャード2世や、フォルスタッフについて語る事が多い。
	8 「ヘンリー5世」について述べる。2つの4部作に流れる歴史劇の視点を探る。喜劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。
	9 「間違いの喜劇」「じゃじゃ馬ならし」について述べる。見間違えに起因する喜劇的状況や内と外との相違などについて考察する。
	10 「ヴェローナの二紳士」「恋の骨折り損」「真夏の夜の夢」に於る喜劇的要素、劇構造のテクニク、演出の変遷等について述べる。
	11 「ヴェニスの商人」「ウィンザーの陽気な女房たち」「むだ騒ぎ」について述べる。中期になると暗い人物が喜劇に配されるようになる。
	12 「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴って複雑でダイナミックな劇展開をする事で、円熟した喜劇の様相を見せている事を考察する。
備 考	

	週	内 容
後 期	1	悲劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ロミオとジュリエット」「アントニーとクレオパトラ」について述べる。
	2	「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台や映画などについても述べる。
	3	「オセロー」について述べる。イアーゴの解釈の変化や名優達のイアーゴの演技にも触れる。
	4	「マクベス」について述べる。舞台や映画の「マクベス」や、精神分析的症状の好例として研究されるマクベス夫人の夢遊病についても考察する。
	5	「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、当時の自然観、人間観を表わすと同時に、何時の時代にも共通する人間の深い悲しみを映し出している。
	6	ローマ史劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれる作品群について述べる。
	7	ロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ペリクリーズ」について述べる。
	8	「シンベリン」について述べる。イモウジェンの試練は、ポスツエマスとの愛を貫こうとする彼女の強い意志によって最後には勝つ。
	9	「冬物語」について述べる。王ペリクリーズの嫉妬が、冬の季節をもたらすが、一族再会は若い世代によって接木され、来るべき春を予告する。
	10	「嵐」について述べる。プロスペロの魔法の杖は、様々な不思議を現出する。復讐を乗り越え娘ミランダの為に、彼はもう一度「新世界」に戻る決意をする。
	11	シェイクスピア劇全体を振り返り、どのような展開を示してきたのか、又各時代はどのような受容と変遷を経ているのかを考察する。
	12	現代とシェイクスピアを、私の立場から述べる。独自性と普遍性を併用するシェイクスピア劇の魅力と柔軟性と強靭さを、具体的に考察する。
備考		

評価方法：年二回の筆記試験と、年一回の観劇レポート提出が課せられる。  
(提出課題、試験等)

# イギリス文学各論3

## 小説

担当者：藤田 永祐 研究室：[538]

テキスト：A Portrait of Jane Austen

目 標：テキストは、作家の生涯と作品を扱いながら、その時代の英国のすぐれた社会史となっている。オースティンが生きていた頃の英国を知悉するのみでなく、肌で感じとっているのが伝わってくる名著を通して、活きた教養と語学力を養う。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	オースティンの作品と人間について解説し、テキストの特徴を述べ、一年間のあらましの計画を話す。
2	プロローグ「その世界」の解説と鑑賞。
3	その続き。2名の受講者にテキストの部分訳のレポートを割り合てる（講読ではなく各論であるから、それにふさわしい方式のもの）。
4	一章「家族」の語学的解説と鑑賞。
5	先々週のレポートを添削したものを返却。先週の続き。小説の流れの歴史の中で捉えたオースティンの小説の特徴と意義についての解説。
6	テキスト中の豊富なさし絵は、作家の生活環境と作品の世界を十分に展示するものとしてあり、テキストの内容の不可欠な一部。その解説。
7	二章「幼年時代」の語学的解説と鑑賞。
8	数名の受講者にテキストの部分訳のレポートを割りあてる。（各論にふさわしい方式のもの）。先週の続き。
9	レポートを添削したものを返却。オースティンの言葉使用の特徴という視点からみたオースティンの小説の解説。
10	三章「スティーブントン村時代」の語学的解説と鑑賞。
11	先週の続き。夏休み中のレポートの課題の指定。
12	先週の続き。
備考	



	週	内 容
後 期	1	オースティンの主要な小説を分析研究した文献を配り、その特徴と意義の具体的解説をする。
	2	四章「バース時代」の語学的解説と鑑賞。
	3	先週の続き。数名の受講者にテキストの部分訳のレポートを割りあてる。
	4	ブロンテ姉妹との対照比較という視点からのオースティンの小説の解説。先週の続き。
	5	五章「サウサンプトン時代」の語学的解説と鑑賞。レポートを添削したものを返却。
	6	先週の続き。数名の受講者にテキストの部分訳のレポートを割りあてる。
	7	先週の続き。
	8	六章「チョートン村の生活」の語学的解説と鑑賞。
	9	先週の続き。レポートを添削したものを返却。
	10	七章「達成」の語学的、文学的解説と鑑賞。
	11	19世紀20世紀の作家達との比較・対照のもとにオースティンの小説を鑑賞する。
	12	まとめ
備考		

参考文献：

評価方法：前期後期のテスト、授業中に割り当てたレポート及び、休み明けのレポート、(提出課題、試験等)それに出席状況を参考にして、評価を出す。

# アメリカ文学各論1

## 小説

担当者: 鈴木 重吉

テキスト: 1. N. Hawthorne. *The Custom-House* (英宝社) 2. 『鏡と影』 (研究社)

目 標: アメリカ・ルネッサンス期における中心的作家の一人N. ホーソーンを以て中心に、彼の文学の特徴を探りつつ、同時代の主要作家文学との比較をも考えたい。併せて文学へのアプローチについても考察したい。

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	年間の講義及び演習の概要説明 (評価方法を含む) アメリカ文学の三つの盛期について説明する。(文学史上のN. ホーソーン的位置。)
2	伝記の面から、ホーソーンと故郷 Salem, Mass. との断続的な関わり、及び祖先との心理的な繋がりをみる [C. H. pp. 9~20]
3	(同上) 特に2人の先祖の迫害心が、やがてこの作家の主要なテーマの一つ、「罪とその心理的影響」となる経緯について。 [『鏡』第三章の一。]
4	Salem, Mass. とConcord, Mass. との夫々の歴史的背景について。 [C. H. pp. 9~12] 及びホーソーンとの関係 [『鏡』第二章の四]
5	散見するC. H. と "The Old Manse" との比較。 [C. H. pp. 7~8・p. 39 及び上記4週目の『鏡』参照]
6	C. H. とThe Scarlet Letterとの諸関連。作者の意図と効果。 [C. H. 「はしがき」及びNotes に頻出する。]
7	Hester Prynne についてのMr. Pue の物語の草稿と、作者又はC. H. の1 (一人称単数の人物) が "a scarlet letter" を発見する情景とその描写 [pp. 42~51]
8	『緋文字』について。 [『鏡』第四章の一と二。及び第7, 8週目のC. H. の原文]
9	作家ホーソーンの心理主義的傾向 [『鏡』第二章の二。 pp. 22~42] 無意識の関心はフロイトの先駆とさえ考えられる点 [『鏡』 pp. 37~38]
10	ホーソーンの性格や心理の傾向などについて。 [C. H. pp. 7~9 『鏡』第五章の二。]
11	ホーソーンの創作心理及び文学論 [C. H. pp. 52~58]
12	ホーソーンの "passive sensibility" とJohn Keatsの "Negative Capability" との類似 (平行関係) について。
備考	

週	内 容
1	前期筆記試験の講評。 前期の要約及び補遺
2	前期の補遺
3	夏休みのレポート ("Young Goodman Brown" - 既配布の読後感・研究など) についての意見交換。
4	同上。
5	The Scarlet Letterを風土の観点から観察する一例。 [『鏡』 pp. 43~52 ; pp. 136~143 ]
6	"Young Goodman Brown" (以下で"Y. G. B."と略す。)の本文批評及び従来の伝記的歴史的アプローチから観る場合の問題点。
7	(同上) 特にPuritanismの理解とホーソーンの関わりについて。
8	"Y. G. B."へのNew Criticismのアプローチ。[Formalistic Approachをふくむ] 特にjuxtaposition (位置) について。
9	(同上)
10	"Y. G. B."への心理学的 (主としてフロイトの) アプローチの例。
11	"Y. G. B."への原型批評的 [神話批評の] アプローチ (主としてユングの) アプローチ。
12	"Y. G. B."へのFeminist Criticismのアプローチ。
備考	時間があれば、Structuralism やPost-structuralismによるアプローチも紹介したい。

参考文献： その都度、必要により示す。

評価方法： 出席状況、平常点、レポート、筆記試験などによりトータルに評価する。

(欠課題、識等)その他は年度初講において話す。

## アメリカ文学各論 2

### 小 説

担 当 者：吉元 清彦                      研究室：[604]

テキスト：授業開始後、参考文献等と一緒に紹介する予定。

目 標：「われわれは今日、文学をどう捉える（考える）か」——現代アメリカの作家たちが、「言葉」によって提示してくる「世界（時代）像」「人間像」をいかに読み解いてゆくか、苦勞と悦びを共に分ち合い、探求してゆきたい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	授業内容・方針の案内・説明。
	2	序 文学をどう捉える（考える）か (テープ：Washington Irving : Rip Van Winkle)
	3	同 上 (テープ：Nathaniel Hawthorne : Young Good Man Brown)
	4	同 上 (テープ：Edgar Allan Poe : The Tell-Tale Heart )
	5	本論 1. 2, 30年代の作家たち (テープ：Frank Stockton : The Lady of The Tiger?)
	6	2. Survivalという強迫観念 ——現代アメリカ作家の思想風土 (テープ：M. Twain : The Notorious Jumping Frog of Calavelas County)
	7	同 上 (テープ：Mark Twain : What Stumped the Blue Jays? )
	8	同 上 (テープ：Bret Hart : The Outcasts of Poker Flat)
	9	3. 4, 50年代以降のアメリカの作家たち (テープ：Ambrose Bierce : An Occurrence at Owl Creek Bridge )
	10	4. ユダヤ系アメリカの作家たち (テープ：Hamlin Garland : The Return of a Private )
	11	5. 黒人作家たち (テープ：O. Henry : The Gift of the Magi; The Furnished Room )
	12	6. 文学批評について (テープ：Stephen Crane : An Episode of War )
備考	多分毎回最初にアメリカの代表的な短編小説をテープで聴く予定で、その作家名及びタイトルを上記( )内及び次頁( )内に示してあるので、ある程度の予習は可能である	

	週	内 容
後 期	1	5. J.D. Salingerの作品 ( <u>Nine Stories</u> より) (テープ: Jack London : To Build a Fire [beginning] )
	2	5の1. "A Perfect Day for Bananafish" を読む (テープ: Jack London : To Build a Fire [concluded] )
	3	同 上 (テープ: Sherwood Anderson : Unlighted Lamps )
	4	5の2. "Uncle Wiggily in Connecticut" を読む (テープ: Ring Lardner : Haircut )
	5	同 上 (テープ: Robert Benchley : The Treasurer's Report )
	6	5の3. "Just Before the War with the Eskimos" を読む (テープ: James Thurber : Interview with a Lemnig)
	7	同 上 (テープ: Ernest Hemingway : Indian Camp )
	8	5の4. "For Esme-with Love and Squalor" を読む (テープ: Ernest Hemingway : The End of Something)
	9	同 上 (テープ: Ernest Hemingway : The Killers )
	10	同 上 (テープ: William Faulkner : A Rose for Emily)
	11	6. まとめ (次への一步のために) (テープ: John Updike : A&P )
	12	同 上 (テープ: Request のあったもの)
備考	尚、テープはその日の授業内容と必ずしも直接的に関係があるとは限らないが、やはり多少の予備知識のもち合わせは必要である。	

参考文献： 前頁テキスト欄を参照。

評価方法： 前期——レポート提出（9月第一回目の授業時に提出）。

（提出課題、試験等） 後期——筆記試験実施。

尚、上記以外にも、時折実施される小テストや提出物（レポート等）も評価の対象となる。

# 英米文学特殊講義 1

## 英米の詩論

担当者：園部 明彦 研究室：[621]

テキスト：プリント

目 標：マラルメの象徴主義理論を中心に象徴主義について考察し、あわせて、現代詩人がそれにどのように関わっているか考えてみたい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
1	イントロダクション：象徴主義と現代詩について
2	象徴主義の特徴について
3	ランガーの「シンボルの哲学」から
4	マラルメの象徴主義理論について (一)
5	マラルメの象徴主義理論について (二)
6	シモンズの「文学における象徴主義運動」について
7	イマジスト・ムーヴメントについて
8	T. S. エリオットの詩論について (一)
9	T. S. エリオットの詩論について (二)
10	象徴主義とエリオットの詩論との比較
11	象徴主義と他の詩人の詩論との比較
12	まとめ
備考	

週	内 容
1	James Joyce の作品から
2	W. B. Yeats の作品から (一)
3	W. B. Yeats の作品から (二)
4	T. S. Eliot の作品から (一)
5	T. S. Eliot の作品から (二)
6	T. S. Eliot の作品から (三)
7	Ezra Pound、他 の作品から
8	William Empson、他 の作品から
9	Edith Sitwell、他 の作品から
10	W. H. Auden、他 の作品から
11	Dylan Thomas の作品から
12	まとめ
備考	

参考文献 : Mallarmé : *Selected Prose Poems, Essays, and Letters*  
(The Johns Hopkins Press)

評価方法 : レポート他  
(提出課題、試験等)

## 英米文学特殊講義2

### 英米の詩論

担当者：(前期) 白鳥 正孝

研究室：[534]

テキスト：プリント

目 標： 「春の朝」「虹」などの易しい英詩を導入して、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目標とする。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	「詩形について」 英詩を学ぶ場合には、一応詩形についてのだいたいのことを承知している方が理解し易い。但し脇役なのであって過信は禁物だが。
2	「易しい詩」 I. 1, 2 連からなる易しい詩を主に「韻律調べ」の観点から読んでいく。
3	「易しい詩」 II. Lord Tennyson(1809-92), R. Browning(1812-89), E. Lear(1812-88), C. Rossetti(1830-94) 等の易しい詩を読む。
4	「マザーグース」 伝承童謡について学ぶ。メロディーのあるものが多く、どちらかといえば、歌詞の趣があるが、中には下手な詩顔負けのものもある。
5	「現代英詩アラカルト」 I. T. Hardy(1840-1928), R. Bridges(1844-1930), W. de la Mare(1874-1956), S. Sassoon(1886-1967) を読む。
6	「現代英詩アラカルト」 II. E. Blunden(1896-1974), P. Larkin(1922-1985), T. Hughes(1930- ), Seamus Heaney(1939- ) を読む。
7	「ロマン派の詩」 I. W. Blake(1757-1827)とR. Burns(1759-1796)を読む。
8	「ロマン派の詩」 II. W. Wordsworth(1770-1850) の代表的な小品を幾つか読む。
9	「ロマン派の詩」 III. S. T. Colerige(1772-1834), G. G. Byron(1788-1824), P. B. Shelly(1792-1822), J. Keats(1795-1821) の小品を読む。
10	「ロマン派の詩」 IV. Video 鑑賞。ロマン派の詩人に関するシリーズを2本鑑賞する。(各30分)
11	「古典詩」 I. J. Milton(1608-74) の詩について講じた後、Video 鑑賞。
12	「古典詩」 II. <i>Golden Treasury</i> (ed. F. T. Palgrave) からW. Shakespeare(1564-1616)の詩を若干取り挙げて、全体の講義のまとめとする。
備考	前年と重複する部分もかなりあるので留意されたい。但し、同じ詩人でもなるべく別の詩を取り挙げるようにしたいと思う。



担当者：(後期) 原 成吉

研究室：[631]

テキスト：プリント

目 標：詩を楽しむことから始め、アメリカ詩という異文化の鏡をつかって、わたしたちが生きている時代や個人の問題を、今までとは別の視点から考える。

週	内 容
1	アメリカの詩概説——詩の起源(ネイティブ・アメリカンの口承詩)について
2	もう一つのアメリカ現代詩(ロック・ミュージックのリリックに探る)(1) Bob Dylan, Paul Simon, Jim Morrison の作品にみる1960年代
3	もう一つのアメリカ現代詩(ロック・ミュージックのリリックに探る)(2) Billy Joel, Bruce Springsteen の作品にみるポスト・ヴェトナムの時代
後	4 デモクラシーをうたう『草の葉』の詩人 Walt Whitmanがみたアメリカのヴィジョン
5	女性詩人の"voice"を聞く Emily Dickinson の私的世界——マイクロコスモスの中にあるマクロコスモス
6	モダニズムの起源を探る(Imagism にみるイメージの詩学) Ezra Poundと東洋
7	詩に描かれた現代人の苦悩 T. S. Eliot の"The Love Song of J. Alfred Prufrock"を読む
8	"here and now"のアメリカ詩学 William Carlos Williams とWallace Stevens ——日常の「再発見」
期	9 "typography"と"meaning"の関係について e. e. cummingsとMarianne Mooreの詩
10	"Confessional Poet"と呼ばれる詩人たち Robert Lowell とSylvia Plath
11	古くて新しい詩の流通手段——ポエトリ・リーディング Allen GinsbergとGary Snyder の場合
12	フェミニズムと女性詩人 Adrienne Rich の"Re-Vision"
備 考	

参考文献：(前期) 参考書は、そのつど教室にて示す。

評価方法：(前期) 評価は、前期末試験を行う。詳細は教室で指示する。

(出題、講義) (後期) 授業中に配布したプリントから詩を一編とりあげ、4,000字程度(ワープロB5 [30字×35行])で論じ、その詩の日本語訳も論とは別に提出。『レポート・論文の書き方』参照のこと。

## 英米文化論

担当者：福井 嘉彦

研究室：[612]

テキスト：

目 標：キリスト教と出会うことによって形成された欧米社会の文化的基本を探求する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	概要説明
2	ローマの神アシュタロテ神の系譜 (I)
3	ローマの神アシュタロテ神の系譜 (II)
4	ローマ帝国のキリスト教政策
前 期	5 正統と異端 (I)
	6 正統と異端 (II)
	7 隠修道士とベネディクト会
	8 イングランドのキリスト教文化
	9 カロリング王朝と教皇
	10 暗黒のキリスト教会
	11 教会改革 (I)
	12 教会改革 (II)
備考	

	週	内 容
後 期	1	中世キリスト教文化の形成
	2	中世の異端
	3	至福千年（Ⅰ）
	4	至福千年（Ⅱ）
	5	教皇の地位
	6	十字軍の理念（Ⅰ）
	7	十字軍の理念（Ⅱ）
	8	ローマ教会批判
	9	宗教改革の理念（Ⅰ）
	10	宗教改革の理念（Ⅱ）
	11	宗教改革の理念（Ⅲ）
	12	英国国教会の成立
備考		

評価方法：授業への参加の有無と試験の結果による  
（提出課題、試験等）

# 英米の歴史 1

アメリカ史

担当者：佐藤 唯行 研究室：[615]

テキスト：（特になし） プリント（随時、配布予定）

目 標：植民地時代から1980年代にいたる合衆国史の基本的な道筋を理解してもらう。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

	週	内 容
前 期	1	アメリカ史の特質としての、封建制の欠如、広大な自由地の存在、セクションの多様性、移民が果たした役割について概説する。
	2	イギリス領北米植民地の初期の歴史について、プリマス植民地、ヴァージニア植民地の形成と黒人奴隷制の確立について考える。
	3	ニューヨークとペンシルヴァニアを中心とする中部植民地の性格、北米植民地全体の経済的発達について考える。
	4	第一次イギリス帝国の形成と植民地側の反抗が、どのようにして始まったのか、その背景について考える。
	5	アメリカ独立革命の経過、世界史的意義、奴隷制とのかかわり合いについて考える。
	6	建国期のアメリカ政治史について、ワシントン政権、ジェファソン政権の内政、外交を考える。
	7	1812年戦争の歴史的意義、運輸革命とモンロー・ドクトリンについて考える。
	8	コモンマンの台頭と政治の民主化に象徴される「ジャクソニアン・デモクラシー」について考える。
	9	工場制度の出現、労働者階級の成立、労働運動の始まり、について学ぶ。
	10	1840年代から始まる合衆国の領土的膨脹と南部セクショナリズムの台頭について学ぶ。
	11	奴隷制廃止運動と南北戦争について学ぶ。
	12	南北戦争終了後から19世紀末にいたる、アメリカ社会史上、「金ピカ時代」とよばれる物質主義と金権政治が横行した時代の特徴を学ぶ。
備考		

	週	内 容
後 期	1	フロンティアの消滅、メガロポリスの形成、南部と中西部農村地域におけるポピュリズム運動の興隆について考える。
	2	革新主義運動の特徴、革新主義時代の対外政策、第一次大戦へのアメリカ参戦について考える。
	3	1920年代の「繁栄」の中で展開した農村的アメリカと都会的アメリカのせめぎあいについて考える。
	4	大恐慌の到来とニューディール政策の成果と遺産について学ぶ。
	5	第二次大戦の勃発とアメリカの参戦、大戦下の国内状況、戦時外交の展開について考える。
	6	朝鮮戦争と国内の冷戦である「赤狩り」、1950年代の経済成長の結果出現した「豊かな社会」とベビーブームについて考える。
	7	ベトナム戦争と公民権闘争について考える。
	8	ウォーターゲート事件による「帝王的大統領制」の終末、石油危機とアメリカの製造業の衰退について考える。
	9	カーター政権下の内政と外交。経済危機下のマイノリティー・グループについて考える。
	10	レーガン政権と1980年代の保守回帰の時代の特色について考える。
	11	ブッシュ政権の内政と外交について考える。
	12	全体のまとめを行う。
備考		

参考文献： 特になし

評価方法： 後期の定期試験の結果により評価します。形式は論述ではなく、選択肢か（複数課題、試験等）ら選ぶものとします。提出課題は特に考えておりません。

## 英米の歴史2

### 英米の市民革命

担当者：宮川 淑 研究室：[624]

テキスト：『英米の歴史講義資料』を配布する。

目 標：17世紀のイギリス革命、18世紀のアメリカ革命を中心に、イギリスについてはノルマンの征服から名誉革命まで、アメリカについては植民の開始から合衆国憲法の制定まで、社会史および政治史を軸に講義する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	第1章 イギリスの封建社会。封建社会の構造の説明から入り、議会制度成立のプロセスを明らかにする。
2	議会制の外で、一般民衆は税制や領主の農民搾取に対して決起し、イギリス史上最大の反体制運動を展開する。今日の人頭税問題の発端もここにある。
3	第2章 絶対王政の時代。ここからが中央集権的国家体制の時代。J.ケイドの乱から入り、絶対王政下の政治機構、議会制の展開を見る。
4	前週の続きとして、16～18世紀にイギリスの政治や社会で実権を握ったジェントルマンについて説明し、当時の経済状態についても一瞥する。
5	ヘンリーⅧとリザベスⅠの行った宗教改革の内容について見る。
6	市民革命前夜の前期スチュアート朝と議会の対立が深刻化する原因、さらに国家主権をめぐる論争等を考察する。
7	第3章 イギリス市民革命。1642～1660年の内乱についての今日までの研究史、さらに事件の経過等について説明する。
8	革命を戦った諸セクトのうち、まず長老派の政治改革案を検討し、次いでH.パーカーの議会主権論の内容を見る。
9	前週に続き、独立派の政治改革案を同派が出した改革の諸プログラムの検討を通じて考察する。
10	レヴェラーズの憲法思想の検討に入る。同派は1647年10月「人民協定」という憲法草案を発表するが、それに至る間の3つの文書の内容を考察する。
11	レヴェラーズの「人民協定」の内容、さらにそれをめぐるパトニ討論の検討を通じて同派の人民主権論について見る。
12	1648年2月以降の第2次内乱の時期から革命の終盤の様相を考察する。時期は1660年の王政復古まで。
備考	講義の進展如何で、前期分1, 2週後期にずれ込むことがありえる。

	週	内 容
後 期	1	第1章 植民地時代のアメリカ。新大陸への植民が始まる動機は何か、イギリスの植民地政策と他のヨーロッパ諸国のその違いはどこにあるか等。
	2	13植民地の分類，最初の南部の植民地ヴァージニア・コロニーの政治や経済の特徴等について。
	3	北部の植民地プリマス・コロニー，マサチューセッツ・コロニーの政治や特徴について。
	4	第2章 アメリカ革命。革命前イギリス領アメリカ植民地の社会，経済の状態の説明。
	5	イギリス本国の植民地政策とそれに対する植民地側の反抗を3段階に区分し第一段階の1763～1766年の時期から説明する。
	6	イギリス本国の植民地支配権をめぐる憲法論議について。とくに植民地側の「自己課税」の原則論に対する本国側の「実質的代表」の論争の解説。
	7	本国と植民地の構想の第2段階，第3段階の具体的経過を説明する。
	8	1774年の第1回大陸会議，1775年の第2回大陸会議が到達した内容についてこの段階ではまだ独立という意味形成はなされていない。
	9	T.ペイン『コモンセンス』の内容とそれが与えた影響、独立宣言文作成の経緯とその内容について。
	10	市民革命としてのアメリカ革命について。財産所有関係の変革，階級構成，結末等。
	11	州憲法，連合規約，合衆国憲法等の内容と特徴の説明。
	12	合衆国憲法の選挙権条項，とくに下院議員配分の人口比例原則，人種差別の撤廃過程，女性参政権，18歳選挙権の実現過程等。
備考		講義資料集は毎時間持参すること。

評価方法：前・後期2回の試験を定期試験期間中に行い、その平均点を学年評価とする。  
(提出課題、試験等)なお、年に5回出欠調査を行い、評価の参考資料とする。

# 英米事情 1

現代イギリス

担当者: T. ヒル

研究室: [627]

テキスト: PETER BROMHEAD: *LIFE IN MODERN BRITAIN, LONGMAN*

An introductory discussion of British Civilization.

目 標: To provide a comprehensive introduction to contemporary British life including the law, the government, education, the welfare state and other aspects of British culture.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	Introduction. Explanation of course. General introduction to the U.K.
2	The Country —The physical and climatic conditions of the U.K., agriculture, fisheries, forestry and the energy problem.
3	The People—History of the British people and the development of their culture and language. Immigration and the question of race relations.
4	Political Institutions—Political history, constitutional framework, the monarchy, the Privy Council and the government.
5	Political Institutions—The Civil Service, elections, political parties, and the working of House of Commons and House of Lords.
6	Political Institutions—Local Government:its history and structure since 1986. The working of local government.
7	International Institutions—British Commonwealth and history, relations with Ireland and the European Community.
8	International Institutions—Defence and foreign relations, NATO and U.S.A.
9	The Legal System—Legal history, and sources of contemporary law, civil and criminal law.
10	The Legal System—Criminal courts and their procedure, civil courts and their procedure. The legal profession.
11	The Economy —Development of the modern economy, economy policy and performance since 1979. Unemployment.
12	The Economy —Banks and other financial institutions, industrial and commercial institutions, trade unions and changing priorities in economic policy.
備考	



	週	內 容
	1	The Welfare State —Welfare history, social security, the National Health Service and the social services.
	2	Education —School history, state school system and the independent school system.
	3	Education —School organisation, the National Curriculum, higher education, and further and adult education.
後	4	The Mass-media—Newspapers and other periodicals, radio and television. The B. B. C.
	5	The Mass-media—Media ownership, the role of the media in British democracy and freedom of expression.
	6	Religion—History of religious thought, the Church of England, the Roman Catholic Church, non-christian religions and Sunday observance.
	7	Social Behaviour—Social class, status of women, ethnic minorities and the question of immigration.
	8	Social Behaviour—Sports and leisure, marriage, home and the family. Social attitudes.
期	9	The Arts—Theatre, pop music and the film industry. The British Tea Ceremony.
	10	Scotland and Wales—History of Scotland, history of Wales and their national characteristics and movement for independence.
	11	N. Ireland —Historical background : The Celts, the Anglo-Normans, the struggle for unification. The I. R. A. and the U. D. A.
	12	The Future—Summary of the course, Britain's future in Europe, Britain and Japan and Britain's future relation with U. S. A.
備 考		

評估方法 : Assessment will be on the basis of two written examinations in July and January.  
(聽講、課等) Attendance will also be taken into consideration.

## 英米事情2

アメリカ文化

担当者: M. A. シブル                      研究室: [635]

テキスト: Prints: Essays, prose and poetry from *The American Tradition in Literature*, *The Cherokee Removal*, *African American Literature* and other sources.

目 標: The the course offers the Japanese student an insight into the nation's cultural roots in Europe. The lectures in English will provide an opportunity to improve listening skills.

年間予定

( ) 曜日: ( ) 限: ( ) 棟 ( )

	週	内 容
前 期	1	The new world - introduction to the geography, climate and peoples of the Americas.
	2	The new world, continued: the the native Americans, their arts, religions, political and social systems.
	3	The discovers - the age of exploration and exploitation.
	4	The first settlers—the Jamestown and the Massachusetts Bay colonies.
	5	The beginnings of a nation—the social, religious and intellectual life in the colonies. Development of the educational system.
	6	The revolution and the first expansion to the west. Transcendental and symbolic representation: Emerson, Thoreau, Poe, Hawthorn and Melville. Quiz.
	7	The industrialization of the United States—the Lowell and Waltham systems. The flowering of modern American literature.
	8	"A Fire Bell in the Night"—A nation divided.
	9	The first modern war; city sketches of New York and Atlanta, 1860-1865.
	10	Binding up the nation's wounds; Mark Twain's <i>Huckleberry Finn</i> .
	11	Gone West - the Oregon Trail
	12	The birth of the American musical theater - from the minstrel show to Broadway's first smash hit. Review for the examination.
備考		

週	內 容
1	Industrialization and a changing people:1880-1915 - Immigration from Europe and migration from the South.
2	Industrialization and a changing people, continued:1915-1922 - America goes to war, prosperity and the crash of 1929-The poetry of Ezra Pound and T.S. Elliot.
3	The American picture show - Griffith and Hollywood's golden years. Ragtime, the blues and jazz:the art of Scott Joplin, Clara Smith and Jelly Roll Morton.
4	Serious music and American opera-the compositions of Aaron Copeland, Howard Hanson Glass and the operas of Gershwin and Menotti.
5	The Harlem renaissance:Langston Hughes, Contee Cullen and Beardon. A vision of tomorrow-New York and American industrial design in the 1920's-1930's.
6	The lively arts:Broadway-drama, dance and the musical. The magazine in America; Faulkner, Fitzgerald and Hemingway. The art museum in America.
7	The Second World War and the Cold War. Postwar literature: The works of Irwin Shaw, Arthur Miller, Salinger and Ralph Ellison.
8	The media: the press, radio and television. Edward R. Murrow
9	Postwar fiction: Updike, Bellow and Carver.
10	The new American family: the single parent and the inner city.
11	End of the cold war; Challenges for the next century.
12	Review for term examination.
備 考	

參考文獻： List of references will be available from instructor.

評估方法： The final grade will be based on attendance, quizzes, the mid-year and final (題、議等) tests. Credit will be given for book reports and term papers.

## 英米の政治

担当者：宮里 政玄

テキスト：とくに指定しないが、主要な参考書として阿部齊編『アメリカの政治』弘文堂、1991年。宮里政玄編『日米構造摩擦の研究』日本経済新聞社、1990年。

目 標：本講義では大統領、議会、圧力団体の相互作用の分析を通じてアメリカ政治の本質とその実際を学ぶ。可能な限り英にも触れ、日米関係もとりあげる。

年間予定 ( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	1年間の講義内容と参考書などについて説明する。
2	憲法上の大統領の権限、憲法起草者の意図について、 <u>Federalist Papers</u> などから説明する。阿部、「連邦制と地方自治」(1)、(2)、(3)。
3	三権分立の原理、「伝統的大統領」について。阿部、「大統領の地位と役割」(1)、(2)、宮里、第2章。
4	「伝統的大統領」との比較において「現代の大統領」と「国民投票による大統領」の相違、特徴を考える。宮里、第2章(2)。
5	F. D. ルーズベルト以後の大統領のマネジメント・スタイルを類型化して説明する。宮里、第2章(2)。
6	大統領府 (NSC, NEC, USTRなど) の役割、大統領との関係の重要性。宮里、第2章(2)、(3)、阿部、「大統領の地位と役割」(3)。
7	アメリカの内閣と閣僚の特徴について、とくに英の議会内閣制との比較で説明する。
8	政党と大統領選挙 (二党制、無党派とローカリズムなど) について。阿部、「選挙と有権者」、「政党および政党制」。
9	過去の選挙との比較で1992年の選挙の特徴を考える。(資料を指定する。)
10	議会分析のレベルを説明する (議員、委員会のレベル) ことによって議会に対する見方を講義する。レジュメを配布する。
11	議員の立場からの分析。議員の主な目的、議員の活動、議会制度への影響、議会の機能への影響、立法過程の特徴など。阿部、「議会」(1)
12	前期の講義の要約を行う。
備考	

	週	内 容
後 期	1	前期講義の要約。委員会の分析。下院の歳入委員会の例。1970年代の議会民主化と「小委員会政府」、Multiple referral、代表制の問題など。レジュメ。
	2	委員会制度の最近の変化（予算の逼迫などの影響など）を説明する。最近の資料のレジュメを配布。
	3	下院における議員の投票活動についての説明を行う。選挙区、同僚議員、政党指導部、利益集団、行政府などの影響について。レジュメを配布。
	4	3週の続き。議会のまとめとしてその特徴を説明する。
	5	議会と大統領の関係について、第二次世界大戦後のパターンを説明する。阿部、「大統領の地位と役割」(4)。
	6	対外経済政策決定過程の全般的な特徴についての説明。民主的参加、審議過程や緊張関係、制度的な偏見などについて。
	7	議会の役割についての説明。貿易圧力からの議会の保護、ファースト・トラック・システムなど。
	8	行政府の役割についての説明。とくにUSTRやITCなどと大統領との関係など。
	9	事例研究——次期支援戦闘機(FSX)を例に行政府と議会の関係を説明する。宮里、第3章(3)。
	10	事例研究——議会内の政治についてローカル・コンテンツ法案の審議を取り上げて説明する。資料を配布する。
	11	事例研究——日米構造協議を事例に日米関係を考える。宮里、第4章。
	12	総まとめを行う。
備考		

評価方法：評価は前後期末の筆記試験により評価する。講義の全体についてレジュメを（提出課題、試験等）配布するが、とくに参考文献を挙げないものについては、詳細なレジュメを用意する。

## 英米の経済

担当者：宮川 淑                      研究室：[624]

テキスト：特定の教科書は使用しない。講義資料集を配布する。

目 標：イギリス経済について、近代化が始まる16世紀から、現代のメイジャー政権までを講義する。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	今日までのイギリス経済は、4度の転換期を経験した。いま5度目の転換期に入っている。最初に、そうした全課程の概略を説明する。
	2	第1章 イギリス経済の近代化過程。 商業革命と価格革命について。大西洋中心へヨーロッパの商業活動領域が変わることに伴うイギリス経済の変化。
	3	重商主義について。工業中心へ経済活動が変わる中間期の16,17,18世紀の貿易中心の重金主義, 貿易差額主義, 産業保護主義の3段階の説明。
	4	エンクロウジャーについて。近代化過程においてこれが持つ意義, 具体的なその進展状況, それに対する世論の反応等。次週へ継続する。
	5	先週からの継続。エンクロウジャーの被害者である農民たちのこれに対する抵抗運動, 政府のエンクロウジャーや失業農民対策等について。
	6	レイ・フーミングについて。前2週で説明したエンクロウジャーとは異質の「休閑地」の廃止を意図する技術革命的農業変革の内容の説明。
	7	近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。
	8	前週の継続としてマニュファクチャー（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。
	9	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神。近代ヨーロッパの資本主義成立史における職業倫理についてのM. ベーバーの研究について。
	10	第2章 市民革命期の経済問題。 17世紀段階におけるブルジョアの定義, 市民革命における土地処分, J. ロックの所有論等について。
	11	市民革命における産業・貿易の独占体制の廃棄, とくに毛織物貿易独占の打破について。
	12	前期において万一休講が生じた場合の予備の週, あるいは前期試験日に該当する。
備考		

	週	内 容
後 期	1	第4章 市民社会。わが国ではなじみの薄い概念の市民社会についてまず概略を、次いで、T. ホッブズの社会契約論について説明する。
	2	前週に続く市民社会論としてJ. ロックのそれを明らかにし、その背景にあるイギリスの社会経済の様相と西欧近代の人権思想との関連。
	3	A. スミスについて、重商主義との関連、彼の労働観、自由競争と社会階級との関連、国家論等について説明する。
	4	第5章 イギリス産業革命。産業革命がなぜ世界で真っ先にイギリスで生じたのか、悲観説・楽観説とはどのような見方なのかを論じる。
	5	前週に続き、第2次世界大戦以降の近年の産業革命論、産業革命の今日的意義等について説明する。
	6	第6章 19世紀のイギリス経済。機械制大工業の成立に対する労働者階級の反発としてのラダイツ運動、労働組合、工場法の成立等を扱う。
	7	労働者階級の参政権要求運動としてのチャーティスト運動について考察する
	8	第7章 黄金字から大不況へ。まず1850～1873年のイギリス経済の黄金時代の特徴について、続く大不況の時代の様相、独占体の形成等について。
	9	第8章 労働党時代のイギリス経済。第2次世界大戦後、完全雇用と福祉国家の実現をはかった労働党政権時代、「イギリス病」の原因も考察する。
	10	第9章 サッチャー政権以後。「イギリス病」克服を目指した保守党首相M. サッチャーの経済社会政策を総括的に考察する。
	11	J. メイジャー政権以後、今日のイギリスが直面している経済問題を見る。
	12	後期において万一休講が生じた場合の予備の週、あるいは後期試験日に該当する。
備考		後期の12月初頭に獨協学園および獨協大学の財政について説明する機会を設ける

評価方法：前・後期2回の試験を定期試験期間中に行い、その平均点を学年評価とする。  
(提出課題、試験等)なお、年に5回出欠調査を行い、評価の際参考材料とする。

## 英米の法律

担当者：早坂 禮子

テキスト：とくに指定しない。

目 標：英米の法制度は、日本とは様々な点で異なっている。本講義は、歴史的観点も踏まえて英米法の基礎知識の修得に努めるもので、条文や判決文を直接参照することが多くなる。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	講義のすすめ方について、具体例をあげて説明し、参考資料等の紹介も行う
	2	I 英米法概観
	3	II イギリス法の形成      1 コモンローの形成と特色
	4	同 上
	5	2 エクィティの形成と特色
	6	同 上
	7	3 コモンローとエクィティの融合
	8	4 イギリス近代法の形成
	9	III アメリカ法の形成      1 植民地時代
	10	2 アメリカ連合 3 アメリカ法の形成
	11	4 アメリカ法の展開
	12	補論：イギリス法とアメリカ法の現代の諸問題
備考		



	週	内 容
後 期	1	IV 法源 1 判例法主義の特色 2 判例の読み方
	2	V アメリカ法の仕組み 1 連邦法
	3	2 州法 3 連邦法と州法
	4	4 憲法・条約・連邦法・州法 — 通商規制の例
	5	5 裁判制度と管轄
	6	補論：イギリスの裁判制度
	7	VI アメリカ民事訴訟手続 1 pre-trial
	8	2 trial
	9	VII アメリカ刑事訴訟手続
	10	VIII 救済の諸類型 1 損害賠償 2 違法宣言 3 差止め
	11	IX 新しい訴訟類型 1 制度改革訴訟 2 クラスアクション
	12	X 英米の判例を読む
備考		

参考文献：田中英夫編 「BASIC 英米法辞典」東京大学出版会

樋口、吉田編 「解説 世界憲法集」（改訂第3刷）三省堂

評価方法：成績評価は、原則として学年末の定期試験に拠る。

(提出課題、試験等)年数回出席カードを提出してもらい、成績評価の参考にする。

# 英米文化特殊講義1

植民地時代～現代

担当者：佐藤 唯行

研究室：[615]

テキスト： 特になし

目 標： 前期は、多人種・多民族社会アメリカを代表する主要なエスニック・マイノリティーの歴史と現状を学ぶ。後期は、近年、多民族社会としての性格を強めつつあるイギリス社会の中で、最古の少数派、ユダヤ人を取りあげる。

年間予定

( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	(インディアン史)、白人との毛皮交易がインディアン社会にもたらした文化的変容を中心に、18世紀末までの白人とインディアンの関係を考える。
2	1830年代の強制移住から、19世紀末の大平原諸部族による軍事的抵抗の終り迄の白人とインディアンの関係を考える。
3	1887年に制定されたドーズ法のもとで行なわれた法による土地奪取と文化破壊、1960年代以後始まるインディアンの復権運動について学ぶ。
4	(中国系アメリカ人の歴史と現状) ゴールドラッシュ直後のカリフォルニアにおける中国系移民労働者の導入から、近年の「山の手中国人」の形成過程まで。
5	(日系アメリカ人の歴史と現状) 1890年代における移民の本格化から、1920年代のハワイにおける民族の違いを乗り越えた労働者階級の統一の実現迄を学ぶ。
6	第二次大戦後の日系人の「サクセス・ストーリー」の光と影、1970年代末以後の日米貿易摩擦のきしみの中で高まる反日系人感情について考える。
7	強制収容問題と戦後における損害賠償問題について考える。
8	(ヒスパニック・アメリカンの歴史と現状) 消費市場としてのヒスパニック、ヒスパニック系対黒人のエスニック・コンフリクトについて考える。
9	ヒスパニック系の中の最大集団であるチカノの労働運動史、セザール・チャベスにより指導された解放運動、「ディレーノ大闘争」について考える。
10	(黒人の歴史と現状) 奴隷制時代から差別体制下まで。
11	公民権闘争とブラック・ナショナリズムの台頭、M. L. キングとマルコム Xを中心に。
12	1980年代以後の黒人社会——階層分化、政治的進出、韓国系とのエスニック・コンフリクトを中心に。
備考	

	週	内 容
後 期	1	(ユダヤ系アメリカ人) 多数派社会とユダヤ人との関係史、とりわけ反ユダヤ主義を中心に。
	2	(ユダヤ系アメリカ人) 黒人社会とユダヤ人との関係史。
	3	(中世英国ユダヤ人社会の成立) ノルマン征服後、何故、英国王は大陸のユダヤ人を招き、好遇したのか、彼等と教会、都市、貴族との関係を考える。
	4	(中世英国ユダヤ人社会の崩壊) ユダヤ人の金融活動が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果してきたことを解明し、1290年の追放の歴史的意義を探る。
	5	(儀式殺人告発の神話) キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である1144年のノーリッジで発生した「聖ウィリアムの殉教」を検証する。
	6	(空白の三世紀半) 1290年の追放から1656年に再入国が許可される迄の三世紀半、英国には法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追う。
	7	(重商主義とユダヤ人) クロムウェル政権下、何故ユダヤ人はイギリスへの再入国を許され、イギリスの経済にどのような役割を果たしたのか。
	8	(多数派社会への同化) 旧体制化のヨーロッパ大陸諸国と比べて、イギリスでは類例のない程度で上層ユダヤ人が多数派社会に同化し得た。その理由を探る。
	9	(ロンドンユダヤ人社会の貧民問題、1750年から1850年まで)
	10	(1753年のユダヤ人帰化法案)
	11	(イギリスユダヤ人の政治的解放、1828~58年)
	12	
備 考		

参考文献： 特になし

評価方法： 後期の定期試験の結果により評価します。形式は複数の選択肢から正解を(提出課題、試験等)選ぶものとします。

提出課題は特に考えておりません。

## 英米文化特殊講義2

### アメリカ外交論

担当者：吉原 欽一

テキスト：有賀 貞『アメリカ政治史』（福村出版社）

目 標：本講では、日米両国の政治・外交について論ずる。前期では、アメリカの政治・外交の伝統的特質について検討していくとともに、アメリカ政治・外交史上の主要課題についてできるだけ立ち入って議論していきたいと考えている。後期では、特に両国の政策決定過程の相違に焦点を当てながら、大統領制と議員内閣制についての比較検討を行っていききたい。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	講座開講にあたって。 ・いま、何が問われているのか？
	2	1994年における国際情勢の課題と展望 ・国際情勢の展望 ・地域情勢及び主要国の状況 ・日本の課題
	3	アメリカとは何か？ ・「アメリカ」意識の形成—「自由」と「民主主義」との両立— ・アメリカ独立期の外交
	4	アメリカ外交の伝統的特質 ・イデオロギー第一主義 ・孤立主義と国際主義 ・「冷戦」とアメリカ外交—アメリカとアジア— ・熱戦化したアジアの冷戦—朝鮮とベトナム
	5	「冷戦」の終結とアメリカ外交 ・アメリカ外交の課題 ・アメリカ国民の対外観の変遷
	6	クリントン政権誕生の背景 ・クリントン政権の特徴
	7	クリントン政権の外交政策 ・「新世界秩序」と「クリントン外交」 ・クリントン政権のアジア政策
	8	戦後日米関係の概観 ・戦後日本政治の特徴 ・戦後日本政治と日米関係
	9	変容する日米関係 ・細川政権の誕生と「55年体制」の崩壊 ・「55年体制」の崩壊と日米関係
	10	サミットで何が問題となるのか？ ・日本を取り巻く環境変化 ・国際社会における日本の地位・役割と国益 ・サミット以後、クリントン政権は何を求めてくるのか。
	11	冷戦後における日米同盟のあり方と日米協力
	12	1990年代における日本の進路
備考		

週	内 容
1	外交政策形成の日米比較 ・「外交」、「対外政策」、「外交政策」 ・パワーモデルと多元主義モデル
2	外交政策形成の日米比較 -アメリカの外交政策- ・アメリカ外交政策決定の機構と過程(1)
3	外交政策形成の日米比較 -アメリカの外交政策- ・アメリカ外交政策決定の機構と過程(2)
4	外交政策形成の日米比較 -日本の外交政策- ・日本の外交政策決定の機構と過程(1)
5	外交政策形成の日米比較 -日本の外交政策- ・日本の外交政策決定の機構と過程(2)
6	外交政策形成の日米比較 -日本の外交政策- ・日米の外交政策形成過程と機構の比較考察
7	外交政策形成の日米比較 ・日米の官僚比較
8	外交政策形成の日米比較 ・政党・圧力団体・世論の日米比較
9	新段階を迎えた日米関係 ・ケーススタディーとしての「通商政策」(1)
10	新段階を迎えた日米関係 ・ケーススタディーとしての「通商政策」(2)
11	1995年の国際政治の課題と日米関係
12	講座閉講にあたって。
備考	

# コミュニケーション論特殊講義1

## スピーチ・コミュニケーション論

担当者：石井 敏

研究室： [       ]

テキスト：Klopf, D. & Ishii, S. Effective Oral Communication. 英宝社

その他コピー配布。

目 標：欧米型レトリック理論に基づく効果的な英語スピーチ・コミュニケーションに関する理解を深め、同時に実際的な技能を育成することを目指す。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	スピーチ・コミュニケーションの主要研究領域の紹介（コピー配布）と現代日本社会における研究の意義についての解説（教科書3～12頁）。
2	欧米のスピーチ・コミュニケーション研究を理論的に体系化した古代ギリシャと古代ローマのレトリック理論の解説（コピー配布）。
3	スピーチ・コミュニケーションの一般概念、展開過程及び主要構成要素の機能上の特徴、構成要素間の相関関係等についての考察（教科書12～22頁）。
4	スピーチ・コミュニケーションのレベルと形式上の分類、各形式の概念と主な目的及び特徴についての解説（教科書22～35頁）。
5	オーラル・インタープリテーションの概念と展開過程の主な特徴、発表用作品の分類と選択に関する解説（教科書104～111頁）。
6	オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と解釈、発表のための準備練習に関する解説と注意（教科書111～117頁）。
7	オーラル・インタープリテーションにおける作品解釈と感情移入、音声及び身体メッセージの機能と活用についての説明（教科書117～128頁）。
8	オーラル・インタープリテーションの発表と評価（その1）。
9	オーラル・インタープリテーションの発表と評価（その2）
10	ディスカッションの概念と形式上の分類、リーダーの役割、問題の主な特徴と問題設定上の留意点に関する解説（教科書40～46頁）。
11	ディスカッションにおける問題の種類と設定方法、ディベートの論題との相違問題解決の方法と展開過程に関する考察（教科書46～54頁）。
12	ディスカッションの展開練習、展開記録の作成及び提出。
備考	受講の学生は、指定の箇所を必ず予習してから出席すること。 講義は、必要に応じて英語で進められることもある。

週	内 容
1	スピーチ(public speaking)の概念と特徴(教科書55～56頁)、題材の選択と分析、参考資料の活用法等に関する解説(教科書63～68頁)。
2	スピーチの構成方法、序論・本論・結論の各目的と主な特徴、論旨の展開方法の分類等に関する考察(教科書68～76頁)。
3	スピーチの発表用アウトラインの作成方法、発表の形式上の分類と主な特徴等に関する解説(教科書76～82頁、コピー配布)。
4	スピーチの発表と評価、アウトラインの準備及び提出(その1)。
5	スピーチの発表と評価、アウトラインの準備及び提出(その2)。
6	ディベートの概念と主な特徴、形式上の分類、ディスカッションとの目的及び展開上の相違等に関する解説(教科書83～86頁)。
7	ディベートの論題の種類と特徴、論題の設定方法(教科書86～87頁)、参考資料の調べ方と記録方法等に関する解説(教科書92～93頁)。
8	ディベートの三段論証の方法、各段階の機能及び特徴等に関する思考法上の考察(教科書93～95頁)。
9	ディベートにおける反論方法、スピーチの種類と主な特徴、ディベートの展開方法等に関する解説(教科書97～103頁)。
10	ディベートの展開練習、スピーチの発表と評価(その1)。
11	ディベートの展開練習、スピーチの発表と評価(その2)。
12	1学年間の全講義の総復習とまとめ。
備考	受講の学生は、必ず予習をしてから出席し、発表活動に積極的に参加すること。 講義は、必要に応じて英語で進められることもある。

参考文献：橋本満弘、石井敏編 『英語コミュニケーションの理論と実際』 桐原書店

評価方法：評価は、出席及び活動への参加状況、発表と提出物、後期末の筆記試験の成(提出課題、試験等)績による。

## コミュニケーション論特殊講義2

### マス・コミュニケーション論

担当者：佐々木 輝美 研究室：[620]

テキスト：プリント使用予定。他の参考文献は随時紹介する。

目 標：マス・コミュニケーション理論に関する基本用語などを説明することができ、  
且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析  
できるようになることを目標とする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

	週	内 容
前           期	1	マス・コミュニケーションとは
	2	コミュニケーションについての基礎知識① －プロセスの概念について－
	3	コミュニケーションについての基礎知識② －意味はどこに存在するのか？－
	4	コミュニケーションについての基礎知識③ －メディア接触について－
	5	マスコミ効果の概念について① －効果とは－
	6	マスコミ効果の概念について② －順機能と逆機能－
	7	ビデオ視聴&解説 <span style="float: right;">(レポート課題発表)</span>
	8	マス・コミュニケーションのモデルについて① －モデルの長所と短所－
	9	マス・コミュニケーションのモデルについて② －マス・コミュニケーションの要因－ <span style="float: right;">(レポート提出締切り)</span>
	10	マス・コミュニケーションと教育①
	11	マス・コミュニケーションと教育①
	12	まとめ
備考	レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの用紙(40字×30行)×1枚にまとめる。	



	週	内 容
後 期	1	マスコミの影響研究について① －弾丸パラダイムから限定効果パラダイムへ－
	2	マスコミの影響研究について② －適度効果パラダイムから強力効果パラダイムへ－
	3	テレビ暴力研究について① －カタルシス理論－
	4	テレビ暴力研究について② －観察学習理論－
	5	テレビ暴力研究について③ －脱感作理論－
	6	テレビ暴力研究について④ －教化理論－
	7	4理論のまとめ －番組のタイプとの関係－
	8	ビデオ視聴&解説  (レポート課題発表)
	9	情報の流れについて①
	10	情報の流れについて②  (レポート提出締切り)
	11	利用と満足の研究 －送り手中心から受け手中心へ－
	12	まとめ
備 考	レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの用紙(40字×30行)×1枚にまとめる。	

評価方法：授業ではできるだけグループ発表やディスカッションも行い、学生諸君の授(提出課題、試験)業参観を重視したい。平常点(10%)、レポート前・後期各1回(30%)、前・後期定期試験(60%)の総合評価を行う。

## コミュニケーション論特殊講義 3

### 異文化間コミュニケーション論

担当者：町田 喜義                      研究室：[528]

テキスト：プリント、参考文献など別紙配布の予定

目 標：最初の数時間は入門編とし、徐々に異文化間コミュニケーションをめぐる諸問題についての講義に移る予定。最終的には言語・非言語と文化の関連を理解し、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟 ( )

週	内 容
前 期	1 プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明（シラバス参照） 討論：「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える
	2 グループ・ワークの為の班編成 課題討論：？（ヒ・ミ・ツ）
	3 異文化間コミュニケーション方法論 (1)言語・非言語：グループ討論
	4 異文化間コミュニケーション方法論 (1)言語・非言語：講義
	5 異文化間コミュニケーション方法論 (2)人間関係：グループ討論
	6 異文化間コミュニケーション方法論 (2)人間関係：講義
	7 ビデオ映画 ‘Gung Ho’ を観る→次週グループ討論：日・米文化摩擦について
	8 日・米文化摩擦について：討論
	9 HCコミュニケーションとLCコミュニケーション：講義
	10 HCコミュニケーションとLCコミュニケーション：討論
	11 文化とコミュニケーション：討論
	12 前期まとめ
備考	

	週	内 容
後 期	1	ビデオ映画：'Hamlet' (Shakespeare) を観る
	2	ビデオ映画：「忠臣蔵」を観る
	3	討論：日・米文化とコミュニケーション
	4	続・言語メッセージと非言語メッセージ：講義
	5	日本の文化的諸特徴についてのモジュール・アプローチ：講義 言語・歴史・地理・ビジネス・芸術
	6	日本語と英語の比較 (1)：講義
	7	日本語と英語の比較 (2)：講義
	8	日本文化と歴史 (1)：講義
	9	日本文化と歴史 (2)：講義
	10	日本文化とビジネス (1)：講義
	11	グループ・プレゼンテーション
	12	エピローグ：今後のコミュニケーション行動について
備考		

参考文献：別紙配布する。

評価方法：後期定期試験：30%

(提出課題、試験等)マイナー・レポート：20%

メジャー・レポート：30%

グループ・ワーク・プレゼンテーション：20%

# 国際関係論特殊講義 1

## 国際開発協力論

担当者：竹田 いさみ 研究室：[630]

テキスト：竹田いさみ『移民・難民・援助の政治学』（勁草書房）

目 標：アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなど英語圏の国際関係を、開発問題、移民・難民、援助（ODA）、地域協力システムの視点から考えていきます。先進諸国の国際協力政策や国際貢献を具体的に見る眼を養います。

年間予定 ( ) 曜日： ( ) 限： ( ) 棟 ( )

週	内 容
1	本講義の全体像——国際開発と国際協力
2	ODA ①スライドで見る現場：バナナ・パイア・カツオ・マグロ
3	ODA ②スライドで見る現場：国際援助競争の最前線ベトナム 「ハノイに行くならハトヤ」
4	ODA ③実験、どのように考えるか
5	ODA ④援助とは何か：3つの目的（援助政策の概念図）
6	ODA ⑤縦割りの国際援助：冷戦下の援助 （フィルムで見る冷戦期のアメリカ・自由主義の旗手）
7	ODA ⑥縦割りの国際援助：EC（欧州共同体）とロメ協定
8	ODA ⑦先進国の経済不況：ジャクソン・レポートと優先順位
9	ODA ⑧世界の中の日本
10	地域協力の国際比較 ①概観・世界地図で考える
11	地域協力の国際比較・②EC：マーシャルプランからマーストリヒト
12	前期のまとめ
備考	

週	内 容
1	世界レビュー：新聞・雑誌・記事に見る開発協力問題と動向
2	地域協力の国際比較 ③NAFTA（北米自由貿易協定） 南北協力の実験
3	地域協力の国際比較 ④ASEAN（東南アジア諸国連合） 国際圧力団体
4	地域協力の国際比較 ⑤APEC（アジア太平洋経済閣僚会議）
5	地域協力の国際比較 ⑥分類法：単一目的と多目的、機能、レベル
6	地域協力の国際比較 まとめ
7	国境を越える人々 ①スライドで見る現場：シドニー郊外のベトナム
8	国境を越える人々 ②移民と難民の相違：政治難民と経済難民
9	国境を越える人々 ③難民の世界史（ユグノーから東欧の崩壊）
10	国境を越える人々 ④アジア系移民・難民の分類
11	国境を越える人々 ⑤受け入れ政策の政治性
12	後期のまとめ
備考	

参考文献：授業中に紹介する

評価方法：基本的には前・後期のレポート

（提出課題、試験等）

## 国際関係論特殊講義 2

### 国際政治論

担当者：竹田 いさみ                      研究室：[630]

目 標：「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶこととなります。前期は国際関係のイメージを、後期は理論・アプローチの理解に力点が移動。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

	週	内 容
前 期	1	国際関係研究の全体像
	2	国際関係を見る眼 — 木・林・森
	3	国際関係の世界 ①戦争と平和（伝統的問題）
	4	国際関係の世界 ②繁栄と貧困（南北問題） ③世界経済ネットワーク、開発・環境・生存
	5	国際関係の理論・モデルとは何か — 物理学・経済学・政治学・文学 (ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー・?)
	6	国際問題の整理・分類 — 実験、どのように考えるか
	7	現代国際関係の動向分析
	8	国際政治学 ①政治とはなにか — 有限の世界、無限の欲望 (利害の調整)
	9	国際政治学 ②2つの世界観：「ユートピアニズム」と「リアリズム」
	10	国際政治学 ③3つのイメージ (現実主義・多元主義・グローバリズム)
	11	国際政治学 ④分析レベル
	12	前期のまとめ
備 考		

	週	内 容
後 期	1	現代国際関係の動向分析
	2	国際政治を見る視点：3つのイメージ（確認） スーザン・ストレンジの国際政治学批判
	3	現実主義・パワー論①意味・単位・構造・過程
	4	現実主義・パワー論②ホッブスとE・H・カー
	5	現実主義・パワー論③勢力均衡論：ヨーロッパ古典外交の特色 「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」（宗教・貴族・自立性）
	6	現実主義・パワー論④勢力均衡論：冷戦下の2極と多極システム
	7	多元主義・相互依存論①E Cの出現・パワー論の補完
	8	多元主義・相互依存論②トランスナショナリズム
	9	グローバリズム・従属論①反欧米思想・南の主張
	10	グローバリズム・従属論②世界システム
	11	国際政治と利害調整メカニズム
	12	後期のまとめ
備 考		

参考文献：有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989）

猪口孝『国際政治経済の構図』（有斐閣、1982）

衛藤瀋吉他『国際関係論』（東京大学出版会、1982）

川田侃『国際関係の政治経済学』（日本放送出版協会、1980）

高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966）

P・ビオティ、M・カピ『国際関係論：現実主義・多元主義・  
グローバリズム』（彩流社、1993）

細谷千博・白井久和編『国際政治の世界』（有信堂、1993）

蛸山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992）

評価方法：基本的には前期・後期のレポート（課題は授業中に指示する）

（提出課題、試験等）

# 国際関係論特殊講義 3

## 国際関係史

担当者：中國 和仁

テキスト：特定しない。

目 標：ヨーロッパの国際政治構造の歴史的变化を国家主権、ナショナリズム、勢力均衡、外交交渉、戦争、帝国主義、国際主義などの諸概念と関連づけながら理解することを目的とする。

年間予定

( ) 曜日：( ) 限：( ) 棟( )

週	内 容
1	歴史とは何か。
2	外交交渉とは。
3	近代西欧における主権国家の発生。
4	18世紀ヨーロッパにおける勢力均衡の評価。
5	フランス革命・ナポレオン戦争。
6	ウィーン体制の成立。
7	” 崩壊。
8	帝国主義の時代（ビスマルク外交）
9	” （帝国主義的対立の展開）
10	第一次世界大戦の導火線。
11	” 勃発。
12	まとめ
備考	



週	内 容
1	ベルサイユ体制の成立（パリ講和会議とドイツに対する制裁）
2	世界最大の工業国に発展したアメリカ合衆国の好景気と破産。
3	ヒットラーの登場とベルサイユ体制の打破。
4	ルーズベルト大統領とニュー・ディール政策。
5	スターリンとロシアの近代化。
6	イギリスの対独宥和政策。
7	第二次世界大戦の勃発とイギリスの反応。
8	真珠湾攻撃から広島原爆投下まで。
9	ベルリンへの道（スターリングラードの攻防）
10	冷戦の起源。
11	ケネディとフルシチョフ（キューバ危機）
12	まとめ。
備考	

参考文献：岡 義武『国際政治』岩波書店

高坂正堯『古典外交の成熟と崩壊』中央公論社

H. ニコルソン『外交』東大出版会

H. J. モーゲンソー『国際政治 I II III』福村出版

坂野正高『現代外交の分析』

J. フランケル『国際関係論』東大出版会

評価方法：1. 出欠をとる 2. 前期試験はレポートとする 3. 後期試験はペーパーテスト（提出課題、試験等）とする。以上の3つの総合評価で採点。なお、予習が必要であり、各自報告してもらうこともある。